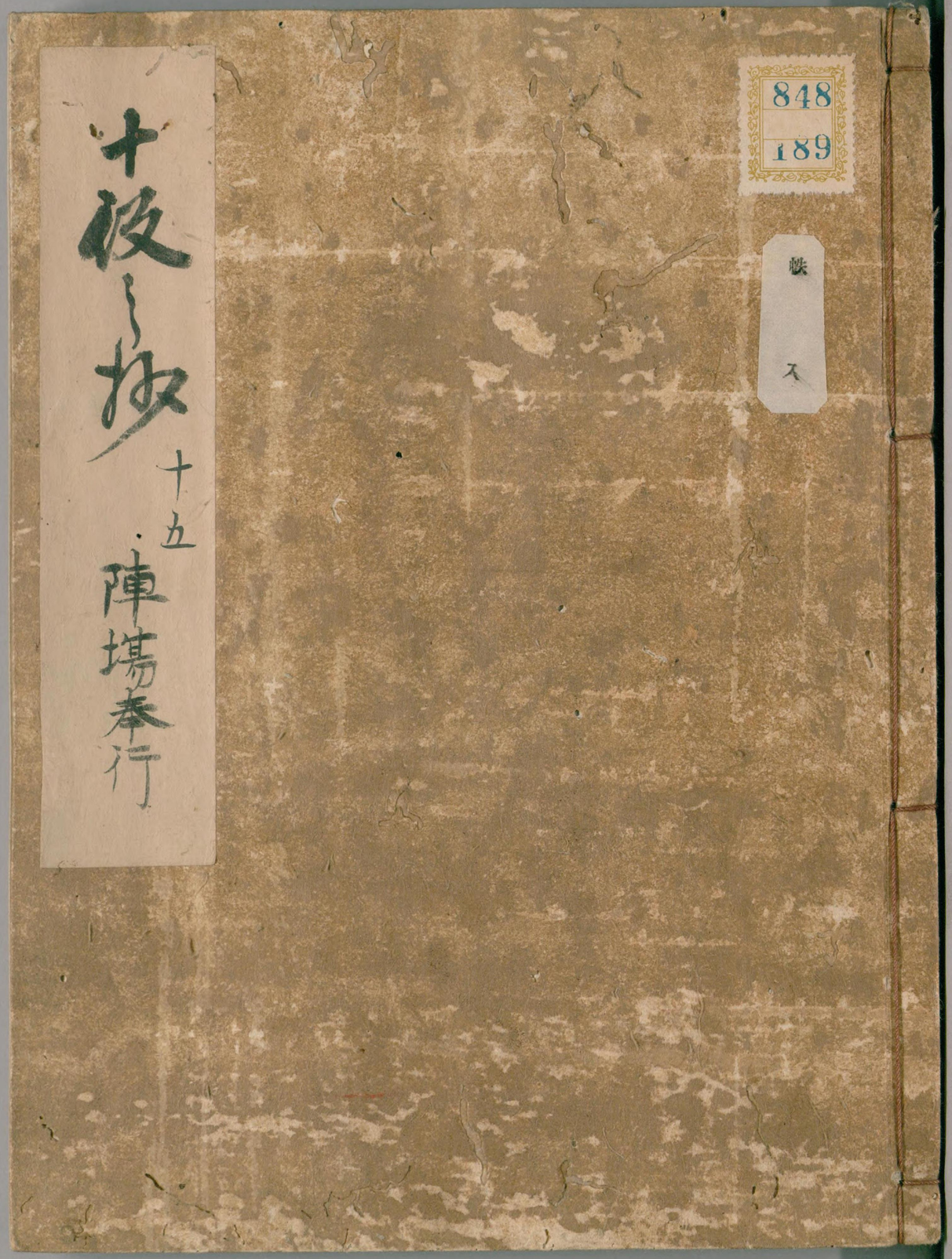

十役之抄 十五 陣場奉行

848
189
献
入

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

ガラス使用

十役之抄　追加之内

陣場奉行之巻

附　普請方　作支方

自解

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

ガラス使用

808
189

九十章

附章六十箇

令七十箇條辨論之

享保弐仲夏日仵旦享保六季穐成

伯赴作之

第二

陣場奉行

并ニ普請奉行

作支奉行

陣場奉行

陣場トハ軍ノ用ニ供スル事

支兵ノ動スルトキハ必ス休ム所アリ是ヲ営トス

其陣営ノ法不整トキハ敵必ス是ヲ撃或ハ不

討トス〔ヒ〕陣場不宜トキハ出動ニモ手廻シア

シク殊ニ敵国無案内ノ地ニ入テハ不意ノ難モアル

故ニ兵ヲ其便人ヲ定メ自他国ノ繪圖ヲ

預リ獨自他国ノ者ニ様子ヲ尋聞善悪険易廣
狹得失ヲ辨ヘ知且又諸軍ノ陣屋ノ積リヲナス
支兼ニノナラシナクテハ急ニ支ヘ「整シ何程ノ人
數ニハ何程ノ地ニ陣ヲ敷営ヲ結フトヽ云ノ積リ有支ヽ
軍法ノ巻序ニ云所ノ自他国ノ城取ヲ取堅メ陣取
ヲヨリ取敷備ヲヨク立設クルヽ是武畧ノ本ヽトヽシ武
略トハ内ヲ治ル丁ニテ此等ノ法ヲ常ヽニ内習レヲナ
スヘシ城取陣取備立テ後学ニツノ備トヽ其外
ニテ城取ハ君城ヲ初メ境目共ニ国郡ヲ守ル常
形アルノ備ヽ陣取ハ出動ノトキ野陣宿陣

山陣平陣共ニ必ス有支ヽ備立ハ合戦ヲ期スル
節其地ノ様子人數ノ多少ニ依テアル支ニテ中ニテ
陣取ヲ粗ク思フハ誤リニ、殊ニ大軍程営ノ丁ヲ
重ンス兵ノ気ノ休ル所ナリ怠リ生ス其法ヲ嚴
ニスルヽ末書所ヽニ見ヘタリ又軍法ノ巻ニ御出
陣前三箇條試ノ支トシテ第一其国ノ繪圖ヲ
内談ノ丁第二敵ノ人數同強弱内談ノ丁第三味方
イサムル誓紙アラハシテサスヘキ支トヽ云此ナラシトヽ云
ハ前ニヽ陣取ノ度量小屋ノ掛様等ノ作法ハ武畧
ノ内習ニ常ヽ定リテノ後時ニアタツテ出陣トヽ云ト

キノナラシニテ是ヲ後習（ゴウシウ）或ハ重習ト云 此トキ其
敵国ノ繪圖ヲ以テ積シテ八男一ニ合戦ノ場ヲ其場ヲ
察シテ第二ニ備立ノ場ヲ第三ニ陣取ノ
場ヲ験ヘシメ 陣取之場ヨクシテ 備立ノ場ニ至リ合
戦ニ及フ 是ヲ三日リ 其龍鞜（ママ）面頭書ニ云ハ見定
ル陣先ヲ三ツ一ニ陣取ノ場二ツニ備立ノ場三ニ
合戦之場ト云ヒ是ヲ戦ノ場ノ様子ヲ不知シテハ不叶
重キヲ如此ナレハ地形ノ学ニテ此所ニ述尽シ難シ更ニ
地理ハ兵法ノ半学ニテ知ヘシ 孫子十三篇ノ内ニテ地理ノ一ノ三篇アリ

故ニ武経 孫子講註ニ是ヲ委フス且ク其大
概ヲ解ニモ粗地理ヲ出スハ是ヲ利シ用ルハ兵法
ニテ争フ所之地ニ仍テ合戦ノ盤ニ常ニ心掛サ
レハ不叶ト知ヘシ 兵（ママ）動ス毎ニ陣取ノ場アリ
トイヘドモ是ヨリ兵地ヲ取敷ノ常ニ可論之者ニ
附リ

武田家陣場ヲ取ル其人品身代ニ幸
他家ニ陣場奉行ノ名目ハ不見當 武田家ニ
於テ本書下巻ニ廣隼人佐組衆五十騎手
前七拾騎合テ百二十騎ノ侍大将ニ御本陣ノ外

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189　　ガラス使用

張ニ陣取テ御陣替ノ時ハ夜中ニ出御旗本ヲ
初メ奉リ惣軍ノ陣場奉行原隼人佐ヒトヘシ
又結衆本九ノ巻ニヘシノ赴キ隼人親ノ原加賀守
(或時山伏来テ勝ノ曲尺ヲ教ル加賀守ハ城取
ノ習ヲ不存ニ依テ是ヲ以テ城取支ハ不成シテ
陣取ノ了ニ工支鍛錬シテ用ヘシ之山本勘助モ勝ノ
曲尺ハ兼及ナカラ不知ヲ原隼人ヨリ相傳シテ
則勘助城取ノ習ニ引合セメリトヘシ且右ニ依テ原
加賀守原隼人佐二代信玄公ノ弓箭陣場奉行
トアリ原ハ御譜代家老衆ノ内ト軍鑑備定也

巻ニアリ自分ニ七十騎ヲ持ホトノ身代ナレハ餘ホ
トノ侍大将ニ組衆五十騎ハ在郷近習或ハ外様近
習トヘシ是モ譜代ノ小身ノ侍ニ合テ百九騎ナレハ必ス
一手ヲ別手ニシテ二備ヘトヘシ備ヘテハ甲及流定法
ノ如ニ其組衆或ハ自分騎馬ノ内ニテ陣場奉行ノ
下役ノ段ニ有ヘシ凡ソ陣場ノ度量ノ樞要ヘシ支
ハ隼人佐カ心ニアリトヘシ凡何人ニハ小屋何間トヘシカコ
トキノ細カナル分数ヲスヘシ且其内常ニノ雑支等ア
ルヘシ其下ノ小役人品ニ有ヘシ支不及ヘシ故ニ二代
相續シテ陣場奉行ヘシ地理ノ案内時方ノ

人数ノ惣分数度量等常ニ真任トシテ預リ其下役人
等迄兼テ諫習セルニ増テ隼人佐カ心掛宜キヲ以テノ
故ト一端ニシテ自他国ノ地形ヲ知ルコハ難カルヘキシ
陣場ヲ作リ備行営ニテ居所ノ支
右ニ云原隼人佐親以来ノ陣場奉行スルニヨリ戦場
ニテ討死等アルハイカヽト有テ信玄公ノ代ニハ大方
尤服備ノ頭ニ備ノ勝頼ノ代ニ成テ備違ニ冬忍長篠
合戦ニ隼人討死スルニ行列ノトキハ惣軍ニ先立支ニ
三里ニシテ陣場ヘ早ク参着シ其地ヲ見テ陣場或ハ
陣具ニ渡スノ度量ヲナスニ治世ノ旅行ノ宿割ニ

役人一両日ニ三日先ヘ発足スルカ如クニハナラサルコト
若途中ヘ敵出ルトキハ二三里跡ヨリ来ル時方ヲ待
ケル間敵ヲ防クニハ人数ナクテハ不叶ニ故ニ百二十騎
ノ侍大将ナレハ雑兵共ニ人ノ餘ヲ此外道作リ人足
等皆陣場奉行ニ随テ先ヘ押支ニ又陣取ノ場ニテ
ハ先手ト旗本ノ間ニ在テ諸陣場ノコヲ統司ルコト
笑ニハ備ニテハ服備行列ニテハ真先陣取ニテハ真中ニ是
信玄公ノ陣場奉行原隼人ニ任セテ其人ノ用ニ玉ヒ
毎陣如此タルノ跡ヲ以論之

武国家陣場ニ於テ常ニ勤ル所ノ事

原隼人佐ハ常ニ奏者ヲ勤メ他国ヨリ来ル衆ニモ應對シテ地形ノ様子ヲ聞出家社人町人地下人等不及云猿引サヽラ摺等ニテ自他国ノ様子間道以下ノコトヲ問聞ニ便リアルガ如ク仕ヒ且自他国ノ繪圖ヲモ預リ常ニ思案工夫シ一家中大中小身ノ人數高ヲ知テ出陣人馬ノ度量陣所ノ様子ヲ分別シ其所ニ行アタリツカヘナキ様ニ幾重モ了簡ヲナスコト跡部大炊助モ奏者タリトイヘ共隼人佐ハ又別格ニテ勤ル所ト云キ常ニノ様子如此ヲ知ヘシ

仕家といへども陣場ニ於テ似たる役ヲ二有之ヲ用ヒヘき事

新品中興源記 天正十八年小田原御発向ノナラシ

神君ノ御備定ノ書所ニ福嶋織部朝比奈弥三左衛門山本帯刀此三人ハ御陣屋掛(カケツヾリ)造或ハ先衆ニ之手衆服御後迄陣場相渡ス役シ陣取ハ武者奉行御旗奉行本多佐渡牧半右衛門阿部善右衛門此三人ハ御旗本先衆迄何ニテモ申上ルコト言上ノ役シ陣屋ハ(カタ)三人御陣屋ノ近所ニ罷在シ付リ板倉四郎右衛門浅井雁(カン)兵衛黒田半右衛門此三人御旗本衆先衆御服備

御後備六カシキ出入ヲ能聞届扱ニ下ニテ不済ハ佐渡
善右半右へ申促シトゝシ是ニテ考フルニ久嶋朝比奈本
三人ハ武田家ニテノ原隼人佐ヨリハ様子軽キシ依之真
外ノ衆中立合ノ支ノ様子ト見ヘタリ賀府等ニテ
大坂陣等ノ時ノ様子ハ不知ニ當時出銀奉行ノ人持ハ
惣侍中ノ知行高ヲモ知ラシ是ニ拠者ヲ兼テ寺社奉
行ヲ兼自他国ノ通過預リ普請作支ノ惣司ヲナ
サハ甲及ノ陣場奉行ノ如シ此定メナシトゝ云ヘ共必ス
陣場ノコトヲ惣シテ司ル役人ハナクテ不叶支シタト
ヘハ當時江戸御住来ノ節御道中方御用ノ頭中ハ
御在江戸中ノ下小屋ノ割等ノ支ヲ司ルカ如シ
支サヘアレニ猶陣中ノ支ハ大キナルヒ陣場奉行ノ如キ者ナリ
違フヒ陣場奉行ノ如キ者ナリ
次ニ論スル趣キ共ヲ以テ押テ可知支

第二
一陣場奉行可存弁功の事
末書下巻下ニ三ニ陣場奉行ニ口傳七箇條ヲ
支ト出ス其趾キ但其品ヲ本文ニ付テ武臭解之一ニ流ヒニル河原石色ニ
心付ヘシ付リ流ノ上口傳有是ハタトヘハ武及ノ神奈(カナ)
川ノ如キハ常ニ水スクナシ大水出レハ大河ト十ル故ニ

川原廣キハ必ス大水出ルト知ヘシ石色ハ早キ川ハ水出ルホト石清シ遅キ川ハ水出ルホトハ石ニ塵芥カリテアリ且又一国切ノ川上ノ山ノ近キハ出水ニテモ早ク出早ク水落ル信玄屋川ノ如キハ木曽ヨリ經テ下ハ越後ノ新潟ヘ落ル山深キニヨリ常ニ水多クタトヘ出水ニテモ遅ク水落ルシ如此心ヲ付テ河ノ源ヲ察シ河原ノ様子水ノ流レ真外ニモ心ヲ付レハ知レナリ日本ノ大河トテモ數少ナシ其職タラン人ハ必ス詮議シテ知ヘキナリ肝要シ依之俄ニ水出ヘキ川原ナトノ地形廣キトテモ陣ヲ敷ヘカラス

ト云俄ニ信玄公伊豆ノ三嶋ニ陣ヲ敷津波ニ逢テ難儀タリシ夏等ヲ考ヘ知ヘキシ二ニ山ニ心ヲ付ヘシ附此方彼方ノ俄ニ口傳有之ハ原加賀守ヘ山伏ノ教ヘタルシ一方サカシキ山ハ一方ハ必ス少ナルキモノニシト心得ヘキニ陣ヲ敷ニ喰ヲ頼ムホド一方ハ易キ地ナルヘシ三ニ山際ニ心ヲ付ヘシ口傳有是ハ山ニヨリ崩レ所アリ或ハ山陰ノ湿気深キ地アリ如此地ニテ陣ハ敷難シ高陽ノ地ヲヨシトスルシ四ニ人數カサニテ所ヲ心付ヘシ口傳アリ是ハ大人數ニテ狭キ場ニ少人數ニテ廣過タル場ニハ陣ヲ敷難俄シ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

故ニ常ニ何程ノ人數ニハ何程ノ場ト心ヲ定メテ
覺スヘキ事ニ候ヘ共是ハ定テ是ハ足入
ノ地ノ際ニ陣ヲ數箇夜軍夜討等アルヘキ踏落
シテハイカヽシ昔平家ノ人數義仲ノ爲ニ俱利迦
羅ノ谷ヘ落メラルヽ如キニテ候ヘキ六ニ川ノ遠キ
近キニ心ヲ付ヘシ口傳有是ハ小流ノ川ノコト陣中
ニテ井戸ヲ穿ツ支モ叶ハサルニ流水ニ便テ其水ヲ
汲テ用ヲ便ス故ニ其水ノ源ヲ了簡シ毒水等ノ
気遣ヒアルコト信玄公相模及深澤ヘ働入ヘキ前ニ
仲間頭兩人ヲ遣シ靈山ノ水ノ滴リヲ積ラセラレ
諸軍勢ノ水用不足ナキヲ知テ後働入玉フカ如キ味
ニアリ七ニ敵ノ見ヘキ場或ハ小高キ地ナトアラハ此
方ニ陣ヲ取ヘシ或ハ大木ナトト有テ其木ヘ登リテ見
ヘキナトアラハ切テモ捨ヘキニ付リ敵味方ノ好場是
ハ軍場ニ近キ処物陰アルニ敵方ヨリノ利スヘキ処カ
味方ヨリノ利スヘキ処カヲ察スヘキニ取出場是ハ
此方ヨリ取出ヲナセハ利アルヘキニハ先立テ其地ヲ
取ルヘシ信玄公駿及薩埵山ニテ北条家ヨリノ取出ニ
ツヲ即時ニ乗取リ時方ノ利トセラルヽカ如キ肝要ノ
地ヲハ敵陣ヘ不渡ノ心得ニテ夜合戦火見セ場是ハ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

敵若夜軍夜討等ヲナストキ其陣ヨリ火ヲ立ル時ハ
諸陣ニ立ツルニテ知ル其火見セ場物ニ隔リ障リテ
諸陣ヘ見ヘ兼ル時ハ用ニ不立ル故ニヨリ諸陣ヘ通ス
処ノ心付ヘキト右是等ハ大カタ陣場奉行ノ士支
思安キ分別仕ラルヘキ儀ト何モ傳有トハ云ヒ是ニテモ知ヘ
ク此外地形ノ工ハ孫子ニ委シ武貞講註ニ委之且武貞
足支之抄私解作候之巻ニ委ク出之トハ云ヘ陣取
樞要ノ法ハ此前後ニ悉ク論之

附リ

陣屋度量大小ノ積ル法不知事

惣テ陣屋ノ梁間ヲ定メ二間張トカ九尺張トカ定ムヘ
シ二坪ニ人三人アメリニスヘシトタトヘハ百人ノ小屋ニ間
梁ナレハ三十三間ト云カ如シ此積リニシテハヨキト寛文
吹ヒ狭キカ故ニ百人ニハ三十五間ホトニテハヨキト寛文
三年 家綱公日光山 御成之記ニ出之小屋積リモ
如此ト馬ハ一間ニ一足立ノ積リト二間梁ニテモ九尺
梁ニテモ一間ト番所ハ一間梁ニスヘシ或ハ頭武者ノ
役儀ヨリ吹ヒ居ル所廣ク入ヌモ有ヘキト但六奉
行ノ如キハ別ニ役所ヲ立ル又ハ此大積リヲ根ト
シテ一人ヒトノ積リヲナスヘキト令儀解ニ曰凡テ兵

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

十八十人ヲ爲二火一云シ是十人ニテ食ヲ一所ニ調ヘテヨキ足軽以下ノ小屋ハ十人ヲ一団ニスルカ如シ此法ヲ知テ一両人ノ過不足ハ様子ニヨルヘキ但シ令義解ニ曰火別取白丁五人充(アツ)ニ火頭一云シ是一火十人ニ隨フ所ノ白丁ヲ又曰火別充二六駄(タツカウ)馬一云シ是ニ又六人ノ口傳有ヘシ焚レハ一火ノ人數十一人ニ三間梁七間又六足ノ馬ニ六間合テ十三間ノ小屋トナルヘシ毎火紬ノ布幕一口小釜二ツ鑿草切斧小斧鎌鉏大鑽ナト各指添小屋具ナリ是等ノ古法ヲ知ヘキ支ヘ扱如此ク所ハ古法ニ依テ小屋積リノ本元ヲ云ヒ大積リヲ云時ハ一陣取ニ六七千ノ人數ヲ云ヒ又ハ五百人ニテハ一陣取ノ篠垣ヲ囲ヒ週シテ守之支整ヒ兼心ヘセメテ二三千人ヲ一囲ヒトスヘキヘ又一万人ヲ一囲ヒノ陣取ハ法修メ難キヘ此大小ノ度量ヲ知ヘキ支ヘ

陣屋ノ格子并篠垣ヘ事

著陣シテ小屋ヲハヤ掛心ニアラス野陳ヲ張テ後五三日モ過テ次第ニ小屋ヲ掛ルヲ人ニノ用意ヲナス支ナリ篠垣ハ惣週リニ囲ヲナス陣屋見分アシク且其一陣取ノシニリノ爲ヘ敵ヲ防ノ爲ニ非ス故ニ陣屋ト陣屋ノ間ハ道幅三間トシ陣屋ト篠垣ノ間ハ五間ニスヘシ陣

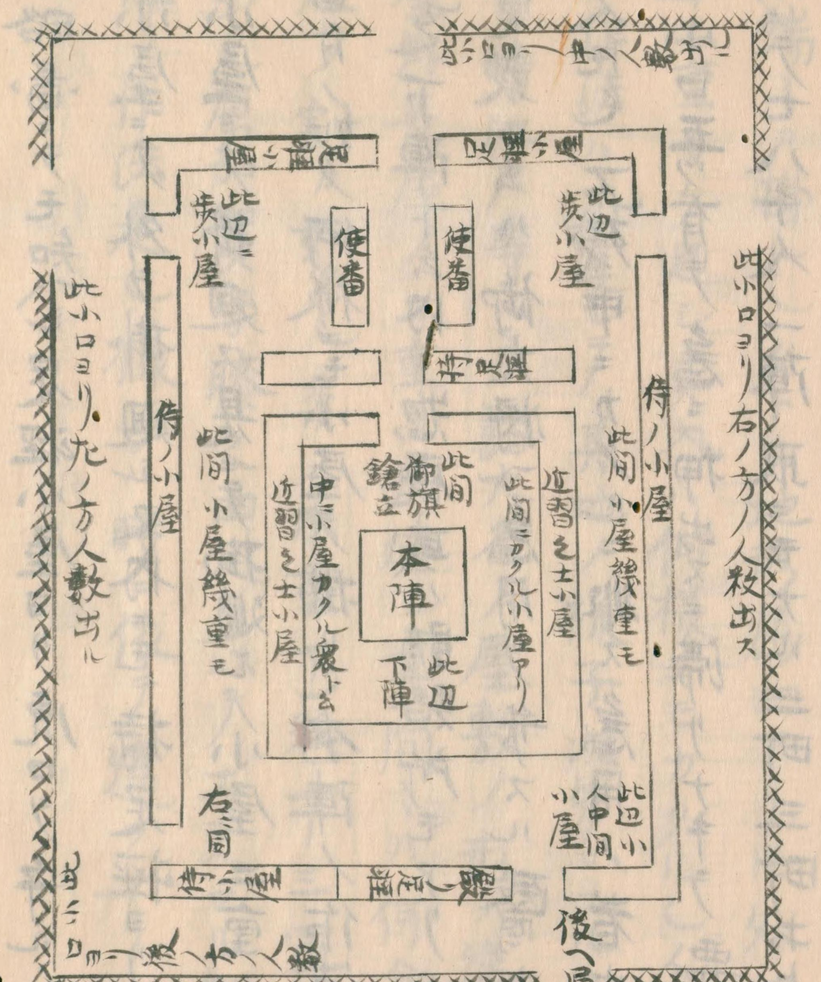
国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

場人ニ奇麗ニスル様ニ下知アルヘキ近年大坂陣天草
陣ナトノ節ハ陣屋ヲ主人ヨリ掛テ渡シタル大名衆モ
アリトゾ聞シ左様ノコトハ時ニヨルヘキコト戦国毎陣
其如ノナル者ニアラス人ニノ用意タルヘシ
陣屋ヲ掛ル地其住ニ地或ハ跳ヲ外張の空地或ハ跳
込の空地等心得ヘキ事
陣屋人馬ニ依テ積リハ前ニ云往来ノ道ノ支モ前章
ニ云ル所ニ道幅廣ク割残ス所モアルヘシ様子
ニヨリ人馬込合或ハ往来ニワカニル所等ヲ筒スルコ
トヒ如此ニテ外ニ篠垣ヲ結廻シ一陣取トス此度量一
陣取ノ人數ノ三倍ノ地入ヌヘシ仮ニ千ノ人數ニハ三
千歩ノ地ニ陣取ヒ其外ニ空地アルヲ跳出トゾ一陣取
ノ人數ノ出テ備ヲ立ヘキノ空地ヲゾ云ヒ千ノ人數ニテハ
一歩ニ一人立ニシテハ千歩ノ地ヒ又外張ノ地ハ岩敵夜
討等ヲ仕掛ルナラハ陣屋ノ囲篠垣ノ外ヘ出テ防戦ヲ
要トス此空地ヲ刈ヒ跳出外張共ニ三千歩ノ一囲ノ陣ニハ
又三千歩ノ空地入ヌヒ其篠垣ノ小口ノ外ヲ跳出トゾニ
ヨリ内ニ次ヒノ空地ヲ跳込トゾヒ城門ノ外ヲ馬屯内ヲ
武者屯トゾカ如キヒ是等ノ作法ヲ知テ地ノ廣狭人數
ハ多少ヲ知テ的當ヲ計ヒヘキヒ故ニ其大概人數千

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

六千歩ノ地百間ニ六十間程ノ地ニ此割ニテ幾ト
二千人ニハ一万二千坪ニテ二町四方ニ不足地ニトカク
六倍ノ地ニテ人馬ノ小屋モ蹴出シ外張ノ空地迄海辺
三千ノ人數ハ二町ニ二町半四方ノ人數ニハ二町半四方余
五千ニハ三町四方バカリ六千ニハ三町四方余七千ニハ三
町ニ四町バカリ八千ニハ三町半ニ四町バカリ一万人ニハ四町四方
餘一万五千ニハ五町四方バカリ二万ニハ六町四方バカリ二万五
千ニハ六町半四方バカリニ三万ニハ七町四方余五万ニハ九町四
方余ニ皆是地ノ廣サヲ云其度量ノ大數ヲ知ンタメ略
ニテ歩ヲ着ス

方向の陣丸伝知へき事



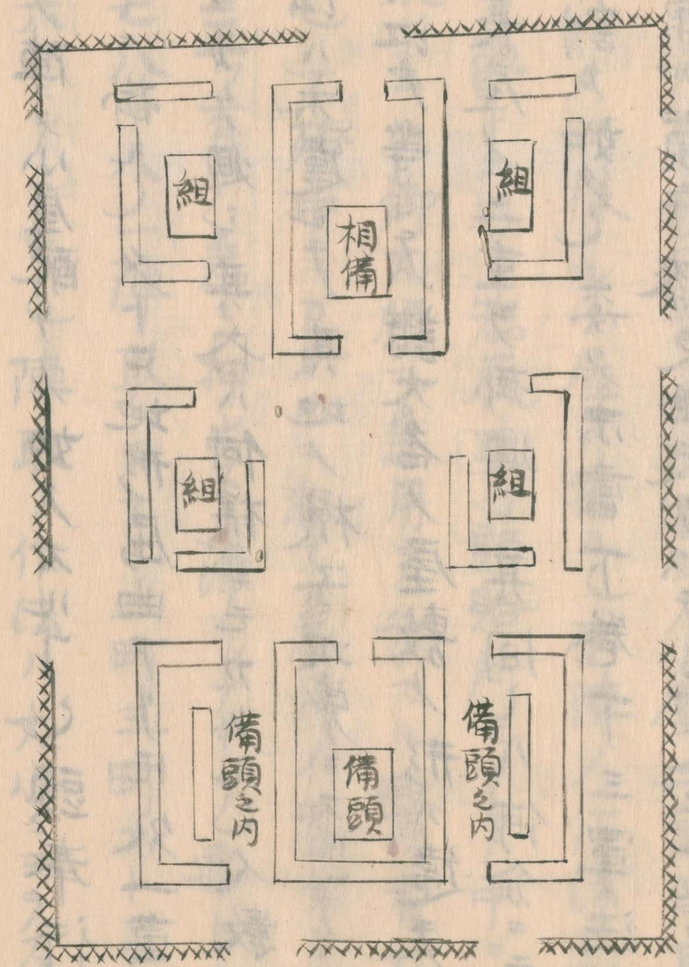
国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

此略畫ニテモ知ヘシ足痒小屋ヨリ虎口ヲ守ルヘシ又ハ
ノ小屋ニテ外ヲ掛廻シ又内ニモ持足痒ヨリ近習ノ侍
ノ小屋ニテ掛廻ス是ニテ掛廻シノ小屋二重ヘシ其間ヘハ
書付ノ如ク何様ニモ小屋ヲ掛ルヘシ本陣ノ作法ハ別ニ未ニ
出ス下陣トハ惣厩或ハ賄賂所モアリ中ニ陣屋ヲ
掛ル衆トハ御大将ヘ急用ヲ弁スル醫者乃至細
工人モ不残中ニカクルニ非ス急用ノ者共ヘシ篠
垣小口五ツ有テ急ニ押出スニ滞リナキヲ要トス此作
法ニテ七八千人一陣取ニモナル二町三町ホトニテ虎口
五ツカ六ツニテヨキヘシ陣取ノ作法ハ大小ニヨラス皆此

方向ノ陣ノ小屋配リノ如クスルヘシ頭奉行小屋
ハ端ヘニ掛ルヘシタトヒ地形屈曲アリテ外一重内一重
ト二重カケ廻シ其内ハ何様ニモカクルヘシ人數配前後
ノ作法ハ不違シテ其地ノ様子次第ニスルヘシタトヘハ
當時江戸等ニテ諸大名ノ屋敷ノ形ハ違テモ内長
屋外長屋ノ二重ヲ掛廻シ其間ヘハ何分ニモ下小
屋ヲ割カ如ク委ノ末書下巻下三軍法之巻ニ
出ス原加賀守藤之曲尺ヲ以テ工夫セル処ノ方向ノ
陣ノ作法是ヘ様子ハ時ニ依テ違フヘシ

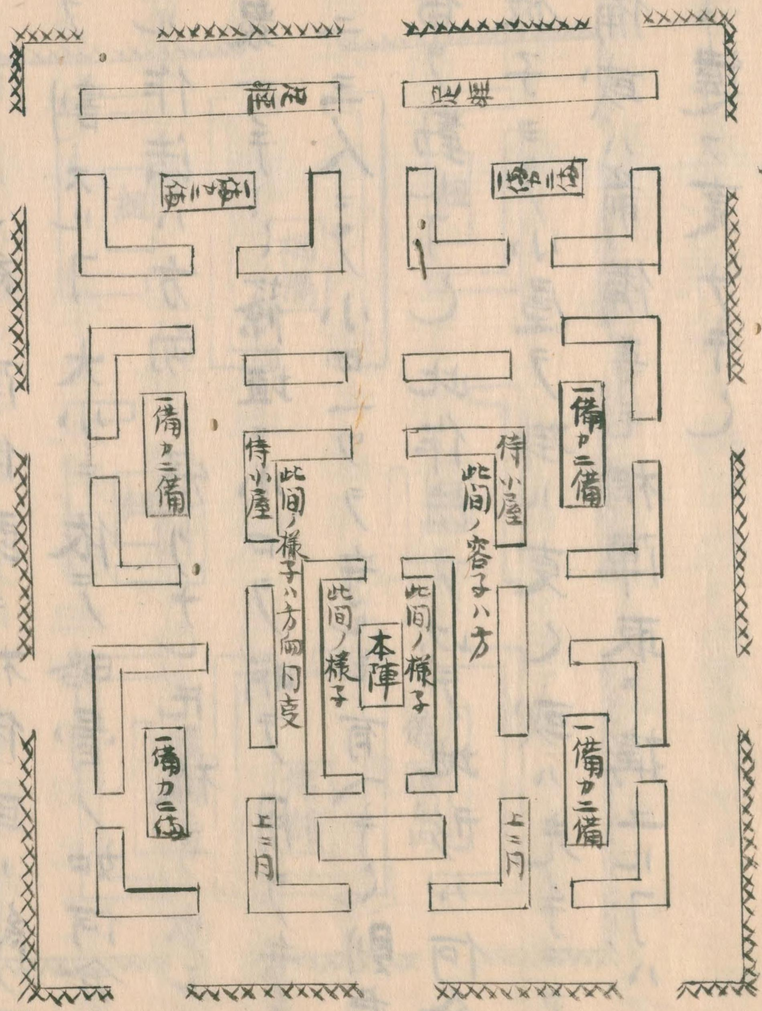
国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

相陣取し仕法之方向の如ク
遠ク本



タトヘハ先手一組ノ陣備頭ヲ相備或ハ組ノ面々ノ小屋ヲ割スルヿ大小ニ依テ略圖ノ如何分ニモ小屋掛ル作法ハ方向ノ通りナレ共様子少シ違ヒテ組衆一手ニ篠垣ニ小口ヲ明テ用ヲ弁ス或ハ組衆二三人ニテ小口一ツヲ守ルモ有ヘキシ則虎口内外ノ番ヲ勤ルヿ此作法ヲ以テ地形ハ何分ニ違フ共様子ヨリ小屋ヲ掛ル支ヘシ或ハ先手ニアラス共脇備或ハ前備等モ相陣取ニ擬ルヿハ右ノ作法ニ違フ支ナキシ

大陣取ノ奥雛陣ヲ立ル事



人数一万余モ一陣取ニスルトキハ三町ニ三町半ホトモアルヘシ此トキハ篠垣ヨリ出ル虎口十二三モナリテハ急ナルトキノ出動手ツカエテ不整シ此境ヲ知テ習トス奥雛ノ陣取ハ信玄公ノ立ヲシ旗本ハカリニテハ方向ニテ宜シ前備迄ヲ入テ一陣取ニスレハ大陣取シタトヘハ賀府ナトノ御人数御馬廻十二組ヲ相陣取ニツホトニシテ號ルヘキナリ左アルヲ様子ニヨリ御旗本ト一所ニ陣取等ノトキハ此略畫ノ如クナルヘキシ小屋数多クトモ道ノ付様且虎口ノ明様ニテ手組ニヨキシタトヘ地ノ

形ハ何分ニ遣フトモ作法ハ如此シ

山陣或ハ陣城ニ差列シ事

平地ニ陣ヲ敷ハ右ニ云カ如シ能山アラハ則本陣ヲ居ルヘシ山ハ地峻ナルユヘ陣取モ城ニ似タリ故ニ山陣取ヲ陣城ト云ト雖書下巻三ニ出セリ依之平易ノ地ニテモ本陣ノ掩ヘキ少シ念ヲ入レハ陣城モ云トシ然ルニ本陣ヲ掩レハ地ノ様子ニヨリ上下ノ城坂敵方ヨリ見ユルニ依テ後ロカ脇ノ方ヘ虎口ヲ付ルヘシ其時ハ御大将ノ御近習ノ人ニハ不及云六奉行等ノ専勢ノ役人ハ其本陣ノ虎口ヘ近キ様ニ小屋ヲ掛ルヲ要トス外様ノ侍足軽等ハ法ノ如ク前後左右ニ小屋配リ有ヘシ是等ノ品ヲ知ヘキ事

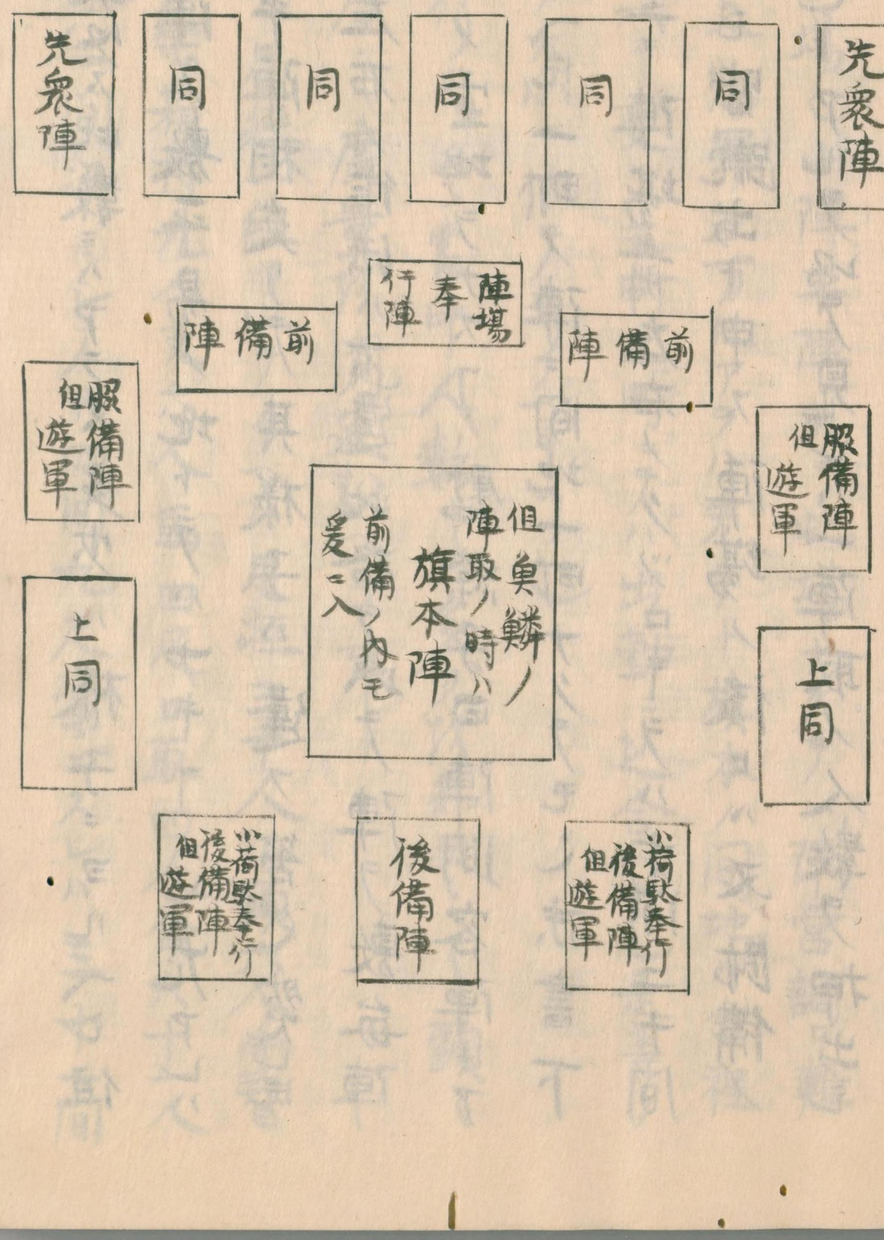
地形ニ依テ陣営ノ形ヲ遠ヨシ甲沢流ヨハ折レ陣畳ヲ云ヒ必ヲハツヨ限ニヘラヲ云ヒ

末書下巻下三ニ方円曲直ノ容子ハ様ノ形ヲ出ス畳断ニ種ヽ様子替ルニテハナシ堅崖(ケワ)深田各指合ニ付テ繕畳ノ如ノ様ヽ斜テモ取ヘシソコヘ行アタリテ必ス アクム云ニシキメノ如此ナル

支トアリ是ニテ知ヘシ山陣取平陣取尼ニ陣屋ヲ掛ン作法ハ方角ノ陣取ノ通りし惣軍連陣取仕法左ニしるす

先手前駆後備各中軍ノ陣ヲ取廻シテ分ニ篠垣一囲ミシナスコトし遊軍ノ陣取ハ別テ一囲ノ篠垣ヲナサス駆備後備等ノ陣取囲ノ内ヘ交ヘテ小屋ヲ掛ルナリ是他所ヘ働クトキ跡ノ守リ不欠ヲ要トスルニ付し連陣ノ大概左書下巻下三ニ云趣ハ

一圍各篠垣し内ニ小屋割アリ



国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

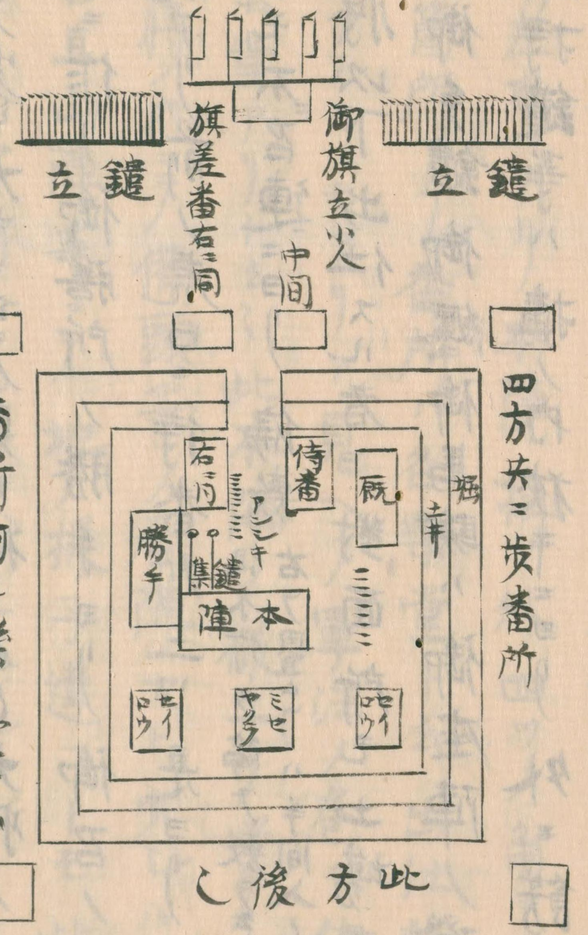
此陣數必ス此數ニハアラス多少ハ様子ニヨルヘシ但
如此ノ陣ヲ敷平易ノ地トテハナキコトシ尤アレハ
山陣平陣相交リテ其様子ハ不違筆シ難シ
前後左右ノ作法ハ不違此格ヲ以テ陣ヲ敷毎陣
ノ蹴出ノ空地ヲナスコト慰絲子曰陣間容陣ト云
リトイヘモ一町ノ陣ニ間地一町ナクテモ宜シ未書下
巻下三ニ陣場前左右ノクツロキヲハ十間二十間
三十間モ皆蹴出ト申ス陣場ノ後ロハ又跡備ノ
蹴出シトアルヲ以テ見レハ一陣取ノ人数ヲ押出シ
モスルホトノ空地シ扱同書ニ陣場左右五町十町
十五町迄モ是ヲハ外張トモトアリ然レハ惣軍ノ出テ
防戦ノ場シ山陣平陣共ニ此場ナクテハ陣営調ヒ難
キシ且又惣軍五万モアラハ先手ト旗本ノ間地ハ余程
多ク明ヘキ哉シ五町三町ニテハ出動ニ込合ヘキシ是等ノ
様子ヲ大小ニ依テ考ヘヘキコト
陣場ノ事
一、家中人数シ多少ニ依テ陣屋シ度量ヲ定ムヘキ事
ヨリ陣屋ニテ
タトヘハ足軽一組ヲ以テイヘハ足軽三十人小頭六人手替
六人玉薬箱持九人ト支六人馬四足口取四人合六十一人
此陣屋二間梁ニシテ九四間九尺梁ニスレハ三十一間

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

但両様共ニ人ハ二坪ニ
三人馬ハ一間ニ一足ト云ヘ　ト積り或ハ侍一組廿五騎ヲ一騎ニ付
上下十五人馬二足ナラヒ　但是ニハ身代不同可有之實ニ積ルト
キハ一騎ヲ三ノ身代ニ依テ上下何人馬何足
人丈何人丈馬何足ト取何人合テ何人何足陣屋
乙人合テ何百人何十足ニテ陣屋何百間ト積り立外ニ頭大小共ニ合テ何ホ
ト〻ヘカ如ノ積ルヘキナリ　ニシテハ人數三百人馬五十足此陣屋間數二間梁
ニシテ百五十間九尺梁ニスレハ百八十四間ニシテ百五十間ト積り或ハ侍五
十騎一備弓鉄炮長柄旗各合テ全キ人馬七百五十人
百十足此陣屋二間梁ニシテハ三百七十間　但一備ト云ニテ
九尺梁ニシテハ四百五十三間　但十間ノ過ヲ入ル
一分〻ノ積リヲシテ取一間ノ篠垣ノ内ノ人馬
惣高何千人ニテ小屋何百間ト積り雪隠ノ

地或ハ往来ノ道或ハ蹴出ノ空地共ニメトヘハ二千ノ人數ニハ
六千歩ノ地人數ノ三倍ノ數ヲ陣場ト定ムルカ如ク誰カ一手篠垣一
囲ハメトヘハ九千歩ノ地ナレハ百間四方ハカリニテ支足誰カ
陣場ハ一万二千歩ノ地ナレハ百間ニ二町ノ地ニテ支足ト陣ノ
度量ヲ察シ蹴出ノ空地ヲ了簡シ其陣場ト前後左
右ノ計ヲ大縄ニテ割渡セハ其内ニテノ小屋ノ小割ハ其
手〻ノ六奉行ヲ初メ役人ノナスコト此心定ナクテハ急ニ
支調フヘカラス猶其實ヲ云トキハ方角魚鱗相
陣取等ノ法ニ依テ各實ノ人數ニ合セテ小屋割ノ
畫ヲ作リ頭〻ト云談シテ兼テナラシ置ヘキ　一人合

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用



如番ノ知ヘシ 此間四方ハカリニ幅一間 但人ノ飛越ヌ丁不叶ホトシ ホト
ノ堀ノ穿其土ヲ以テ外ニ一間ホト ノ土居ヲ築キ

急有テモ諸頭役人ノ請得ナクテハ叶フヘカラス陣場
奉行一分ノ早功ヲナスヲ名トキハ誰何千人其陣場
何歩トナニテモ支スムトイヘ共實ヲ云トキハ前習セルニ
利アリ故ニ常ニ頭役人ヘ通談スヘキモノ也
大將ノ御本陣掫ノ事 諸手ノ侍大將等君陣
様ヲ有ヘキ事

其土居ノ上ニ虎落ヲ結外ノ篠垣ニ對シテ内ヘ虎落ト云シ其擣ノ内ノ後口ノ方ニ櫓棲三ツヲ上ル内一ツヲ少シ大キニシテ見セ櫓ト云シ大将ノ御座陣ヤ中ニ作リ御膳所ノ勝手ヨリ厩アリ前ノ虎口ニ侍番所二ツ是ヨリ内ヘ草履取モ不召連ニヨリ偏敷（但木竹ヲ編テ敷ヲ云右ヲ置ニハ手間入ル）ヲ用ユ侍大将以下出仕スル者ニ對面所モ土場ナリ編敷ア御手鑓御纏御馬験ハ御座陣ノ除ニアリ御旗持鑓等ハ擣ノ内狭キニヨリ外ニ訪ル御旗立御鑓立トシテ柵ヲフルヲ柵木場ト云旗指鑓持等ノ番所アリ且本陣ノ入口外ニハ小人中間ノ番所左右ニアリ本陣擣ノ外四ツノ角ニ歩ノ番所四箇所アリ番所ハ各樂堂トモ云出仕所モ樂堂ヲナスコモアリト見ヘテ軍法ノ巻ニ侍大将仮樂堂アリトモシ此本陣ノ様子ヲ以テ諸手ノ侍大将ノ内ニテ備頭等ノ居陣ナト次シハ此心持ル〻ヘシ且山陣等ニテ地ノ様子違フトモ此作法ヲ以テ様子ハ何分ニモ有ヘキ支シ本篇捨篇シ場心得シ玄ー

本篇ハ味方ノ出入ヲ改ル爲シ篠垣ノ内ニ焼ト心

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

得心ハ大キナル誤リニ虎口ノ外ニテ焼ヘキ足軽
焼ニヨリ其居心所等ノ地心得有ヘシ捨篝
ハ外張ト蹴出ノ間敵ノ来ル心ヘキ節ニ焼捨ル
故ニ御旗本ノ陣ニハ本篝ハカリニ様子ニヨリ
御旗本ニテモ捨篝ヲ用ユヘキ場アレハ心付ヘシ
若又御本陣前ニ焼ルハ稀ニ山陣等様子ニ
ヨリ焼ルモアルヘキカ

張番所諸處心得有ヘキ事

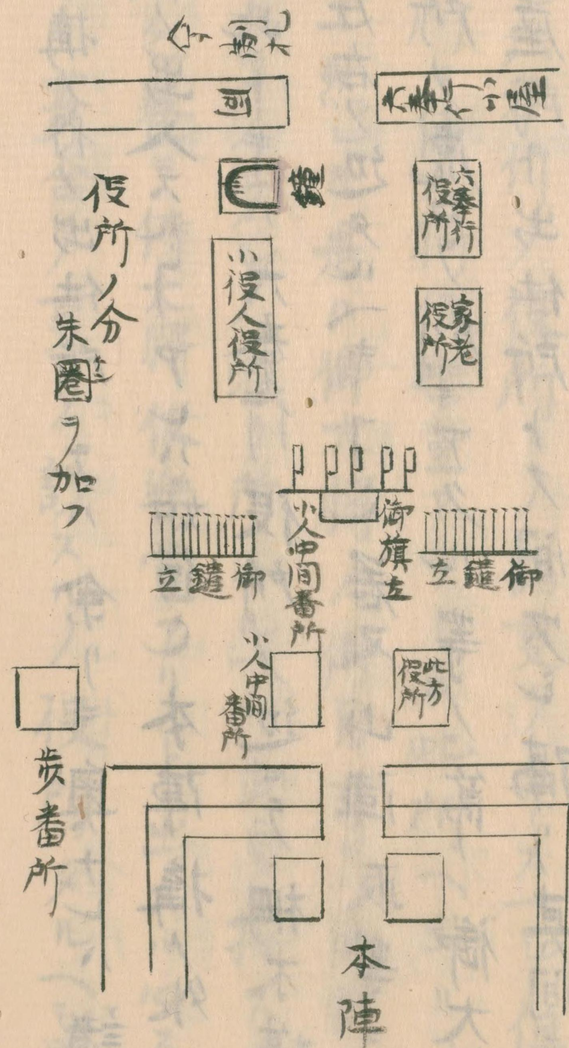
所ニ事

張番所何モ樂堂ニ本陣掩ノ内ニテ二箇所
侍ノ番所頭共ニ外四ツ隅ニ歩ノ番所頭モ
ニ又柵木場ニ番所三ツ小人中間番所頭モニ
此外篠垣ノ虎口ニノ内ニ張番所則足軽一組宛
頭共ニ本篝ノ下迄勤ヲ夜廻リヲ出ス此外
ニモ陣場肝要ノ諸所ニハ張番ナクテ不叶ソノ
肝要ノ番所ヲハ陣場奉行見定ルニ備又役
所ハ柵木場ノ外六奉行小屋ノ廻御右ノ方ニ六
奉行ノ役所ヲ造當番ノ目付横目モ此役所ヘ
出ルニ歩頭中間頭等ハ番所則役所ニ其内必ス
一箇所ヲ定メテ用支ヲ司ル當番ノ役所ト

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189　　ガラス使用

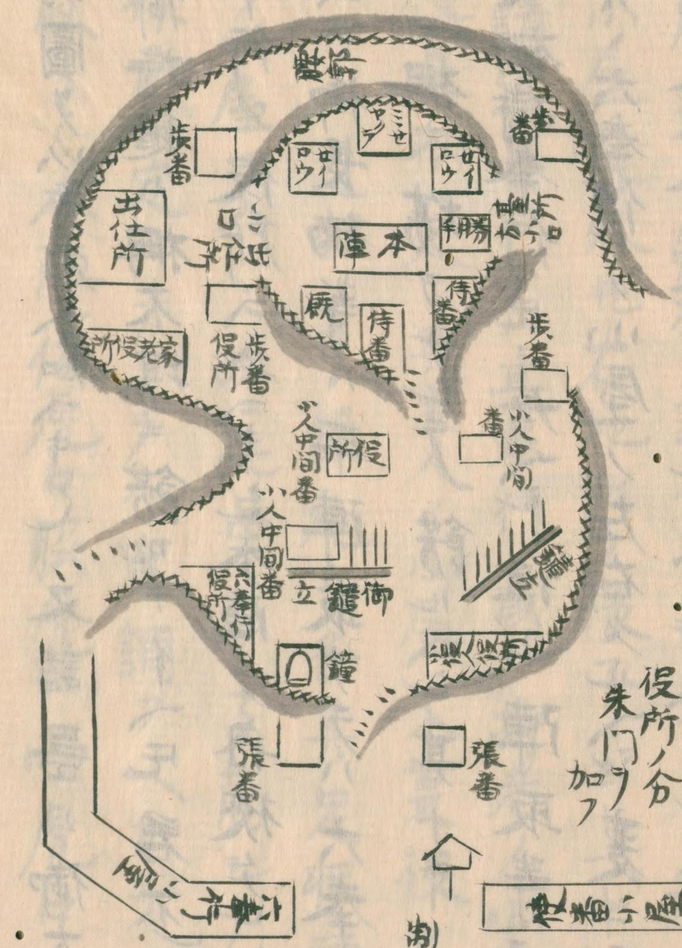
定ムヘキ此外小役人ノ役所等則六奉行ノ
役所ト一所カ或ハ其近辺ニ可有之ニ畢竟陣
中ノ諸用ハ六奉行所ニ統掌ニヨリ遠クテハ
支不調ニ家老等ノ出仕役所トテ陣中ニハ定リ
ナキニ六奉行ノ役所ニテ諸支弁スヘシ但シ
出仕所ニ侍大将仮楽堂アリト云此所ヘ出ルヿ
ナルヘシ然ニ是ハ御大将ノ御用有テ御對顔
等ノトキノ次ニノ溜リ所ナルヘシ武具按スルニ
軍法之巻ニ侍大将仮楽堂アリト出スハ必ス家
老等ノ寄合テ支ヲ議スルノ役所メルヘシ然ハ
本陣搆ノ内ノ出仕所ニテハ余リニ奥ナレハ諸役
人等ノ出入スルヿアレハ如何シ本陣搆ノ外タ
ルヘシ此トキハ六奉行役所ノ辺ニテ柵木場ノ
内外左右ノ辺タルヘキヿニ若又山陣取等ニテ
出仕所ノ虎口ノ別ニアクルヿアル等ノ節御大将
ノ御座所ト出仕所トノ間次ニ陽リ其間ニシ
テ所番等アルホトノ搆ナラハ則出仕所ノ辺
ニ右ニ云家老役所仮楽堂有ヘキニ軍法ノ巻ニ
ハ支ヲ略シテノ要シヲ而已出之ニ依テ考ル所
如此故ニ諸役所ノ作法相考ル趣キ大概畧之是

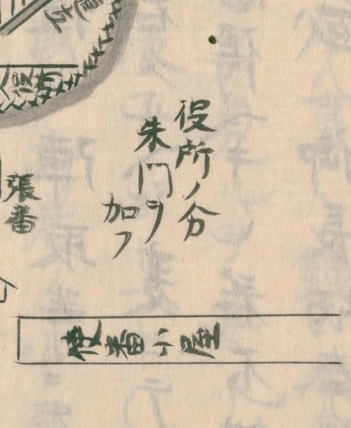
平易ノ地ノ様子ヲ役所ハカリヲ知シメノ畫シ



役所ノ分朱圏ヲ加フ

又山陣取ニテ様子違フヘキ一躰ヲ畫ス





下陣或ハ近習ノ用人小屋

惣厩或ハ臺所役人小屋

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

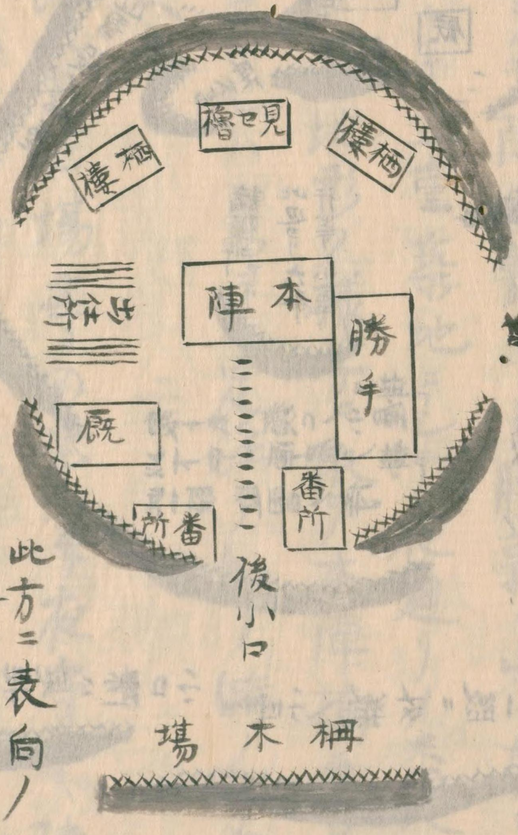
ガラス使用

右両圖ノ以テ考ヘ知ヘキシ　又諸軍ノ
旗御持鑓ハ柵木場ニ儕ルトイヘ(モ若不)儕トキハ
六奉行ノ役所ヘ入ヘキニ本陣ノ内狹ケレハ入ル所ナ
シ或ハ御長柄等ハ平陣取ナラハ六奉行小屋
ノ外ニ柵木場ヲナシテ儕ルヘシ其トキ張番等
ハ長柄持奉行モ居ヘシ但山陣取等ニテ様子
違ハヽ六奉行ノ小屋ノ左右タルヘキシ若不儕シテ
行小屋ノ外カ左右ノ辺ト心得ヘキ
納ルトキハ小役人ノ役所カ或ハ御長柄奉行御長
柄持小屋ハツヽケテ掛ルニヨリ次シ令慶ヲナシテ

其小屋ヘ入置心得タルヘキシ　貝太鼓ハ六奉行ノ
役所ニモ御本陣ニモ有ヘキ支シ鐘ハ六奉行ノ
役所ノ辺ニ制札ハ諸人ノヨク見ルヲ要トス六奉
行小屋ノ内外モ右地形ノ様子ニヨルヘキシ其外
普請道具以下ハ其奉行或ハ持者ノ小屋ヘ入ル
又役長柄ハ人ヽ其主人ノ小屋ニ入支役弓役筒モ
同シヿシ足軽ノ弓鉄炮ハ各其足軽頭或ハ足
軽ノ小屋ニ入ルヽ故ニ此品ニヨリテ其置所
ノ様子心定メナクテハ支調フヘカラス
山陣取ヨク本陣後虎口脇虎口西虎口或ハ腰

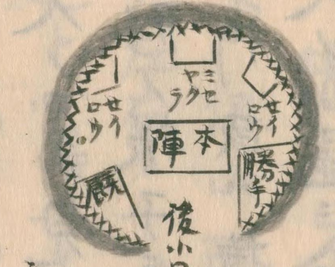
国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

郭二重築地等定法ハ初ク地ヨリ段々ニ菱ハ吋ノ
如クシタヽヘ本陣丸ク其外ノ小屋等ノ心得ハ左ノ
如シ



本陣
後虎口
曲輪

外様ノ小屋ハ作法ノ如ク
まゝこ小屋ヲ掛ル支
前ニ故ニ略之



外廻り何モ篠垣

六奉行ヲ初メ近習ノ役人等ハ皆此小口ヘ近キ様ニ陣場ノ後口ノ下ニ小屋ヲ掛ル

腰虎口
両虎口　之曲

但腰虎口トハ勝手口ニキハ勝手口ヨリ出仕ヨリ明ルトキハ両虎口トハ小屋配等ハ前ノ後虎口之曲ト通ニテ知ヘシ畧之

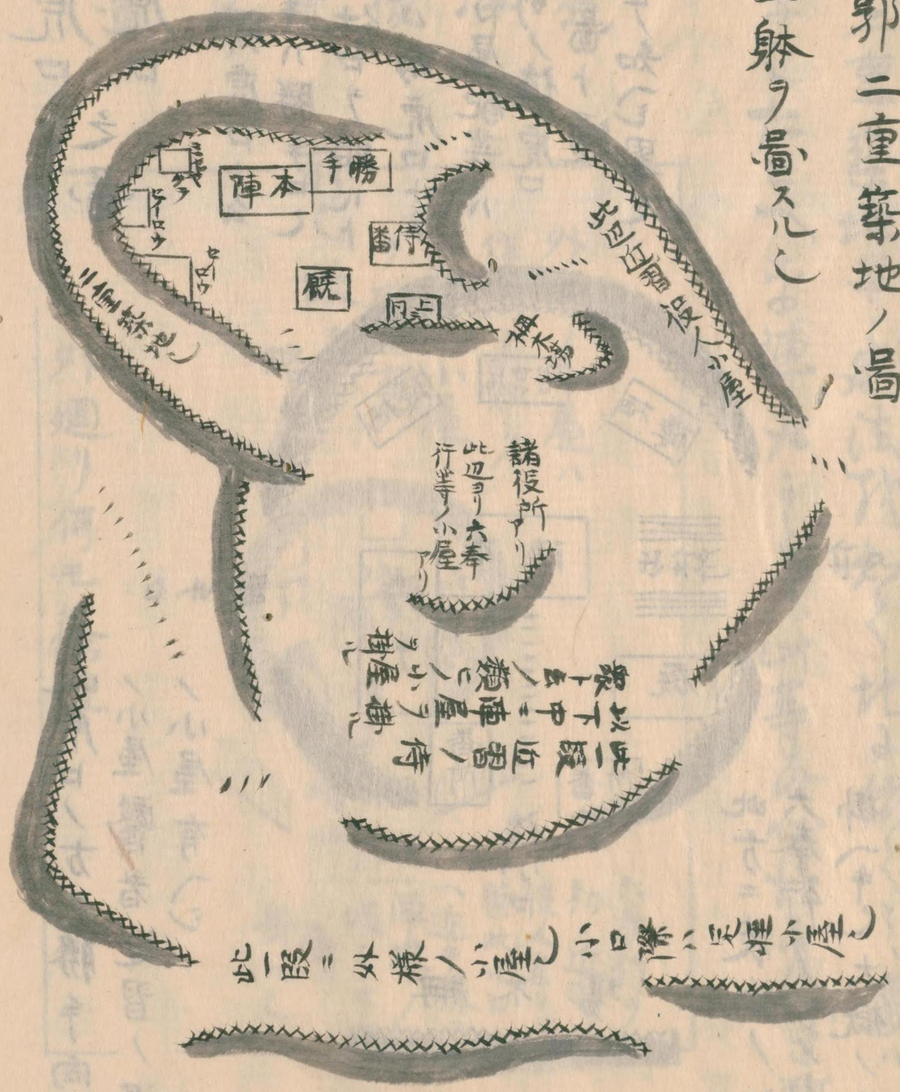
此虎口ノ方ニ勝手向ノ役人ノ小屋醫者近習ノ役人ノ小屋有ヘシ

此方ニ表向ノ役人六奉行ヲ初メ小屋ヲ掛ヘキヿ大概ノ曲ヿ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

腰郭二重築地ノ畫

一躰ヲ畫スル



右三畫ヲ以テ知ヘシ前二ツハ定法ヲ畫ス腰郭ノ変法地形ニ依テ違フ様子ノ一躰ヲ畫ス此等ノ定規ヲ知テ地形何様ニテモ陣ヲ敷ヘキシ腰郭ハ山ノ高ミ地ノ端ヘ汗寄タルトキ二重築地ニシテ夜廻リノ番人ヲ通スシ平陣取ニテモ地形ノ様子ニ依テ本陣搆虎口腰郭ノ模様違フ支ナレハ兼テ定法ヲ知ヲ時ノ変ヲ察スルヲ要トスヘキシ

陣取夜守シ法火見セ場等の事一巻ニ委ク記ス故ニ茲ニ略ス少違フ事

惣テ方向ノ陣取ノ支ヲ軍法之巻ニ敵国深ク働ノ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

時夜合戦ニ不逢陣取シ本ヨリ軍法ニ大キニヨシ
トゝゝ是前ニゝ本篇捨篇ニテ敵味方夜中ノ変
ヲ改メ或ハ栖樓三ツノ内一ツニ毎夜大ヲ灯ス敵
若夜討等ニ入トキハ残リ二ツノ栖樓ニモ大ヲ灯ス
突シハ物ニ障リテモ必ス二ツノ大ハ見ユルシ此相
曷ノ支ヲ入不入大トゝ或ハ一ツハ入リ二ツハ不入大ト
詰要本ニゝ是シ突シハ一ツヲ見セ櫓ト唱ルヿハ
火見セ櫓トゝ支シ武負今按如此ゝ傳ル所ハ大
将見セ櫓ヘ上リヲフトシテ外ニ二ツノ栖樓ヨリ
敵方ヲ見ヲフメニ三ツ作ルトイヘヒ詰要

本ノ意ニ不通シ或ハ山鹿義昌カ説ニ大将此櫓ヘ
上リヲヒ御覧シト時方諸勢ニラスレハ陣中ノ
行儀作法宜シトゝゝ是皆未ヘ付タル論シむ其理
アルニヨリ両説共ニ不捨ノ味ニアリトゝゝヒ栖樓
三ツノ内一ツ見セ櫓ハ武負カ今按未書ニ叶フシ當
時ハ皆不捨シテ用ユヘキシ或ハ相陣取等ニテハ備
頭ノ陣栖樓三ツ相備衆ノ所モ栖樓ヲ一ツ宛作
ヒ毎夜ハ大ヲ不灯夜討入タル方ヨリ大ヲ立ル
ト不残栖樓ニ大ヲ立備頭ノ三ツノ栖樓ノ内毎夜
ハ一ツ灯セ共其トキハ三ツ尼ニ灯セハ御旗本ヘ早

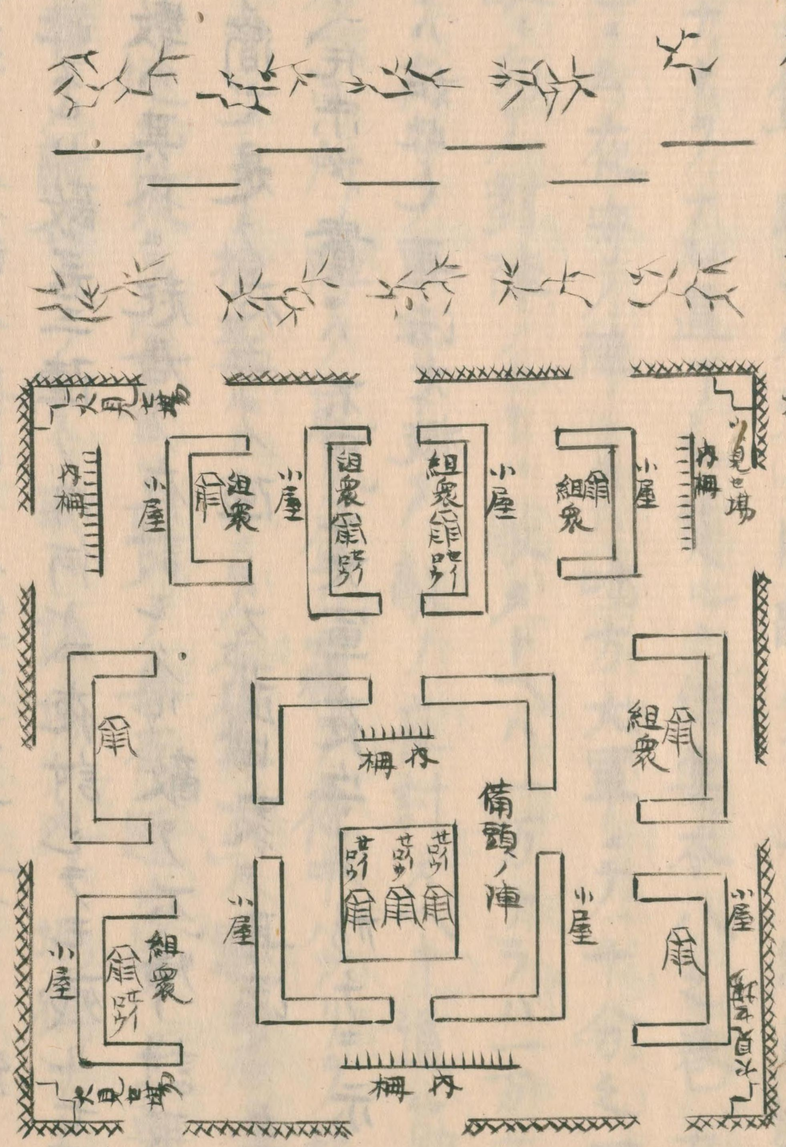
国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ノ夜討ノ様子知シ此作法ヲ結要本夜守ノ
陣ノ所ニ御旗本ヘ有シ無シ申ス申ス卜云ハ是シ
御旗本ニテモ魚鱗ノ陣取ノトキハ御本陣ノ外ニ
モ栖樓有ヘキシ右有無申ス申ス卜云ハ御本陣ノ栖樓ニ
テ何方ノ陣卜知ルヘシ則軍法ノ巻ニ矢倉栖樓ニ
數ノ刻ニト云ハ此方ヘニト書方角ヲ以テ刻ヲナ
シ置ヲ云シ未書ニ大ナル竹坪狹間ト云ハ數ノ刻ニ
ヨリハ委シク竹ヲ結付其穴ヨリ窺ヒ見シレハ同シ方
境ニテモ遠近知テヨキシ令義解軍防令ニ應
火筒ト云是シ又陣場篠垣ノ四ツノ隅ニ小高キ所
ヲナシ置ヲ火見セ場ト云若夜討等アラハ其
一隅ニ火ヲ立レハ二隅ヘ通シテ立ルト今一隅モ立
ル早ク四隅ヘ通シテ諸軍案ヲ本陣ノ栖樓ニテ
何レノ方ヨリ夜討来ルト知ルシ若山陣取或ハ平
陣取ニテモ地ニ高低有カ物ニ隔テ未ヘ不通所アラ
ハヨリ通スル様ニ火見セ場ヲ摘ヘ拵エヘキシ此外夜
中ノ張番所夜廻リノ番人ヲ廻ス等油断ナキハ夜
守ノ法シ又夜守ノ陣ト云ハ歩シ様子違ヘルヲ専ラトシテ敵若
常ノ陣ニテハ右ニ云ヘル夜守ノ法ヲ
夜討ヲナサハ急ニ篠垣ノ外ヘ出テ敵ヲ防ク

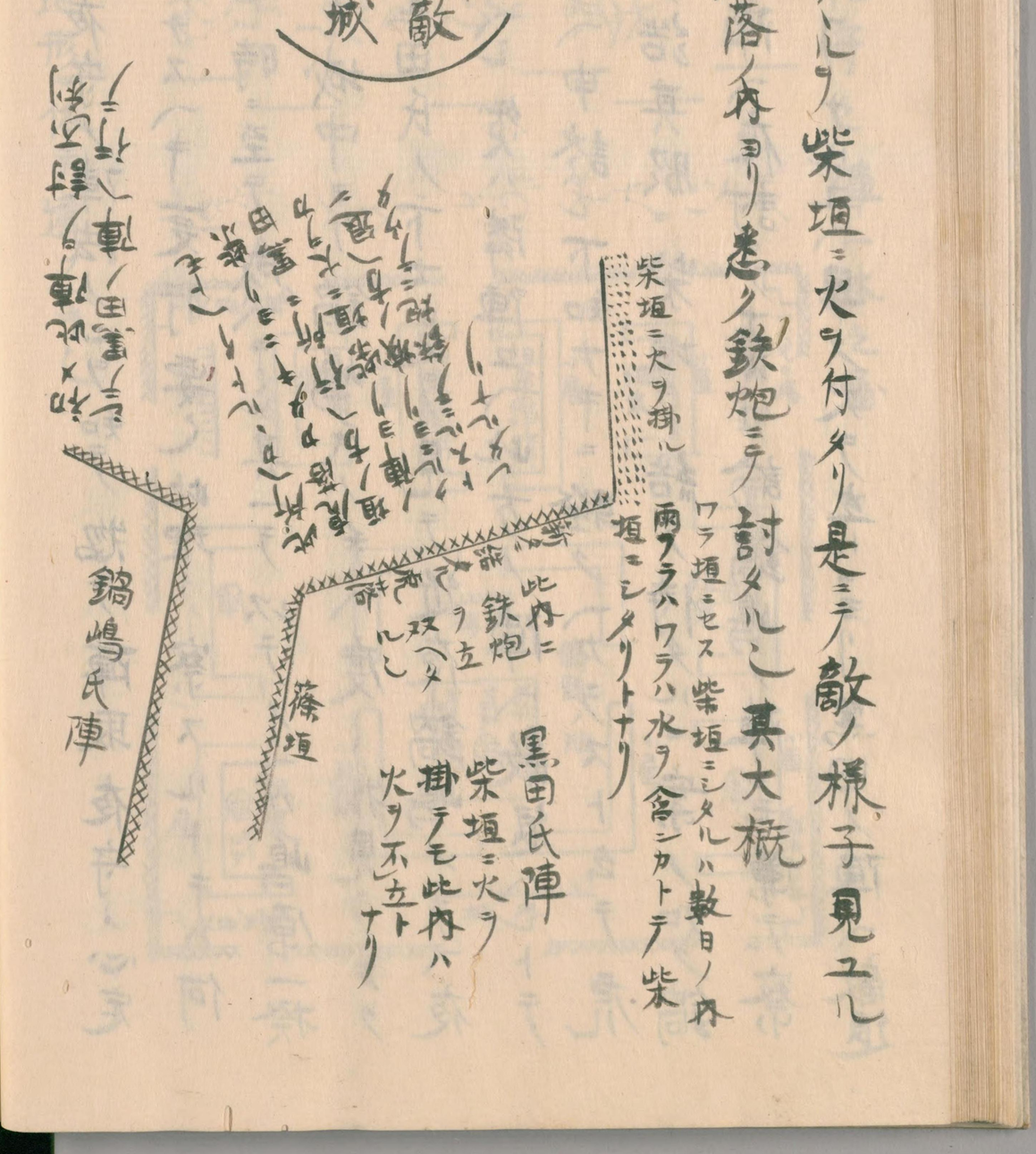
きし依之蹴出外張ノ間敵ノ来ルヘキ道筋違ヒ
居ナトヲノナシ置ヿ〔肝〕要本ハ之巻九ノ
巻ニ云夜守ノ陣ト云ハ時方大軍ニテ十分之一ノ小
敵ニ向テ對陣ノトキハ敵タトヘハ一万ナラハ一万宛ニ
ツヽノ夜守ノ軍勢トシテ敵ノ夜討スヘキ道筋ヲ
考ヘ三所ニ陣ヲ取テ昼ハ寢テ夜中バカリヲ起居
テ守ルニヨリ捨篝ハカリニテ本篝不入違ヒ居ノ内
外ニ逆茂木ヲ引昼ハ取入テ毎夜逆茂木ノ置様
ヲ替テ敵ニツモラレス或ハ陣場ノ内ニ堀柵ナトヲ
構ルヲ丹堀丹柵トモ是夜中不寢ニヨリ味方ノ
人數ハヨク知所ヘ敵ノ人數ハ不案内ニテ迷フヘシ
如此スレハ敵若三陣ノ内何ヘヘ夜討シテモ残ル七方ノ
人數ハ其内ニ起合テ夜討シタル敵ヲ不帰討取ノ
ヲ簡ヘ是ヲ夜守ノ陣トスルナリ武田家ニ其法ヲ立ルト
イヘ〔共〕未タ實ニハ不用之大軍夜守ノ形チニ示スト
キハ如此ヘ其法大概ハ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

夜守之陣一躰之畫


内柵
小屋
組衆
小屋
組衆
小屋
組衆

サニカシラ柴垣ニ火ヲ付メリ是ニテ敵ノ様子見立ル
ヲ虎落ノ内ヨリ悉ク鉄炮ニテ討メルシ其大概



右ノ證拠ニ出ス地理ノ案ニテ左ノ夜守ノ法ヲナスコト
如此心ノ奇特ニヨリ惣テ本陣掩ノ法ヲ穿ヲ居
ヲ築キ内ニ虎落ヲ結柵木場ヲ去
心ヲナスコトシ故ニ方向ノ陣法ハ出動通路自由ナ
ルヲ用トス夜守ノ陣法ハ其防キ油断ナキヲ云是
別陣ニアラス相通シテ知ヲ陣取全キ法トス陣ハ
人ノ休ム所油断ナキヲ示ス支ヘ
右陣場不ニの様ニ知ク大身常ニ旅行宿陣
ニ宿割或ハ旅館抔ノ様ニ心得或ハ仮初ノ
庵狩山等ニ戯ニ堅陣ヲ取ル幕

扨又仮屋或ハ寺院ニ陣ヲ取ル時ハ奇特心得有ヘキ事

當時国主郡主ノ旅行宿陣ヲナシモノ宿割ヲナスニ先ニ行者ハ先跡ニ行テ宿ヲ割近習ノ用人ノ分ハ其主ノ旅館ニ近ク割トキハ諸用手廻シヨキト雖然ト宿ノ内ニモ家ノ大小アツテ思様ニハナシ難シトイヘ共大概行列ノ次第或ハ近習外様ノ心定メヲナシ次シノ前後ハ有ヘシ大キニ違ヘハ悪キ者程難儀ニ及フト雖其上ニモ當番非番ノ考ヲナシテ宿割スヘキト雖一夜ヲ明ス程ナレハ至テ難儀ナル宿モ十二三日ノ道程ニ一二度ト知ハヨキト東国大名衆ハ驛モ宿在御モナキ所ハ當時江戸往来ノ時サヘ一二夜ハ野陣ヲ張モアリトカヽ又西国四国中国ノ大名衆ハ船中ニ數日ヲ經ルモアリ是ニテ一夜ノ宿陣ノ善悪サノミ思フヘカラス然ニ其手廻ト程トヲ計ルハ真宿ノ様子ニ依テノ手廻シ又旅館ヲ拵ル役人ハタトヘハ一夜成ニ国主郡主ノ宿セラルヽニハ心ヲ付ヘキ支度アルヘシ近辺ノ用心ヨキカ不用心ナルカハ不及云本陣掵ノ作法ノ如ク張番所或ハ諸器ヲ納ル所等

心ヲ付ヘキ支ト第一ハ閑所湯殿ニ心ヲ付ル支ヲ要トスヘシ當
守リハ草ニシテモナヲ一ツ叶支ヲ
時治世久シケレハ諸人心得違ヘ多ク家細公ノ日光
御成ノ時ノ如ク其御道筋ノ掃ヘ駄敷或ハ御上洛
ナトノトキハ海道筋ノ城ヽヨリ明テ立退キ御旅館
トシ町屋ハ不及ヤ侍屋敷迄モ明ケ
渡スト覚ヘ然者多キト常旅如此ニテ支ノ整ヲ者
ニ非ス古ヘ天子將軍トイヘ共行幸御動座度ヽ
ナルトモ如此ナルコヲ不聞唯上ヲ敬シテ路頭家屋
ヲ掃除ヲ清クスルノ類ハアルコト其本陣ノ警衛
ハ余リ支多ケレハ還テ守リニナラス慶長元和ノ
初メ迄度ヽノ出陣ニハ宿陣モアリ野陣モアリ
更ニ手ツカヘハナキコト其用心トヽハ本陣ヲ守リ
或ハ諸勢ヲ以テ大將ヲ守護シ奉ル等ノ作法ヲ以
テ千里ノ遠キモ數百日ノ旅宿モ厭フニ不足所アリ
故ニ其過不及ヲ知ヘシ余リ支重ケレハ出動ナラス
シテ緒旬臆セルカ如ノ危難ヲ招クニ似タリ故ニ前
ニ云陣取ノ法ヲ知テナストキハ支輕クシテ守リハ
堅キト笑レハ康狩ニ鷹等ノ節野陣ヲ張テ
大將ノ惟幕支輕キヲ用ルモ本陣構ノ作法ノ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

如ク張番警衛ヲナシ若夜中ニモ野陣ヲ張ニ堅固ノ地モナクハ土手柵塀等ヲナスカ急ナラハ長柄ヲ垣トシ或ハ縄ヲ張テナリ共要樞ノ守リアルヘシ但主人ノ獨リ身安キヲ好ミ玉ヘハ諸勢モ亦休ム心ヲ生シテ怠ル故ニ三畧ニ古書ヲ引テ曰軍識曰軍井未違將不言倦軍竈未炊將不言饑冬不服裘夏不操扇雨不張蓋是謂將礼ト与之安与之危故其衆可合而不可離可用而不疲云ヒ此語ノ如クナルハ將礼ナレハ窮シテ衆人ト共ニスルトイヘハ身ノ安危ノ喜ヒ用心ヲヨクシテ守リヲ堅クスルコトハ別ノ喜ヒナシ此所ヲ以テ簡ナクテハ陣取ノ法ハ不立所ヒ故ニ国主郡主等ノ常旅ト云ヒ営法ノ守リノコトヲハ嚴ニ心得ヘシ身安キコトハ必ストスルコトニ非ス諂匂害多シ其時ト所ト位トニヨルコトハ万法ニワタル一概ニハ不心得シテ奇変ヲ計リ知テ其宜キヲナス（キ）

第三

一 當時普請方仕事方ノ役人ノ事

甲陽武田家等ニ普請奉行ノ名ハ無之當時江戸ニテノ右両役ハ慶長年中ヨリ粗普請奉行

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

見ヘメリ駿府ニテ佐藤駿河守ト村田權右衛門
江戸ニテ小澤瀬兵衛中澤主税御普請奉行ノ
初カ是ヨリ相續テ今ニアリ御作支奉行ハ寛永
九年十月三日佐久間將監酒井因幡守神尾
備前守三人ヲ初テ仰付ラル是ヨリ相續テ兩役
ヒニ三人宛今ニ有之下役人モ數人モ設ケ有之近年屋
敷御改奉行等モ初メハ御普請奉行ヨリ兼タ
リシニ今ハ別ニ成メリ道橋奉行等此類アリ近年
ニ至御普請奉行ヨリ鉄炮御改ヲ兼御作支奉
行ヨリ宗門改ヲ兼御勘定頭ヨリ道中御奉行
ヲ兼各一人宛ニテ大目付一人宛加リ勤メラル是
武役ヲ兼當ノ心ナルカ若陣場奉行ノ用ヲナス
ニモ右三役ト大目付ノ加ルニテ支調フカ左ナク
ハ外ニ陣場奉行ハアリ乍右三四役ハ其下ニ指添ヘ
キヒ子細ハ普請作支ノニツハ不及云陣場ノ用多
キ支ヒ御勘定方ハ當時地方ニ乳所ナレハ人足以下
或ハ道筋其外土地ノコトニ委シキ筈ヒ大目付ハ分限帳
方ヲ兼テ諸旗本ノ身代ヲ知タル役ヒ然レハ此四
品皆陣場奉行ハ綻テ不知ヒ叶支ナレハ此
所ニ合セ論ス其内大目付ノ支ハ横目ヘ付之巻

武者奉行之巻ニ論之ス地方ノ丁ハ兵粮方ノ巻ニ論之ス其外ニモ陣場奉行ヘ近キ者ハ普請方作支方ナルユヘ此所ニ論之ス行列ノ先ニ立テ陣場奉行ニ隨ヒ行テ道橋ヲナヲシ陣場ヘ到テハ陣営ヲナス皆此両職ニアリ中ニモ早築ノ城ヲナシ敵城ヲ廃シ其用多キ支シ

附リ

當府ヲ江戸ノ体風ヲ端緒ヨリ普請奉行有之ヲ委細ニ書シ事

小幡勘兵衛尉景憲ノ當時ノ様子ヲ計テ新品

寒到来ニ出スノ趣ハ普請奉行心持ハ侍衆普請出精無怠薄ク入ノ念ヲ早ク出来或ハ請取町場悪ク共ニ無労支人並ニ仕ル人之噂主君ヘ能取成可申縦ヘ中悪雖有之不可押隠其為主君第一ニシ殊又天道誠可存シ偖又作支奉行モ我屋作ル如ク仕可致為ニ主人候大小共ニ嫌支同前シ小身ニ而物入何ヒ不存知而曽用立仕ル人ヲハ作支奉行ニ不可申付非道之支トヲシ是ニテモ知ヘキシ當時近モ作支奉行ハ無待ニテ急ヒテ勤ル是ハ其促先ヨリ直ニ勤ルトヲシ支ニテ元来佐久間将監ノ物數寄者ヲ仰

付ラレ茶之湯ノ御用ニ等ヲ仰付ラルヽニ度々御前
ヘモ無滞ニテ出メル（ル）例ノトイ（リ）普請奉行ハ
役先ニテ勤ルトキハ立付ニテモ有（キ）リ御用ニテ
出ルトキハ足手ヲ洗ヒ髪速ヲ直シテ出ルトヽノ
例ニテ無滞ハナラストシ治世右ノ如クニテ作支方
發向シ普請方ハ役威薄キニ似メリトヽ（モ）元来
普請ハ本ナルニヨリ重テ　作支ハ未ニテ　延キシ
畢竟此両役相談シテ勤メサレハ支　不整ナレハ同
役ノ如ク了簡セスシテハ主用ハ弁シ難キシ互ニ我
ヲ立テハ指支ル支多シ陣場奉行ノ下ニ付テ

支ノ調フヘキシ
普請方仕事方行営備ラヽ所ヽ事
行列ノトキハ陣場奉行ニ隨テ真先ニ押道作リ
人足ヲ連テ行道ノアシキヲ作リ大ユヲ連行テ
橋ノ損シメルヲ直ス等ノヿ多キシ或ハ御大将ノ
行軍ノ跡ニモ普請方作支方ハ押（ヘ）シ御旗本ニ
指續キテ押シ何分ノ支有テ野陣ヲ張不時
ノ変ニ入支多キシ此當非番有（ヘ）キシ陣取テ
御旗本ノ囲ノ内ニ小屋ヲ掛（ヘ）ヨリ集メ請取普請人足等配分有（ヘ）シ紛（レ）ナ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

十様ニ分合ヲナシ作支方ト共ニ勤ル所多キニ當
非番ヲ分ケ非番ハ陣替ノトキ跡ニ殘陣拂ヒノ
支ニモ加ルヘキ支シ備ノ場ニテハ御旗本ノ指次ニモ
備ヘ或ハ小荷駄ト一所ニモ備ユヘキシ各下役人多
カルヘシ武家ニヨル者必ス戰場ノ働キ支シ江戸ニテ鉄炮改ナトヲ兼役アルヨリ
故ニ普請奉行三人作支奉行三人ナレハ當番非
番ノ外ニ一手ハ戰場ノ働キヲナサシムノ心得有ヘ
キ支シ江戸ニテ鉄炮改宗門改ナトヲ兼役アルヨリ
其下ノ与力同心アリ是ヲ連テ一方ノ働キヲナセハ
足軽大將ノ働キナルヘシ繁レハ三人奉行ノトキハ

此作法ニ叶フシ普請方作支方ノ下役人モ戰場ノ働
ヲナス様ニアルヘキヲシ武田家ニテ猿樂近モ働
アル備アリ故ニヨリ其支ヲ了簡有ヘキシ

第四

一普請方作事方共ニ古来ヨリ名ノミニテ実ナキ事
ニ候ヘ共其ニ拘ハラス知行ヘキ事
古ヘハ修理職ニ普請作支ヲ統掌ル普請ト云ハ
鎌倉將軍家ノ時分ヨリ禪宗ノ出家ノ云ヘル詞
自然ト今ノ通称トナル人ニ普ノ請テ堂塔ヲナ
スノ云シトヨリ作支ニ造作アリ今云処ト違ヒヲ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

知ヘキ」今ノ風ト成テノ様子ニ見テ吹シ、趣キ違フ所
古来ノ余风アルヿハ當時ノ天下ノ法度（ミジドテイシンガキ）溝墨石壁
破損スレハ奉行所ヘ達シ其指圖ヲ受テ修理ヲナ
スヿ門堀樽等ノ造作ノ損シタルハ先規ノ如ク修
補シ置ヘタリ其上近年石垣ノ高サニ定メアリ
無用ノ普請作ヘヲ禁セラルヽ等ノ掟アルヿヲ
其職役タル人ハ必ス先其大法ヲ知テ上ニ油断ナ
ク肝要ノヘヲ勤ムヘキヘ
附リ
普請方仕事方下役人殿ヽ有ヘ」并諸職人

諸道具ヲヽヽ事
此ヘハ不及ヽ云トイヘ」モ出ス之其下役人或ハ大工ノ棟
梁等私曲ヲナシテ實儀ヲ失ヘハ其費云ヘキ様
ナシ能其法ヲ嚴ニシテ私曲ヲナサシメサルヲヨシト
スヘシ或ハ其下ノ職人モ品ヽ云尽スニ不遑其巧拙
ヲ撰テ上中下ヲ分ツヘキ者ヽ或ハ其道具品ヽモ
其筋ヽニ依テ有之無用ノ物ヲヤメ肝要ノ器出
陣ノトキ持參スヘキノ度量ヲナス」且又大工
ノヿヲイヘハ或ハ繪圖町間ヲ見ルヿヲ知ノ類ヒ
其家ノ曲尺ハ不及ヽ云ヿ勘能ナルヲモ知ヘキヘヽ

治世ニ軍旅ノ用ヲ失ス故ニ若シ其変ヲモ志アル
者ハ不捨了簡有（ル）ヘキ変ニ（不及）云シ
普請人足ハ古シ雇役ハ新シ雇役ハ新シク古ヲ知ラス本ヲ
當時ノ人役金銀役ニ於テハ或ハ日雇役ヲ貴ミ或ハ
人夫等の事ヽ
古代ノ法ニ拠ニ正丁ニ分田五石春秋五日合テ年
ニ十日ヲ雇役トテ出テ普請役ヲ勤ル若三十日
ヲ勤ルトキハ租調共ニ（ニ）ルス三十日ニ（不）満トキハ租調
等ヲ三十分ニシテ其一日ヲ一日ノ食分トスト云シ是令義
解ノ趣キニテ心得カタキモノニシ然ニ武貞考ル所ニ雇
役一日正丁一人米四舛ニアタルニ子細ハ右ニ云五石ノ
内ヨリ租米二斗二舛ヲ出ス雇役ヲ不勤トキハ布
ヲ出ス米四斗代ニ外ニ調物米二斗代ノ布ヲ出スカ
交易雑物トテ何ニテモ二斗代ヲ出スニ又調添物
トテ米二斗代ノ物ヲ出スニ合テ九斗二舛代ニ外ニ
義倉トテ米ヲ出スコアリ中ノ戸ヨリ米八斗
ヲ出スニ一戸ニ必ス正丁四人中男一人ト積ル歟ニハ正丁
一人ヘ米一斗八舛余ニ右九斗二舛ト合テ一石一斗
余ナルニヨリ雇布調物同添物ヲニクハムルニモ二三
人手間ハカヽルナルヘケレハ是ニ一斗代ト見テ合

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189　　ガラス使用

セテ米一石二斗代ト積レハ三十日ニ一日正丁米四
舛ノ適合メリ此考ヘ要ミヲ以委キ支ハ
更ニ知ヘシ別ニ述ル春秋ノ五日ニ適ス正丁一人
一人夏一日ハ米(三合三勺)是日ノ長短ニ依テ古法アリ當時ハ冬夏春秋
五舛ニアメル 冬ハ六日勤メテ春秋ノ五日ニ適ス正丁一人冬
更ニセス同ノ定ルヿ次丁ハ二人中男ハ四人ニテ正丁一人
ニアメルヿ カノ不及者ハ如此ヿ是古代ノ法ニテ當
時ニ移リ來リ今世ハ定納米一石ニテ春秋二人勤ル
ト定メ一人米四舛トシテ八斗ノ米ヲ支米トテ出之
支諸国如此是ニテ知又古代ノ正丁一人ノ雇役等ニ
心得違アリ口分田ノ給ヲ支男ハ五石女ハ三石三斗三舛
三合ニテ一支一婦ノ口分田合テ八石三斗三舛三合余
ナリ是ヨリ年二十日ノ雇役ヲ勤ルト見ヘ申ナリ
當時ノ諸国定納一石出ス者ハ四合ヲ士ヘ出スノ法ニテ
六分ノ一石五斗百姓ノ私得メリ定納五石出ス百姓
ハ私得米七石五斗ハ有ヿ 爰ニテ考ハ所ル一支一婦
ノ口分田八石三斗三舛余ノ内ニテ租調同添物義倉米
等右ニ云積リニテ八斗五舛程(但租米ハ八石三斗三舛
六六ヲ出ス調物ハ正丁一人トシテ上斗トシ添物ハ共正丁ノ婦ノ出ス分ト
見テ一斗トシ義倉ハ正丁一人ハ出ス所トシテ一斗六舛六合
五舛ホトニナル雇役ハ出テ勤ル
処ナレハ其積リヲ除ノナリ) 引残テ七石四斗八舛三合余ハ

私得米ニ七石五斗ト云モ同享　是當時定納五石ニテ私得米七石五斗ノ内春秋ノ吏
十人代米四斗ヲ除シ八百ノ雇役モ一吏一婦ノ口分田ノ私
出スナリ
得米七石五斗程ニテ正丁二人春秋十日ノ雇役ヲ
勤メシ余風ヌルヿ必セリ爰ヲ以テ當時ノ法ヲ云ト
キハ百姓ヨリノ普請役ハ定納一石ニ付テ春秋二人ト
定メ一人米四舛ニ　但人役ニテ勤ルトキハ定納一石ニ二人米ニテ
舛代ヲ一日ノ人ノ七ヨリノ普請役ヲ云トキハタトヘハ百石
正丁代トス
ノ地行四ツナラシニテ定納四十石ナレハ七五ヲ以　但シ七五ハ前
ニ云一石五斗ヨリ正丁一人雇役ノ過ナリ　割トキ十五人　三分三ト十ル
是定納ニヨル普請役高シ此上定納四十石ニハ前

ニ云通リ百姓ヨリ八十人　但定納一石ニ春秋二人ノ普請役ヲ取
ユヘ合テ百三十三人　三分三ト十ル是ヲ一人四舛
ノ積リニテ金銀米何ニテ成共公役ヲ勤ル若シ人役
ニテ勤ルトキモ此丈高シ爰ヲ以テ賀府ノ御定メハ智行
但御改作以後ノ知行　千石取者ハ定納三百九十三石　但加判知三百三十石免
百七十石免四ツ　三ツ六歩シ越中能登知六
一歩シ此積リニテ云ヘハ此定納ノ普請人高五百二十六人六六六
ナリ又百姓ヨリ取所ノ丈銀高此定納ニ七百九十人分シ
但一石ノ積合テ千三百九六人六六ト十ル是惣高シ人十人ヲ以
テ毎日人役ヲ勤ルニ十箇日ノ内ヲ三箇日宛勤ルト
スレハ一年三百六十五日　是閏月ヲ不揃立春ヨリ立春迄ノ日数ヲ云ナリ　ノ内百〇九日

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

半ヲ勤メテ千〇九十五人ノ高ト定ナル是ヲ三分役ト云ハ
勤定仕安キヲ以テ名所ト称シヲ千石三人ト定メ一年中
不絶三百六十五日ノ積ニテモ毎日勤テモ千九十五人ノ役高ニ依ル之
千石取者ハ人役ニテ一人一年中ヲ勤メ銀役ニテ二人
分ヲ勤ル二人役一年三百六十五人右ニ云ル周月割込ノ数勤メテ
銀役二人分一年七百三十人割同前ヲ出シ合セテ千九十五
人ニ右千三百九六人六六ノ内ヲ引残テ二百三十一人
六分六六ハ自分ノ普請人足ト見ヘシ但大身成者ハ人
役ノ外ニ普請方ノ役人ノ侍分ヲ出シ足軽等ノ杖突
ナトヲ出スト云ヒ此余分ノ内ヲ以テ何様ニモナル夏

ナリ又百石取者等ハ右ノ割ニテ人役ニテ無之
皆銀役ヲ以テスルニ爰ニ云所ハ其本元ヲ云ナリ若免合
ヨリ定納多ク取者ハ右ノ割ヲ以テ役高増ヘキ事ニ
増減ヲ知ヘキニ當時普請役銀一人一日分銀七分
亦百姓ノ春秋庁吏銀定納一石ニ銀七分或ハ郡
ヤ銀モ此通リナルハ御政作正保慶安ノ頃米四斗
代銀七分タルノ余風流例トシ故ニ正丁一人ハ必ス
一日米四升代トスノ適合ヲ忘レヘカラス古代ノ法ノ
残ル所ヲ知ヘキニ扱又加賀ノ千石以上ヨリ出ス人
役ノ者ヲ役人トス若御出陣等ノ節普請人

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

足惣高千石一人ト積リテハ百万石ニテハ千人ニ及フヘキ夏ニ信玄公五六箇国二百万石ニ及フ人數四五万ニテ出動ノトキモ新衆ノ内ヨリ道作人足ト云ハ五百人ト有之歟レハ賀府等ニテモ役人或ハ百姓人夫等合テ五百人ホト召連レハ一ツ其用不欠夏ニ多ク人ノ入ルトキハ軍勢ノ内ニテモ又普請ヲ勤ルナレハ夏調フニ備又治世ノ日雇モ上日雇一日米四舛中日雇一日米二舛下日雇一日米一舛ト定メ其間二三段モ有ヘキナレモ古来雇役ノ正丁次丁中男ノ差別ニ合セテ可知之金銀米銭ハ時ニノ通用ノ適合ヲ以テ本元ヲ米ニテ心得ヘキニ或ハ人夫ヲ用ルニ百姓吏町吏等アリ一人働キノ者廿歳ヨリ上ノ者ハ正丁ニ中男トテ四人ニテ一人ニ向フニ六十以上或ハ壮年ニテモ力不及ハ次丁トテ二人ニテ正丁一人ニ向フニ此差別ヲ知テ若壮老ニ其働キ勤ル業ヲ以テ正丁次丁中男ヲ定ムヘキ夏ニ必ス年限ニモヨルヘカラス是等ノ考ヲ不知シテハ不叶ニ役ラナス夏ハ士農ノ一役ニテ国ノ都城ハ一国ノ鎮ニテ其国郡ノ民ノ膽仰依頼スル所ナル故ニ俱

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ニ民力ヲ合テ築之故ニ城湟ノ修理ニハ必ス出テ
勤ム其民力ノ多少ヲ平均シテ右ニ云所ノ役
金役銀役米トスルナリ其本ハ米ニテ積ル故ニ
今年ノ米ノ平均直段ヲ以テ来年ノ役金ヲ定
ルハ近年ノ法心如此吾ニヲ知テ其妻ニ述ノヘカラス
大工及大工棟梁或ハ大工ノ人ニ手伝ヒ或ハ
或ハ大工ヲ傳人等ニ差別ニ有ニ非ル也
準シテ他事方ノ諸職人ニ有ニ非
大工頭ハ古ヘ木工寮ニ大工小工等アルカ如ク其
大工ノ妻ヲ知テ善悪ヲ下知スルノ役人ニ今云

大工トハ古ヘ工或ハ木匠トモ云是ニ大工小工ハ役人
ノ名ニ又棟梁トハ其工ノ道ヲ知テ造作ヲ曲
尺合ヲ知テ云ニ古ヘ飛騨工ト云ナトハ飛騨ノ者
材木所ニテ其業修練ノ者多キユヘニ一人ノ手間
料ハ正丁二人米六舛トスルナリ此積リ令義解飛騨
木匠在京ノトキノ夏ニ有リ更ニ知ヘシ別書ニ出ス次丁ハ
三舛中男ハ一舛五合是ニテ上中下ヲ知ヘシ此間ニ
三段モ有ヘキニ妻ニ當時モ此積リヲ知ヘキニ或ハ
上ノ大工一人ノ扶持スルニハ四十俵ヨリ五十俵迄ナ
ルヘシ但一年三百六十五日ト積レハ九二石ホトニ
一日六舛ノ積リニ前後ヘ通シテ如本文ニ一俵ハ五斗俵

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ニテ幺発レハ四十俵ヨリスクナキハ扶持ニ不及中
下ノ大工ニ或ハ大工ニ町役ヲ免シ地子ヲ免シテ
其国主ノ諸用ヲ勤メサスルニモ手ツカヘナキノ定
メモ有ヘキニ大工ノ中ニ於テ其巧拙得ル所ヲ
知ルヿハ扶持ヲ大工或ハ大工頭或ハ棟梁ノ紀ニ
知ヘキヿニ人若雨天等ニテ不勤トキハ半分ノ手
間賃ヲ渡ス六斗ノ者ヘハ三斗四斗ノ者ヘハ二斗ナリ
今世ニ幺子ニリトス是ニ代ハ手間料ヲ巧直(コウチヨク)ト
幺シ又大工十人ニ厮丁一人是ハ食焼シ手間大工ト
同ク上大工十人ニ食持一人ニテ六斗六斗ニ普請

ノ如キハ食持外ニテクハ一人六斗六合ニ此割ヲ以テ
中下モ知ヘキニ手傳人ハ其様子ニヨリ違フヘキ
ナリ是ハ中下ノ大工ヲ手傳ニスル時モアリ又ハ雇
役ノ人夫ヲ手傳ニスル時モアリ是モ雨天其外障
リ有テ不勤トキハ半分ノ手間料ヲ給フ或ハ其勤ル
工人ヘハ一日ノ手間ヲ給リテ手傳人ヘハ半分ノ
手間ヲ給ル時モアルヿニ或ハ夜中ヘカケテ勤ル
トキハ増ノ手間料ヲ給フ時モ刻限ニ依テ品ヽアリ
或ハ春秋ハ此定ノ通リニテ其ハ四日勤テ春秋ノ
五日ニアタリ　上大工其一日七斗五合食持
賃入テハ斗二合五タ
冬ハ六日勤テ春秋ノ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

五ニアタリ　冬上大工一日五舛食持　此積リヲ以テ中下モ知
賃ヲ入テハ五舛五合ヨリ
ヘシ物ヲ假文モ六十日ヨリ多クハツヽケテ不仕トシ
右ノ通ハ古法ヲ云是ニ処テ當時ノ準拠トスヘキ者ニ
此外作支方ニ隨フ鍛冶或ハ壁師或ハ繪師等ニ不
限諸職人ノ手間料モ大工ノ米六舛トスルヨリ多クハ
有ヘカラス但壁師ノ手間一日一人上ハ米八舛代ト
スハ考ル所六舛ハ上壁師ノ正丁一人代ニ舛ハ土揚ニ
次丁ノ雇假一人ト見テ合セテ一日八舛トシテ積リカ
或ハ繪師ノ手間料高ハ二倍三倍ノ細工ヘカ細工ハ
大工ト違ヒ心ヲ用ル支多キ故ニ所アルニヨリ手間料モ

多ク枝持切米等モ多カルヘキ味ヒアリ是等ヲ
知テ其諸職ノ様子ニ依テ手間料ノ高下大工ヲ以テ
基トシテ定ムル支ヲ本意トスヘキ者ト如此ノ細支
迄心ヲ付ルヲヨシトスルシ
熟シ武家ヨリ諸職人ヲ大積ル武役ヲ心掛ル
指ス常ニ下知ヘキ事ニ沖大将ニ指令
手ニ依テ案ル事ハ兎ヲ免
量タルヘキ事
軍法ノ巻ニ云大工モ金穿モ信玄公御領分ノハ楽
ノ着ルトスレ是本文ニ云ノ心ニテ見ヘシ外ヲ察

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

知スルヿシ大坂冬陣申ニ神君ノ仰ニ金穿共ニ下
知シテ城内ヘ穴ヲ穿秀頼淀殿ノ寝所ノ下ヘ穿
入テ火ヲ放ツヘシトアリ金穿共水堀ノ下ハ穿入
難シト申上ル神君又仰ニ諸手ノ内ニ武田信玄ノ
金穿ハ不居カハト御尋則井伊氏之下ニ在之連
テ出ラル前ノ仰ヲ承リ成程信玄公ノ御工夫ニテ
水堀ノ下ヲ穿申ス哉ヲホヘ申候トテ穿ニ取付
段々土ヲ上ルヲ寄手モ我ヲ折城内ニ傳聞テ魂ヲ
消タルヿ或ハ同時ニ神君ノ仰ニ何方カ能有可有
ヿ哉許ニモ有ヘキカ細ハカリテ大取ハナルマシキカ如
何有ヘキトテ御咄ノトキ大工ノ大和ハ御前ニテ
酒ニ給酔居候カ進ミ出此大和川筋能有御座候
ト申上ル如何シテ取ントノ仰ノトキ大和申ハ是ヲ取
ハ安キヿト私一人ニ一万ヲ御添ナサレ瀬違ヘイ
タシ取テ上ントノ申上ル已レ酒ニ給酔何ヲ申ト御
叱リニテ御前ヲ退ク其後密ニ大和ヲ召テ弥
魚取ヘキカト御尋ナサルヽニ先程申上ル通リ
取可申ト申ニ付左アラハ汝カ申ニ五千人御増
一万五千人ノ御渡シナサルヽトノ(ヿ)大和此人足ニテ
大和川ヲせき切大坂ノ城内淀殿ノ居ラルヽ備前

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

嶋ノ方ヘ水ヲ仕掛ケシ右ノ兩様等ニテ女儀ノ淀殿ヘ恐シ冬陣ハ和談ニナシ神君右ノ利ヲ御愚案ナレ共若不成トキハイカヽシ故ニ御好ミナサレス是ヲ窮シテノナス所ノ畧量アルハ格別ノコト仕損スレハ我身ノ仕損トスル此味ヲ分武家ニヨル者ハ不知シテ不叶候

第五

一、陣中ニテ早業ニ攅上城ヲ攻ル事ヲ安キ様ニ申候ヘ共量城ヲ漸攻の本意ヲ知ル武功多き事

當時ハ寛永十五年以来一国一城ノ御定ト成テ城スクナシ又當時ノ城ノ如キハ百有餘年ノ太平ニ漸修ノ加ヘテ攅ノ念ノ入タル攻戦国急防ノ攅上城等如此モノニハ非ス草ニシテ早ク成ヲハ第一トスルシ但シ戦国ノ城ハ支ノ草ナルヲ幸ヒ（カラス）要ニノ守リノ不欠シ治世有来ル大城ハ普請作支念入過テ畢竟守城防戦ニ害有而已ナラス城取ノ本意薄ノナルニヨリ無用ノ所ニハ物入多ク丁寧ニシテ肝要ノ心付ナキニヨリ守リモ薄ノ或ハ還テ破壊ニ及ヒ修理ヲ

加心ニ手間ノ取等ノ誤リ多シ早業ノ掻上等ハ無用ノ普請ヲナサス草ニテモ其要ヲ論スル支城取敷ノ習ニアリ其城取ノ習ト云者モ治世ノ偽説ニ迷フヘカラス サシテ支度広キニアラス唯山本勘助晴行入道ノ鬼斎カ直指ノ本傳ヲ兼得セルヲ基トシテノ枝葉ノ傳ハ其助ケトスヘシ是ヲ有澤永貞深ク説得シテ武貞其旨ヲ受ルヿハ更ニ知ヘシ城取ノ奥伝等ハ此所ニ述尽シ難シ今云所ノ趣ハ早築梱要ノ品ヲ論スル是又普通ノ及ヒ難キ秘傳ノ品ヲ玄シ能心ヲ付テ城取ノ習ノ眼前ニ不遠支ヲ知ヘキナリ軍鑑或ハ志書ニ玄城取ノ習有之者ハ千人ニテ成ヘキ普請ヲ三百人ニテ成之千人ニテ可持城ヲ三百人ニテ持ヿ是真地形ヲ能知テ守ルヘキ屏数スクナク手明ノ堅固ノ地ヘ便ルトキハ城内ノ空地廣キヿ是ヲ軍法ノ巻ニ次サク丸ク玄シ是其度量ヲ知ノ本元ヿ又軍鑑合戦ヲ巻一之下ニ晴信公ヘ山本勘助城取ノヿヲ申上ル趣ハ関東ニハ太田道灌カヽリヲ専ヲ用ルト次沈候ヘ共久シキ支度ニテ今ハ是トテモ焚ト存シタル者無ヲ見ヘテ其隙取立タル城モ穿ニシキ所ニ堀ヲ穿築ク二シキ所ニ土

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

居ヲツキ柵ノ木ノ場ニ屏ヲカケ其外鄣蒂屏櫓等ノ習存メル者無之偶度ク城ニ籠リ久ク功者如此住テ宜シカラン一箇所ハカリ住テモ習ハヌ事ナレハ必ス肝要ト不存失念イタシ重テ大六カシク籠リテ能ク心得ヘキ事ナラス城取ノ習ハ攻テ門之支ヲ申上ル赴委クアリ然レハ寔ニ攻ル次第ニテモ知ヘキ事ニ信玄公駿及ニテ久能江庵ニ新城ヲ築カシ或ハ駿及田中清水等皆陣中ニ出来ノ城ニ信及河中嶋ハ清野屋敷ニ勘助馬出ヲ築ク今ノ松城是ニ信及高遠ハ二ノ丸ノ西キヲ直シテ今ニ勘助曲輪ト云信州ヲ直シテ今ニ勘助縄手ト云或ハ遠及諏訪原或ハ信州牧之ニテ或ハ信州藪原ノ取出等武田家ノ早築ノ城多シ信及長沼モ新城メリ如此度々戦国ニ有支ナレハ習ヲ知テ支ヲ達スヘキ支ニ其餘諸家諸国ニ城ナキ支ハナケレモ勘介流ハ早築堀要ノ實理ヲ盡ヲ以テ要トス其習目前ニ有トイヘモ後学是ヲ誤リテ支ヲ繁多ニスルヲ察スヘシ故ニ城取ノ眼目ヲ知テナスヘキ

附り

地形ノ修ノ山城平城平山城有ル
事一普請早ク十ルハ山城ノ地ヲ
城シ其山ニ三方モ峰地ナレハ守ル所ハ一二方シ若又
平地ニテモ大河ノ岸或ハ沼沮等ノ堅固ノ地ヘ便リ
城ヲ構ヘハ是又守ル所ハ少ナキシ或ハ山早ク二三
之方平地ヘツヽクハ則平山城シ平城ノトキハ主君
堀アル或早ク築ノ城ハ唯二三方ハ堅固ト云是
習ナリ

度量の事

タトヘハ千人ノ篭ル城ハ割ヲ以テ可知之シ一人ニ
三坪アルトキハ積リ三千歩ノ地此外ニモ空地多ク入ル
或ハ又三千歩ノ地ニ六千歩モナクテハ不叶
シ開テハ又三千歩モ入或ハ合テ六千歩モナ
ルシ此堀ヲ千人ニテハ守リ難キシ千人ノ内三分ノ一六
百人ハ守兵トシ三百人ハ不守人数ト見ヘシ百人ハ不
時ノ変ヲ鎮ムル兵ト見ヘシ然シ
一間ヲ三人宛ニテ守シハ二百間ノ
依テ三百廿間ノ守リハナキシ右ノ
シハ守ル堀百六十間シ三方峰ナレハ守ル堀八十間シ

是ニテ其度量ノ大小ヲ知ヘキ支シ故ニ本城ノ間
數ニ習有テ城ノ大中小ヲなし本城ヲ五十間四方ハ
カリニ搆レハ堅固ノ地ヘ便リテモ城惣躰ノ大キサ
二万歩ニモ及フし田囲二町半四方ハカリニテ九百間
ノ塀ニ及フ一間三人守リニテ二千七百人し二方手明
ニシテハ四百五十人し城兵惣高三千人ニシテ二万歩ハ相應し是ニテモ守ル支易
キし若又二万歩ノ地三方手明ナレハ守ル所一方ニテ二
百九五間ニテ扉ヲ守ル兵六百七十五人タ心ヘキナリ
此本城五十間四方ニテ二千五百歩ナレハ兵ヲ入ニ
八百三十人余ハ入ヘし此内六百七十五人ヲ引テ残テ
百五十三人余ハ余慶アリ爰ニ知ヘし本城ハ其城中
ノ詰ノ城ニテ守兵スクナキトキハ後ニハ本城ハカリ
ヘツホミ本大将ノ後詰ヲ待支多シ然レハ二万歩ノ
城ヲ千人不足ニテ守ルニハ漸ク一方カ二方半并ホトハ守ル扉タ
ルヤウニ城ヲ搆ヘ本城ヘ不残人數ノツホム心得有ヘし
本城ハカリニテ狭キ地ハ本城ト別郭ニテモ一郭ノ心持
ニテ地ニ余慶ナクテハ持キカセ難シ又三千人ニテノ
守ル尼城内慶キ支若又五六千ノ人數ニテ籠ントノ
思ハヽ捨堀捨郭ヲシテ守ル支ノ心得し是中分ノ

本城ノ積リニ必ス戦国急ニ築ノ城ニ度量ヲ失フヘカラス近ノハ能及ホ森ノ城ヲ取立玉ヒ半作ノ所ヘ守兵ヲ遣ハサルヽニ佐ヽ成政取掛ニ之郭迄攻落スノ奥村助右衛門千秋主殿ヨリ持キカセテ利家公後攻ニシテ本城ハカリニテ水ノ手迄落サレシカ共城兵運ヲ開ノ是等ヲ以テモ唯城ノ度量ヲ知ヘシ度量ハ扨ト人数ト本城ノ大キサト惣城内ノ廣サト堅固ノ設ケ様ト之差別ニ

虎口一二ノ門或ハ馬出シ等ノ事専ニ

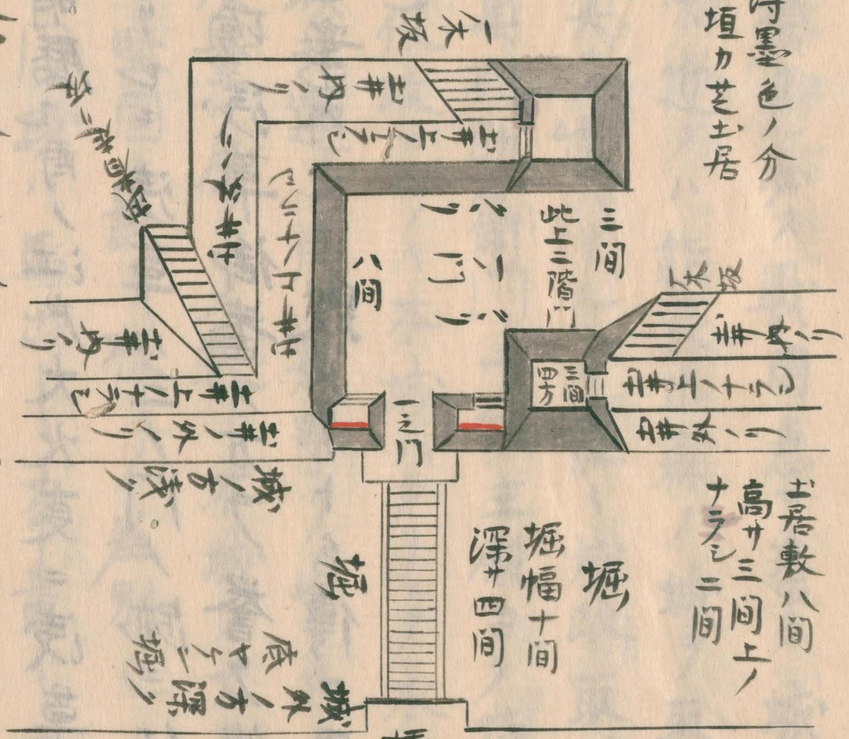
内外幷形ノ門ハ開テ敵ヲ入二ノ門ヨリ出テ防戦スル

支ニ故ニ門ヲ立ルモ二ノ門ヨリ先ニ立ル支ナリ

先年明暦ノ丙ノ江戸大火支ニ浅草筋違ノ両見附焼タリニ浅草ハ二ノ門ノ跡ニ仮ノヤライ門ヲ立其頃浅草御番ノ方ヲ誉ヲ筋違御番ノ方ハ無案内ニト毀タリトゾ傳ヲ早築ハ此心持ニ

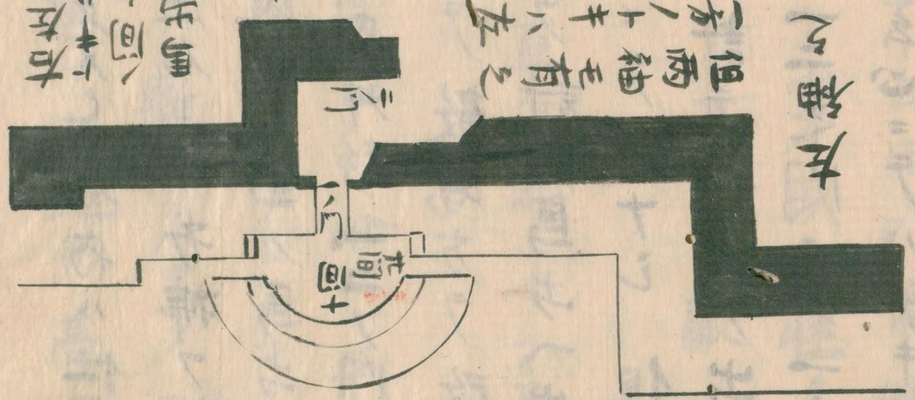
国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189　ガラス使用

内外形之圖



是ハ舍人久ク躰し但此間數ヨリ次サノハナラスナリ

又馬出ハ左袖ノ外形



国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

出入ノトキノタメニ城内ハ仕安ク攻ル者ノ付入ニ
ニクシ舛形左右ヨリ打拂フ故ニ必ス馬出此形
ニアラス尼城内ノ矢玉ノ馬出ノ外ヘ近ヨクキノ様ニ
サヘ構レハヨシ内舛形一二ノ門ノ内ニテ立スクリ居
スクリヲナシテ敵味方ヲ改ムル支アリ或ハ舛
形ノ内ニテ人ヲ計テ馬出ヘ出ス等ノ習ヲ云トイ
ヘ尼サセルコニテモナシ但シ舛形ニ何盃兵ヲ出
スヲ何盃ト計テ入ル。ニテ出入ノ多吹ヲ知ルノ
心ハ有ヘキニ一二之門ニテ一重敵ニ破ラレテニノ
門ニテ防クト云心ニテハナキニ是等ノ利ヲ知ヲ

早築ノ捻上ト云尼門前舛形一二之門ノ心持
或ハ草ニ堀ヲ穿或ハ埒ク打ヒヲ集メテナリ尼
馬出ノ心持ヲサシテ、敵ヲ支ユルノ便リトスヘ
キナリ

土居堀石垣真草伏并ニ治世石垣の制得失の事

山城ニハ土居ナクテモ嶮ニ平地ニハ土居ヲ築ク
高サ三間ト云ハ鑓ノトヾカヌヲ云トニ然レハ敷ハ間
ニナル芝土居ハ敷スクナクテモ堀ヱ切岸ト盛
土ニテ堪ヱ違フニ地形高ケレハ土居ヲ次ニ築

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

キ外ヨリ高サ二間ナレハヨキ堀ハ高サ三間
敷八間ノ土居ヲ築ク土ヲ取ル二堀口十間深サ
四間但ヤケン堀ニシテ城ノ方ハ浅クセヨ土居ノ
ツルシ深ニヲ城外ノ方ニスヘシ此格違ヘハ土居
崩ルシ堀ノ廣キハ城内ノ矢玉外ヘキカスシテ不
好夏シ自然ト水溜或ハ谷ナトニテ堀幅廣キカ
如キハ長橋トナル長橋ノ拂ヒアシケレハ味方ノ出
入モナラヌモノシ三十間ニアレハ長橋シ故ニ城内
ヨリ拂ヒニ袖ノ外形ヲ用ユヘシ或ハ山城ニモ堀ヲ
竪ニ穿テ敵ヲシテ山ヲ横ニ傳フ支ヲナサシメス

又石垣ハ虎口際矢倉下等ニナスヘシ近年石
垣ノ妻止手ニ成タルハ信長公安土ノ石垣ヨリ定生
ノ者ニ功者ト成テ色ノ工夫アリ高石垣トテモ
積ニ崩レ易キ所ニハ重寶シトイヘ共野面ハ
強キナカラ見分悪キトテ上切合ニスルハ弱シ
胴ニテ持様ニ石ノ扣ヘ長キヲ要トス大石ヲ下ニ小
サキ石ヲ上ニ積シ裏栗石ヲ入ル二重石垣ハ弱キ
ナリ故ニ城外ハ石垣ニテモ城内ノ方ハ久キ土井
ニスレハ強キシ物ニテ石垣ノ上ニ作支ナク雨水積レハ
孕ミ出スシ當時天下ノ法ニテ石垣ノ高キヲ禁セ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ニル堅城ヲナスヲ以テ」ト云心ニ見レハ高塁石壁ハ
頼ムニ不」足哉又石垣ノ高キハ無用ノ費ト見テノ
定メト見レハサモアルヘシ必ス諸国ヘ宛生ノ者来テ
積ムコト成シ流例ニテ且ハ其目付ノ心得ナレハソノ
哉ヲ了簡スヘキシ石垣其徳モ多シトイヘ𪜈戦
国早築ノ城ニハ用ヒ難シ故ニ其作法ヲ用捨有ヘ
キ哉シ高石垣高土居等外ニ大走ヲ二三段モナサヽ
レハ不」堪シ大走リハ古キ習シ必ストイヘ𪜈崩ルヘキヲ一ツヲ
ミスルニアラス大走リアレハタトヘ高石垣ナクテモ
堪エルシ如此ノ味ヲ不」知シテハ早築ハナシ難キナリ

又土居ノ上ヘアカルノ坂ハ矢ノ不込合様ニ坂ヲ付ヘ
キシ坂急ナレハ六具シメテノ上下ナラヌ哉シ是等
山城等肝要ノ心得シ治世ハ唯無用ノ所ニ念ヲ入ル
早築ノ用ヲ忘ル多シ

矢倉并狭ヽ様ニ用シ或ハ塀真草ニ又柵虎
落篠垣等ヲ而シテ此間ノ用事ニ依テ狭間ヲ出テモ防戦スルシ
城外ヘ敵付ケルハ矢玉ニテ拂ヒ故ニ廿間カ十四五間
塀除ヘ付ケルハ横合ヨリ拂フ故ニ廿間ト云是ニテ塀モ
ニテ二三間ホト折出ス横矢折ト云是ニテ塀モ
強シ長ワタリノ塀ハ弱キシ或ハ横矢屈風折ニ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

モ斜ニモシテ矢カヽリヨキ様ニスル。角ニ成テ
スヘキ様ナケレハ姓形ニ

其様子矢倉臺ノ如ク五六間七八間乃至十間ニ
モ掻上テ高屏ヲ掛ケシ其内ニ矢倉ヨリハ増シ矢倉
ハ遠ノヲ窺フタメ二階三階モアル支シ是モ五六
七八九十間ニ三間四方ナトノ檜ハ内ツヽリテ用ユルニ
不足勘シテ下棟アル矢倉ハ内狭ク矢玉放スニ不宜
下棟ナキ引戸ニシタンハヨシトシ檜長屋等内ノ方ハ
高窓ヲ明テ引戸ニセスハ鉄炮ノ煙篭リテ檜ノ内ヨリ
火支ヲ生ストシ當時ノ櫓ノ如ク戦国ハナシカメキシ
其草ナル哉不及云シ又屏モ真ナルハ限リナキシ柱ヲ
穿立ニシテ大壁ニ内外ヨリ二ツ目ノ結中ヘ栗石ヲツメ内
外ヨリ塗シ草ナレハ震ナシニモ用ユヽイ竹ヲソキテ
モ用ルシ脛キ所ハ柵虎落又ハ篠垣ニモスルシ必ス念ヲ
入ルカ城制ト思フヘカラス。其所ニノ様子次第ニ脛キヲ
用ルヽシ狭間ハ畢竟其外ニテ業ヲナスヘキ間数

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ヲ計ヲ切ㇾ戔ㇾ矢狹間ハ扣木ノ除ニ不切ㇾ或ハ出扉出
狹間仕様悪ケレハ結句害トナルヿ(ㇾ)金澤ノ御城回禄
有メル後伴ハ矢上奉行ニテ大久保忠左衛門御作戔
奉行ニテ御城営アリメリシニ矢狹間鉄炮狹間ヲ
交テ切戔ル矢奉行スル所ニ忠左衛門カ云ハ蓮
池ノ方廣堀ニハ矢狹間ハ不(ㇾ)叶切吉田大藏カ弟子
ニテ射術ニ達シヌレハ矢ノ業ノ及フホトハ身ニ知メリ
虎口除等ノ迫敷所ニハ矢狹間ヨシ廣堀ニハ業不(ㇾ)叶
トテ余程論シメリシカ元終ニ忠左衛門ニ勝ヲ其
通リメリシトカヽ是等ヲ以テモ知ヘシ戦国ニ近キ

者ノ志ノ別ナル戔ヲ早築ノ用ヲ察スヘキヿ
鄣莆ハ城築シ要樞ナル城内ヲ城外ヨリ見エルヿヲ
スルヲ鄣トカ同シク城ノ外ニ物立テ見ヘサル様ニス
ルヲ莆トカ鄣莆トモニ土居塀矢倉狹間屋敷柵
虎落植物家作何ニテモ用ルヿ(ㇾ)物ヲ立テ見ヘサル様ニ
カキ山ナトヲ有テ城内見エル所アル者(ㇾ)其トキハ此習
別ニシテ入戔ㇾ蒲生源左衛門カ常例笠間ノ城ヲ
築クニ向ニ佐白ノ観音山アレ共不構城ヲ取ル此
心戔アルトキハ其山ヘ敵人登ル戔不(ㇾ)叶如クニスルノ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

味ヒアリ此理ヲ不知ハ早等ノ城地有ヘカラス
捨曲輪抔堀ノ事并城外ノ小キ物ニ至迄皆以テ
奇等ノ制有事
城外常用ノ爲捨曲輪ヲ構ヘ若籠城ニ人數不
足ノトキハ捨ルモ敵ノタメニナラサル様ニスルノ此理勿
テ本城ヨリ二之郭ノ外ハ不殘見ヘテカクレタル所ナキ
様ニ二之郭ヨリ三ノ郭モ又如此ク見ヘ隠レ所アレハ敵ニ
合力仕寄ナシ捨郭此理ノ捨堀ハ城外敵来ラハ
一面ニ寄ヘキ地ナラハ捨堀ヲナシ堀残シタル所ヨリ
敵来レハ城ヨリ出テ防戦ニ手寄宜シク又ハ捨堀内
近城兵出テ是ヲ屯スル場トシテ防戦ニ利ヲ得
ル等ノ爲トス惣シテ三之丸ヘ敵入テハ二ノ丸ヨリ
出テ防戦ニ利アル様ニ二ノ丸ヘ敵入十ハ本丸ヨリ出テ防
戦ニ利アルカ如ク敵ト成テ内ヘ入難ク時方ハ防戦ニ
利アルヲ用ト搦ユル支一二ノ門内外形ノ勝手左右ニ
ヲ得失アルニテモ考フヘキ一ノ門ヲ入テ右ノ方ニ二ノ門
アルハ本勝手ニテ外ヨリアレノ内ヨリハ仕ヨキ此心得
ノ勝手ノ善悪トシテ了簡スヘキ備城外ニハ無
用ノ捨土捨石柵虎落（本ノマヽ）嫌ノ支ニ皆敵ニ合力仕寄ト成ル
故ニ虎口ノ外堀縁ト人ノ往来ニ落ヘキカト思フニハ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

塵防キトゝ云テ高サ一尺ニ不」過小土井アレハ駒堰ノ縁モ
カケスシテ人モ不」落若又念ヲ入レハ駒寄トテ三尺間ホ
トニ木ヲ立高サ二尺ヲ過ヘカラス上ニ細ク木ヲ立ヘシ城ノ外ノ堀縁ニ念ノ入タル柵モ厭ヒ物シ或ハ水堀ニ
付ノ水鳥ヲイハ不」掬支シ結句敵ノ忍ノ者ナト来ラハ
サワキ立テ知ラヨキシ如此ノ雑支迄ニ心ヲ付ヘキシ

水ニ付考シ事

城内ニ水ノ手薄キハ城ノ難シ流水ニ便リ等ハ水ノ手
遣ヨシ水櫓ナトニテ掛作リニシテ汲取様ニシタルモ
有支シ金澤ノ御城ノ如ク井戸澤山高キ城ニハ稀
ナル支シ右井戸一ツモ常ニ心ヲ付テ用ニ立ル心得有支
有然ニ戦国水ナキ城多シ越中森山ノ水ノ手モ遥カ
ノ山下シ其外諸国ノ境目ノ城多クハ早築ニテ山城
ナルニヨリ水ナキシ是ハ御大将ノ後詰アル迄ノ日数ヲ
計リ水ヲ溜テ置支多キシ後詰若遅キトキハ柴田勝
家ノ水籠割ニ出ラレタル支業ヲ知ヘシ此ヲ簡ナリ
テハ早築ノ城ハナシ難キシ

附城陣城取出城等毎陣有事

敵城ヲ攻ルトキ味方大将ノ御座陣念ヲ入レハ城ニ似タ
リ附城トゝシ侍大将等所ニヨリ附城モ有ヘキシ上方

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

辺ニ築山ナト、云是レ敵ト對陣ノトキハ陣城ト云ヌ
前ニ云カ如シ或ハ敵地ヘ入テ其地ニ次サキ城ヲ搆ヘ人數ヲ
篭テ歸リ童テ出ルトキ其城アルニヨリ働キヨシ是ヲ容
戰ノ取出ト云シ信玄公信玄塩尻峠ヲ越テ藪原ニ取出
ヲ築カレ或ハ返刈ヘ越テ小山ニ取出ヲ築カレタルカ如キ
是レ是皆城築ノ早ナル者ニシテ其人數ノ樣子ニ依テ搆
ヲナスヿ精粗アル支

廢城仕樣ノ事

戰國敵城ヲ攻取或ハ隘テ其城ニ人數ヲ篭置支モア
リ或ハ掃テ捨ル支モアリ其時當世ノ如ク丁寧ニ
崩スニ非ス城取ノ習ヲ以見之肝要ノ所ヽヲ崩ス支
竝形虎口ノ如キ第一ハ水ノ手ヲ斷ヘキシ又其仕形ア
シケレハ人足アヤテチスルシ高ミヨリ崩スシ童テ取立
ル支不叶樣ニスルシ元禄年間飛ス高山ノ城ヲ賀府
ヨリ廢城ノ役人ヲ遣ハサル高山ノ城中ニ名木ノ櫻ア
リ廢シタル時ニ到テ惣奉行ノ奥村市右衛門（御小將頭ノトキシ）下
知シテ此櫻ヲ切タリ廢城ノ跡ヘ所ノ卿民来テ此花
ヲ見昔シヲ忍ハヽ害ヤアラントテ推ル信列村上義清ヲ
信玄公追落サレ越後ヘ浪ヽタリ河中嶋ノ諸將武田
家ヘ隨順スルニ妻妾山ニ村上先祖ノ宮アリ此宮ヘ高

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

梨ノ岩井入道参詣シ涙ヲ流シ旧主ノ恩ヲ忍ヒ出シ逆心ヲ企ツルヲ踏潰サレシ支ナトヲ思ヒ出シテ今ノ治世サホトノ支ハアルニシケレモ名木ヲ切ハ一端ノ支ナレハ切メリトシ如此ノ細支ノヤウナレモ心ノ付所ニ心ヲ付ルハ如此シ

治世の城ニ常ニ破壊なき様ニ役人を心掛へき事

當時江戸ノ御城ノ如キハ気遣ナシニ城ノ修理手入ヲサス支ナレハ破壊スクナキニ国郡ノ主ノ城ハ破壊アレハ江戸ヘ達シ修理ヲカシキナレハ常ニ心掛テ損シサル様ニ有へキ第一治世久シケレハ城内ノ木共大木ト成テ枝ヲナラヘ雫ヲ門櫓扉ヘカヽリテ朽多ク又ハ根ハヒコリテ石垣土居ヲ損スル支多キナリ或ハ庁下リノ土居ノ端ニアル木ナトハ風ニユレテ根ユルキ城壁ヲ崩ス支幾クソヤ故ニ至テ害ノ見ユル大木共ハ風ヲ不持様ニ折シ枝ヲスカシテ手入ヲナシ枯タルトキハ切ヘトキハ其害ニ先立テ防ヘシ支ヲ見テノ跡ニハ詮ナキ物入トヽ目ニ立支多シ油断ナク心掛ヘキ若高キヨリ見下ルル蔀蒂ノ植物ト共ニ心ヲ付ヘキナレハ用

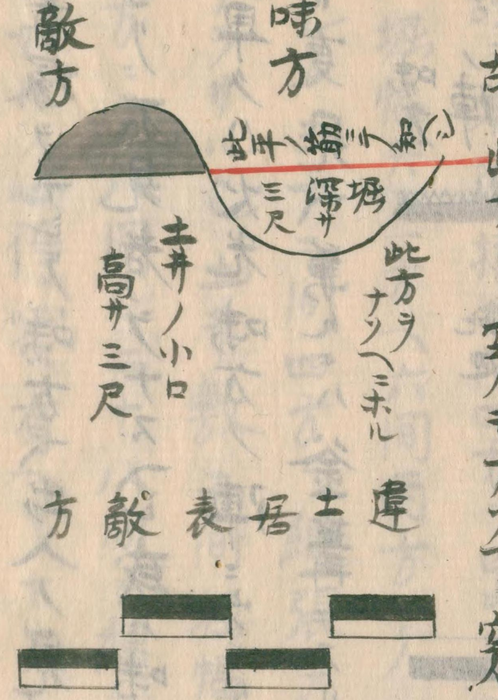
ナキ木ハ前ニ云ノ心得百年ノ治世ノ心掛ニ又石垣ノ矢
倉臺或ハ門前并形等ノ石垣ノ上ニ作支ナキハ雨露
ノ積リテ石垣ユルミ孕ミ出スハ直シ難キ者ニ其上ニ
ワラ覆ニテモナスヘキニ或ハシカラミヲ掛ケ石垣ノ孕ミ
ヲ押ユル其ヲカラミノ木ナトノ損シタルヲハ修覆ノ毎ニ
ナスヘシ修覆トテモ目ニ立ナラハ様子ヲ試ミ木ノ損
シタルヲ取替シハ大キナル支ニ非ス近年モ賀府ノ石垣ニ
カケタルシカラミノ木ノ古キヲ御留守居番閘屋市右衛門
心附ニ取替ノコトヲ前田美作守ニ談シテ安ク是ヲナス
其外水道埋ニハ水地ヘ引テ石垣土井ノ破壊ス心得
有ヘキ支ナリ堀ノ底埋ミルヲ穿直ス支ハ六ツカ
シキ事ニ常ニ浮草ヲ取塵ヲ拂フ支敏条ケレハ自
ツカラ埋ル支ナシ流水ノ堀ハ赤ツカユレハ町中ヘモ水
アフルニヨリ是ヲ計ツテ水先ノ高キヲ窪メテ水引
宜キ様ニ心得ルハ其安キ道シ安シモ油断ナク心
掛ヘキナリ或時賀府ノ石垣ノ石一ツヌケタルヲ
本ノ所ヘ入置タリ其時ノ普請奉行前田清八ニ
御城代前田駿河守清八ニ先日見レハ石垣損シ有シニ
直シメタルカトアレハ清八申スハ石垣損シ申所モ
無之直シ申所モ無之ユヘ申上ン支モ御座ナク候

石一ツヌケテ有」之ヲ本ノ所ヘ入置キ申候此外
ニハ存アメリナキト申ヲ駿河守以ノ外感心有」之ム
成旨シト申サレシトカヽ是等ヲ以テ其職タラン
人ハ心得有ヘキ支ヲ城揄ノ支ヲカヽ序ニ治世ノ義
モ論之者ヽ

第六

一普請方仕事方出陣ノ節心所常法ノ事
大概陣営ノ作法ハ前ニ出」之猶ヲトキハ籌垣ハ
木竹ノ葉ナカラモ内ノ不」見様ニ構之必ス木竹
ニ不限莚蔦ニテモ取付ルシ虎落ハ左前ニ結

菱垣ヽ違土居ハ此方三尺地ヲ穿テ其土ヲ敵
方ヘヒシハ土居ト成敵方ヨリ見レハ三尺ノ高ノ土
居ニテ半身出ルヽ味方ヨリ見レハ地ヲ穿ツ三尺ト
土居ノ盛土ノ三尺ト合テ六尺ノ高サノ陰ニ足怪ヲ
伏ルヽ故ニ此方ヲ穿モナシヘヽ穿ヘシ

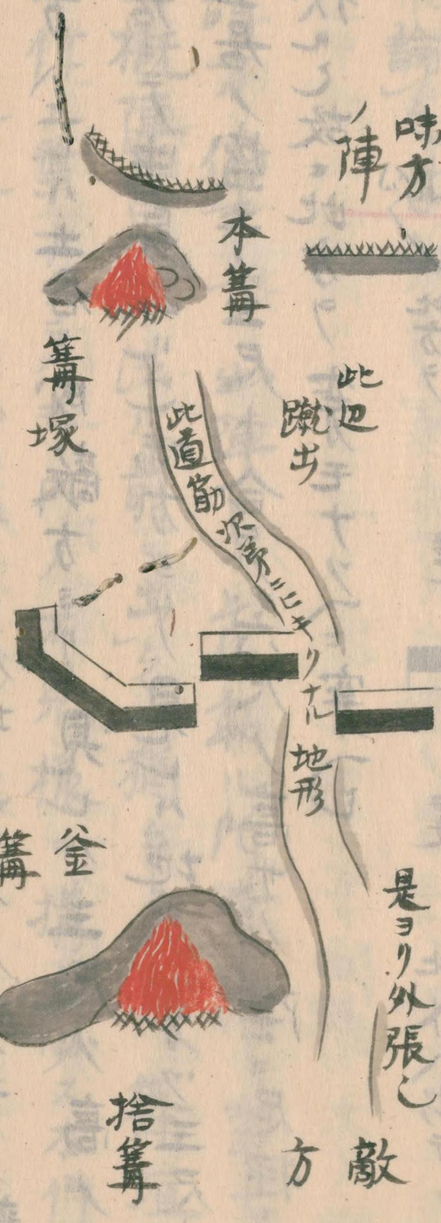


違
土
居
裏
味
方

此外ヘ出テノ
防戦モアリ
又ハ違土居
ノ上ヘアカリ
テ矢玉ヲ放
ツ支モアルヽ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

且篝塚ヲナシテ味方へ出入ノ見へテ味方陣中ノ敵方ヨリ不見考ヲナス〻ヘシ或ハ味方ノ陣高ノ捨篝ノ場早ク火光味方ノ陣ニウツリテ見ヘスキ敵ノ来ル支見ヘ兼ルニハ釜篝ニスル支し



或逆茂木ノ用意ヲナス逆茂木ハ火縄ニテツナク事モ有ヘキし扨又本陣ノ掻上ハ堀ヲ穿テ其上ニヲナ居ヲ築クトヘハ高サ一間ノ土居敷三間カヽルし堀幅モ三間モナクテハ其土不出し故ニ本陣掻上間四方ニセント縄張ノナサハ土居敷堀幅共ニ一方ヘ六間両方ニテ十二間ノ余慶ヲ心當ニテ三十二間四方ニ縄張ナクテハ内囲二十間ニハナラサルし土井敷二間堀幅二間ニテモ合テ四間両方ニテハ間し二十八間ニ縄ヲ張テ内囲二十間トナル如此ノ心得必ス有ヘキナリ山陣等ヲ地ノ廣サ

ヲ心付ヘキ山ノ形ハ多クハ九キク平地ノ二十間
四方ハ四百歩ト四百歩ヲ九ツスレハ指渡二十七間
不足ホトニ成シ是ニテ円ド方トノ違ヒヲ心付ヘシ四
百歩ヲ三角ニシテモ大概一方ヲ七間ホトシ是等
ヲ知ヘシ山陣ニ重築地腰郭後虎口両虎口脇虎口
ノ差別ヲ弁ヘ或ハ栖楼見セ櫓御旗鑓立柵木場
張番所ト楽堂編敷制札鐘丹堀柵ノ心得等ミ
ナ陣法ヨリ前ニ述ル趣キヲ以テ諸役所等ヲモ
作ルヘキ支ト

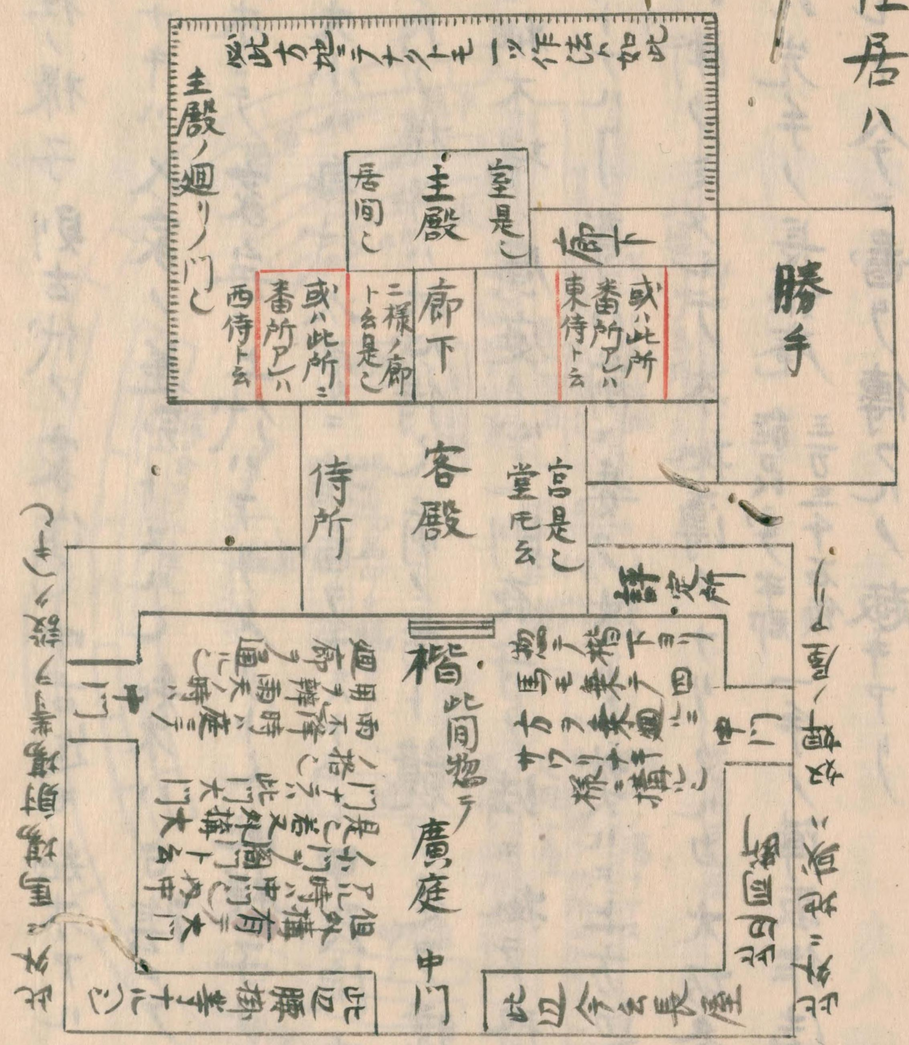
附

行列ニテハ道橋状ヲ一備ヘ場ヲ時ト
要害有事

前ニモ云行列ニテハ先立テ押道ノアレキヲ作
ル信玄公三増合戦ノ節帰陣ニヘ小荷駄ヲ
先ヘ帰サル道ニ敵方内藤大和カ守ル津久井ノ
城下ニ三箇所堀切ヲナシ柵ヲフルヲ道作リ
人夫ヲ以テ是ヲナラシテ通ル軍鑑ニ有之
或ハ備ノ場ニテモ時ニ依テ不険ノ地ニ味方仮
ノ要害ヲナス支堀ヲ穿カ逆茂木ヲ引等
ノ支結要本足軽働ノ所ニアリ是等ヲ知テ

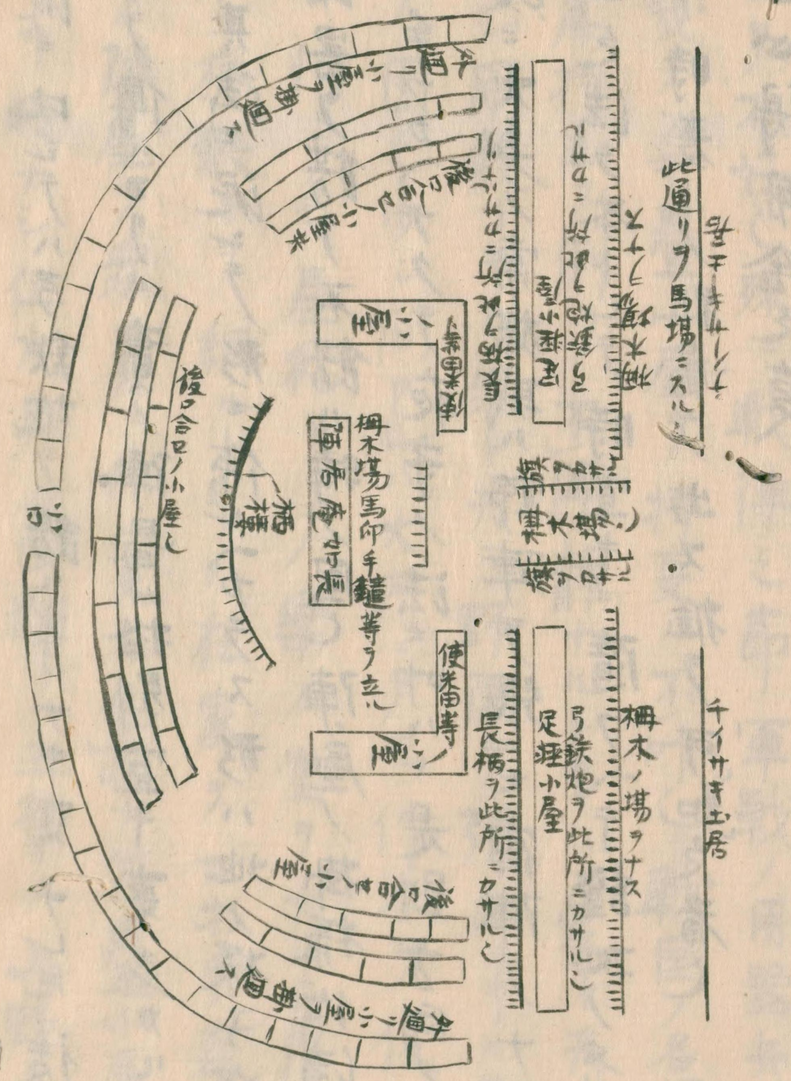
其早成ノ用ヲ了簡有ヘキシ或ハ
本陣撞ノ仕法ヲ本據柵木場ノ仕方上方辺ノ
甲冑流ノ夜守ノ法ヲ等ラなる拵知ヘキシ
本陣撞ノ粗骨前ニ出ソ其法トシ拠所ハ其
時代迄ノ家作リ常ノ作法ノ陣中ニ小
サクナシタル者ト見シハ夏安キシ本元ハ日
本中古迄ノ家ニ農家今ニ其住居残ルアリ

古代ノ住居ハ



国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

神社ノ様子則古代ノ家作シ中古迄モ知木アルハ神社
知木ナキハ人家ノ差別トスルシ知木ハ日陰ニテ刻限
ヲ知木ニテ家毎ニ上代ハアリタリトシ此様子ヲ本ニ
シテ大小ハ身代次第ニ指置ヲナストゐ甲乙流本陣
揃ノ内ノ様子ハ此心得シ前ノ置ト競ヲ是ヲ暁スヘキ
者シ柵木場ハ廣庭ノ心シ則夜守ノ法ニ拠テ内柵ノ
心得トナルヿ等ハ前ニ委ク述ルシ笑ルニ上方辺ニテハ
其法漸ノミメシテ本拠薄クナリタルカ大坂冬御陣
ニ加刀ル先手ノ長如庵 能刀ル半郡一万三千石領一手ノ陣取作法宜シカリシト今ニ語リ傳フルノ趣キアリ



国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

甲乙流ニ比シテハ弓鉄炮ヲ錆心等ナキ支ナレ𪜈後学ノ誤リヲ傳ルヨリハ實ノ陣最ハ格別宜キ支多カルヘシ故ニ其法ニ泥シテ形ニ係レルナリ諸器ヲ餝リ不餝ハ時ノ風シ陣屋ノ掛様作法ヨリ出働ニ手ツカヘナクテ夜守ノ法ニ叶ハヽ是則方円ノ陣法シ故ニ大身ノ常旅或ハ野陣ヲ張ニモ宿陣ヲナスニモ男一之法ヲ本トシテ時宜キニ隨フヘキ證拠ノタメニ本元ト時変トノ粗畫ヲ出ス推ヲ可知之者シ

畳小屋心得用捨之支

其宜キ仕様稀ナル者ニテ前ニモ云通リ主人獨リ身安キヲ好ム片ハ諸軍急心故ニ畳小屋ヲ持參スル支ヲ不好シ殊ニ戦陣之節軍戦ノ用器兵粮ノ具幾ソヤ畳小屋又持支ハ不叶シ戦国ノ名将是ヲ爲持玉フ例ヲ不聞静ナルトキハ衆ト共ニ宿陣シ開敷トキハ衆ト共ニ野陣ヲ張此トキハ幕ヲ打ラ囲之内シ間アレハ大将ニテモ竹木ヲ仮ノ柱トシ何ニテモ屋称トシテ樂ノ堂ヲナシ日覆雨覆トシ猶數日ヲ経ルトキハ在家ヲコホチ森林ヲ切テ陣屋ヲ衆ト共ニ作心支シ如此ナレハ畳小屋ヲ用ユヘキ時ナシ但大身ノ国郡ノ主等ガ山野ニ狩

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

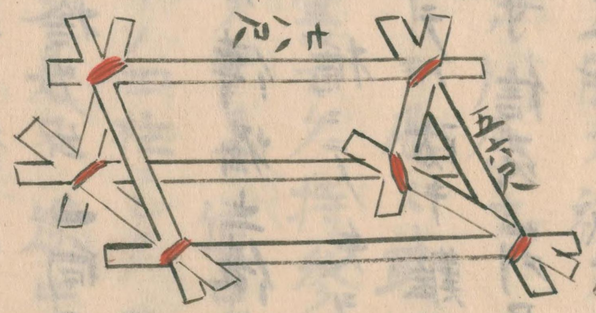
し或ハ常旅ノトキニモ二坪カ三坪ノ畳小屋竹ノ
柱ニ渋紙ニテ屋祢ヲナシ外ヲ囲フ程ノ支ハ有
テモ可シ何様ノ変ニテ山中或ハ川原ナト久敷屯
ロスルノ節ハ狂キ當病有ニシキニ非ス或ハ寒暑
ニツキテ何等之支ニモ有テ害ナク持参スルニモ
支ハ狂キシ又ハ當時ノ国郡ノ主ノ中ニモ道中往来ニ
畳ニ雪隠ヲ持セラルヽ有リ竹ノ四柱ニシテ幕ヲ以
テ囲ヒ渋紙ヲ以テ屋祢トスル心シ是又途中何様ノ
支モ久敷屯スル支ナトアルニハ一己ノ身ト違テ
大身ハ此具ハ有ニシキ支ニ非ス是ニ鎌一丁ヲ
添テ合テ其持人足ニ三人ニハ不過是程ノ支ハ
大身ノ生ニハ有ヘキ支シ身ノ重キ程麦ヲ慎ミモフ
支多キハ常理シ故ニ其用捨リ玄一向ニ小身者
ノナス支ニ非ス
城攻之時仕寄場ノ竹束牛或ハ傳堀土儀等ノ支
敵城ノ囲ヲ攻ル二ハ中古以往ハ楯ニテ矢ヲ防リト
イヘ共鉄炮出来シテハ楯ヲ以テハ防キ難キシ依之
武田家ノ部将ハ米倉丹後守信及苅屋原城
ヲ攻ルトキ初テ竹束牛ヲ工夫シテ城下近ク仕
寄ヨリ近年諸国ニ廣ノレンし

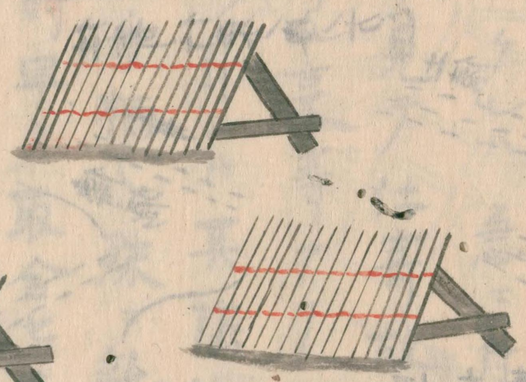
竹束之圖

三尺繩一ヒメ程
結テ是ヲ身ニ一
カサヒ持テ
寄ル

右牛ノコロハシテヨセ竹束ヲ表ニ結付テ其陰ニ居ル

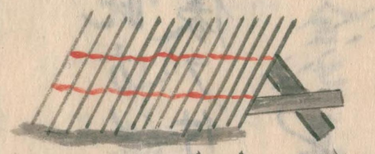
牛之圖





竹束之表ノ圖

此方敵城ノ方ヘ

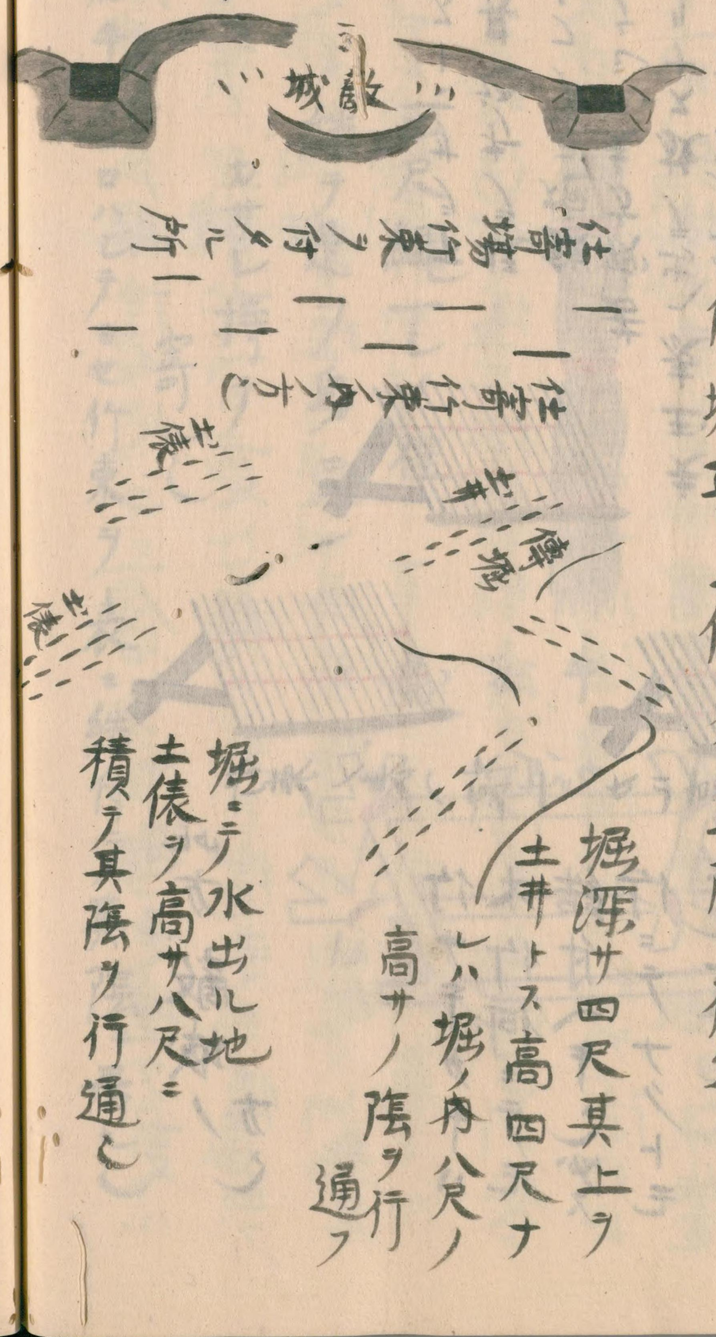


裏ノ方ヨリ支竹モ如此

竹ナキカキハ木竹何ニテモ結付ヘキヒ必ス竹ニテナクトモナル支ヒ

竹束ヒ拵ヘ様ハ
先ツ竹ヲ長サ六尺
位ニ切揃ヘ其竹ヲ
長キ方ヨリ三ツ
或ハ四ツ割ニシ
竹ノ節ヲ能ク削
リ取テ平ラニシ
其竹ヲ一ツ宛ニ
シテ竹ノ元ト末
ヲ揃ヘ竹ノ厚サ
ヲ一寸五分位ニ
揃ヘ竹ノ末ヲ
一寸程ツヽ揃ヘ
テ竹ノ元ヲ一寸
程ツヽ揃ヘテ
竹ノ末ヲ一寸程
ツヽ揃ヘテ竹ノ
元ヲ一寸程ツヽ
揃ヘテ

敵城高ケレハ竹束ノ此方ノ往来敵方ヨリ見エ
ルニヨリ傳堀或ハ土俵ヲ付其陰ヲ行通フシ



城方ノ守キヒシケレハ急ニ付難シ故ニ手立ヲ
ナシ敵ノ油断ヲ見テ仕寄故ニ夜中相圖ノ火等
ヲ以テ俄ニ取寄ル竟等アリ早ノ仕寄ヲ付ル
ヲ手柄トス一ツ付レハ其陰近行テ脇ヘ付出
スナレハ早キハ手柄シ殊ニ敵方ヨリ仕寄ヲ焼
竟モアルヘシ其時早ク取合セ其跡ヲ塞ク了
簡等其假人ハ有ヘキシ

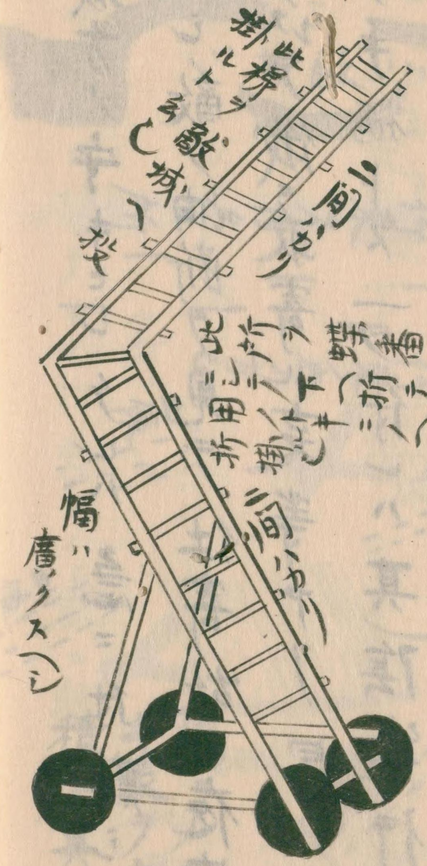
敵城ノ責ルニ堀ノ埋草或ハ山城ノ棄ニ其ノ時
ニ依テ可有之竟

水堀ハ筏ニ成ヨリ埋安シ涸堀ニテモ則チ仕寄

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ヲ崩シテ牛ノ俯入ル如ク堀ヲ皆埋ルニハ非ス二三
間カ四五間道ヲ付シハヨキ又山城ナトニテハ縄
梯子ニカキヲ付カケテ上ル或ハ中花ナトニハ雲
梯ナトニテ梯ニ車ヲ付テ押寄ル等ノ支アリ時ニ
依テ工夫有ヘキ

雲梯



四輪ノ車シ
大キナラハ六
輪ニモスルトナリ

必ス如此ノ器ヲ用ルニハアラサレ共是様子ニヨリ何
分ニモアルヘシ故畫之

陣中俄ニ浮橋仮橋等ヲ掛もあれヘきし

信長公ノ京都御在陣ニ摂刕ノ一揆アリ江刕ハ浅井
朝倉出張タリ叡山ノ衆徒等同之四方ノ敵ニハサ
ミリタルトキ瀬田ニ舟橋ヲ被仰付岐阜ヘノ通路ヲ
開カル如此トキハ早ク出来スル心掛アルヘきし或ハ天
正十八年小田原退治ニ秀吉公御動座ノ節東
海道筋川ニ舟橋ヲカケラルニハ神君ノ御領分ニ
テ伊奈熊藏兼テ察之舟ノ用意有ルニヨリ早ク

支整フし常旅ニモ大身ノ徒来ニハ浮橋仮橋ノ
支毎度有支し或ハ二瀬アル川ヲ半ハ舟橋ヲ
掛半ハ舟渡シカ歩渡リノ支モ有へきし諸軍ノ
通ル為ナレハ弱キ支ヲナシテハ用ルニ不」足し

第七

一陣中急後ニ心得有し事

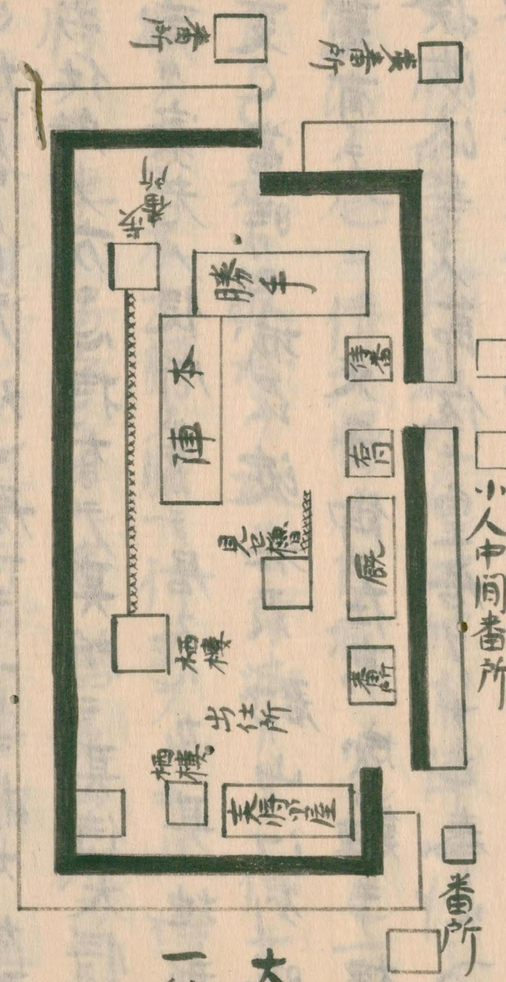
一夜二夜或ハ三四夜モ野陣ノ支アリ又秀吉公ノ
小田原陣中ナト敵ハ一城ナレハ其緩宥ナル支ニ
テ様ナし朝鮮征伐ノトキノ秀吉公肥前名古
屋ノ陣営ハ御本陣ハ不及ニ諸大名ノ陣営モ
金ノ繪ノ間ナト有テ御成モ有諸法度ヲ免サし
諸将諸士勝手次第ニ陣屋ヘ女ヲ呼寄常旅ヨリ
心陽キ程ノ支し是モ指當ル敵ハ渡海ノアナメ
ニテ静ナルニ又信玄公ノ駿河薩垂山ニテ北條
家ト對陣ノ内正月ヨリ四月迄永陣ナレモ敵ニ甲
府ヘノ道ヲ取切レタル陣中ニテ用心厳シキニ敵ノ
取出ヲ四ツ乗取或ハ二三箇所ニ成普請ヲナサレ
メ諸勢ノ陣ナキ様ニスル心ハ怠リナカラシムルノ
メメナリ陳ニテ油断ナレハ陣中不作法ニナ
ルナリ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

附り

久敷陣於張の外本大将他所へ働きの事あれ
侍大将留守於動なし叶ず陣心於し事
軍法ノ巻ニ侍大将ノ付城ハ少シ別シ一ツニシテモ不
苦トし是ハ敵城ヲ攻ルニ付城アリ侍大将モ各付
城ヲナス本大将ノ服へ行玉フトキハ侍大将ヲ本大
将ノ本陣ノ留守トスル支 信長公江及小谷ノ城浅
井長政ニ對シテ虎御前山ニ陣城ヲ搆へラレ御座
陣數年ノ内信長公ハ岐阜へも御歸リ又ハ他方へも
御働キノトキハ則秀吉公ノ木下藤吉ノトキ御
本陣ニ殘サレメ玉フし如此ノトキヲ一ツニシテモ
不苦トゐ笑レハ御大将ノ御座所ニハ居難キ支
しルアリトテ外ニ居へキヲ非スカヨウノトキハ
出仕所ノ方ニ心持有テ其侍大将居スルカ
或ハ家老ノ役所等ニ居スルカ其地形ニヨルへキ
支と當時モ城及淀和及郡山江列膳所等ハ若
支有テ 天子御在京成難キ程ノ大災カ一
揆決太等ノ節仮ニ皇居ヲナシ奉ルへキ爲ニ本
城ヲ除置テ其城主ハ本城續キノ二ノ郭ニ在住セ
ラルヽトし陣屋モ此心持ヲナサンハ全フシテヨキ

是等ヲ以テモ知ヘシ其地ニ依テ何分ニモ様子ヨノ可」用ヲシ



大概ノ一躰ヲ云

野陣張様心得有ヘキ事

右ニ云陣取作法ノ人數配ニモ及スヘキシ但所ニヨリ柾キ堀切或ハ長柄ノ垣トシ或ハ逆茂木或ハ大縄ヲ張等ノ支有ヘキシ幕ヲ打等ノ作法有ヘキシ惣様ノ馬ヲツナクニ杭ヲ打テツナクカ木ニツナクヘキシ惣ノ陣屋ノ厩ハ地ヲ窪メテツナクノヘシ左ナケレハ草ナル小屋ヲ引崩スモノシトヲ云ニ大坂ノトキニモ押寄テ三月野陣メリシニ賀及ノ人數ハ河及砂村ニテ三日三夜ノ間雨降ツヽキテ難儀メリシトヲ傳野陣ニハ篝ヲ焼ツヽケテ廻リニ大縄

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ヲ張夜廻リ等猶更油断ナク人數不散様ニスヘシ

連ヽヲ以テ小屋ヲ掛心支シ

雪隠ノ地度量シ事

小屋ト小屋ニ筋後口合セノ時ハ其間ヲ一間通リ明テ閑所ノ地トス一筋通リノ小屋ナレハ小屋ト小屋ノ隣リ境ヲ閑所ノ地トスル心ニシ地ヲ穿チ又外ノ地ヲ穿テ初メノ用所ノ地ヲ埋ム如此穿替ルニ故ニ長陣ヲ張ニハ此地ニ余慶有ヘシ陣中城中等不浄ノ捨所ノ心得アレキトキハ後ハスヘキ様ナレ惣ヲ人ノ集ル所ハ第一ニ不浄或ハ下水ノ引所ニ心ヲ付ヘキ事

子ハ不叶支ニ當時モ京都ノ東西ノ堀川ハ古ヘ平安城ヲ開カレシトキ京中ノ下水ヲ落ス爲ニ故ニ今其堀川ノ下ニ到テ水菜ヲ作ル心水ニ肥ヲ入ヘシトカヽル大キナル作支等ヲナスニハ最初ニ作支小屋ヲ掛ルトキニ第一不浄所ヲ考ヘ第二下水ヲ通スノ滞リナキヲ要シテ其上ニ家ノ住居ヲナス如此ナリテ不宜ニ陣中ハ草ナル栖居ナレハ弥考ヲ專一トスヘシ

陣具用意同具小屋落シ陣具相渡次第ヲ知ルヘキ事

陣具ヲ此方ヨリ持參スルハ幕其外ハ物ヲ包

ルノ渋紙糸立等ノ物次〻ニ其地ニ至リ取ル
或ハ小屋落シトテ敵ノ在郷ノ家ヲマホチトル
或ハ森林ヲ切取ル此トキ味方同士ノ争トナルコト
モアリ或ハ敵出テ追散サレル支モアリ押シテ
人数ヲ置番〻ニ取ヘキ里スクナキトキハ陣場奉行
ヲ誰カ手ハ何方ト割符ヲナス妄リニ取支ヲ禁ス
一番先衆二番二ノ手衆三番後備小荷駄奉行
四番右脇次ニ左脇五番御旗本七
番浮勢未書下巻下ニ歩之旗本ノ外ニテハ
足軽又一番シ信玄公相及深澤ヘ働ルヘトキ山
中三ケ里スクナノ陣場奉行ヨリ割符ノ次第如
此トシ乱取ノ時ハ先次第シ若人多クシテ奪取ニ
於テハ味方討同支タリ其奪取タル者ノ手ヘ付
テ行其手ノ六奉行ニ断シ其役人タラン者ハ手
廻宜キ様ニ割符ヲナスヘシ
敵ノ在郷ヲ放火ニ或ハ放火セヌ事モ心ヲツケ
事ニ山ヲ働キシ事
敵地ヘ入テ早ク帰シトスルニハ敵国ノ民屋ヲ放火
シ乱放ヲナス其地ニ久ク留ンニハ民ニ親ムヨキシ
爰ヲ以テ諸角豊後カ敵今年ノ働キヲ以テ来

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

年不来民屋ヲ不荒ハ親ヲ求メテ又来年来ル
ト考ル哉シ中華ニテモ項羽関中ニ入テ乱妨放火
シ婦女ヲ侵スニヨリ関中ノ民不親高祖少シモ乱妨放
火セス婦女ヲ不侵ヨリ関中ノ民親テ其功早ク成トゾ
哉ハ軍法之巻敵地働キ山手ノ哉トゾハ山手ノ
シ其外薪陣具等ノ手遣ヨキ道ニ筋アラハ山手
ヲ働ンカヨシトゾ哉ニテ委ク未書ニモ出ル之是等ノ哉ヲ
知ヘキシ慶長五年東兵濃州ニ到テ岐阜ヲ攻落シ
長良川ヲ越テ八月廿四日赤坂ニ到テ近隣山野ニ委
ク陣ヲ敷関山ヲ神君ノ御陣所ニスヘシト定メ是ヨリ
次ニ普請ヲ初メテ相待諸将ノ陣取其四方ニ営ヲ
ガス笑ニ藤堂高虎ノ部将藤堂玄蕃町端ノ小家
ヲニ三軒放火ノ験シトテコホシテ焼之残ル町屋ヲ
不荒依之郷民等是ニ親テ陣中ノ諸用能達スト
是ヨリ是等ノ様子ヲ知ヘキ哉シ
陣中ヘ商人共入或ハ不入又ハ小屋遠近ノ考
ニ有シ事
陣中トテモ諸用ハ商人ニテ弁セサレハ不叶軍ニ近キ
者ハ貴商トゾモ是シ小田原陣名古屋陣大坂陣
等ノ如キ商人モ陣屋ヘ来住セシトイヘ共是ハ必ス

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ト搭ニ不成支ヒ已ニ大坂冬陣ニ加茂ノ生駒主水後ニ
八郎右衛門トゐシナリ 利常公ノ御意ニ違ヒ陣中ニテ坊膜モ仰
付ラレントノ支ニテ心易キ者共主水カ小屋ニ集リ
居シニ小屋ノ前ヲ振賣ニ鸛ヲ賣テ通ルヲ求メ
テ料理シ生前ノ暇乞ノ盃支ナトヲ催ストナリ
主水ハ御近習ノ出頭人ニテ則冬陣ノ御途中越
前麻生水ニテ横山山城守父子三人歸參仰付
ラレタルトキノ奏者モ右主水シ如此ノ者ユヘカ切
腹ノ沙汰ナリ御暇下サレ後又子細有テ賀有ヘ
来リ今ニ子孫ヲ残ス如此ノ賓支ニテモ知ヘシ笑

ヒヒ陣法ヲゐトキハ陣中ヘハ商人ヲ不入シ上方
迎ノ支ナレヒ戦国気遣ノ時ハ作法ヲ正フスルト
見ヘテ加藤嘉明記ニゐ所ノ趣ハ商人ノ賣物ノ小
屋ハ近クハ掛サスヘカラス敵地ノ者ナレハ親ミヲ
モ気遣多キ支ヲゐシ殊ニ一銭刺 但其頃ノ一銭ハ今
以テ月代剃髪ヲ結トシ當時ノ一銭五タノ米ニ適スニ銭ヲ
割モ米二合三メニテ知ヘキナリ ナトノ小屋ヲ陣屋ノ近クニ掛
サスヘカラス 敵方ヨリ間者ナルヘカ不知殊ニ莚フキナト
ミシタルハ風高キトキ風上ナラハ火ヲ付ル支アラント要
ク禁シメタリ 爰ヲ以テモ陣中ヘ不入支知タリ笑ヒハ
其商人小屋ヲ掛所ヲ計テ味方ノ陣ノ害ニナラス又

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189　　ガラス使用

敵ノ引寄ナトスル支ノナラヌ所ヲ考テ掛サスヘキ
支肝要ニ陣中トテモ風呂ナトヲ永陣ニハ掃ニ支
モアリト古兵ノ云傳ルハ緩ミトレ久ク大坂陣ノ如キノ時
ノ儀ニ開シキ敵味方守リ合互ニ透間ノカンフルトキナ
トハ支ミニ油断ナラスヨノ心
一
第八
陣取ニ敵ヲ近キ陣拂急緩シ事
陣ヲ他所ヘ移ストキハ可入物ハ取集メテ先ヘ持參シ
其先ノ用ヲ達ス遠方或ハ陣ヲ拂ヲ歸国ノトキハ陣
場ノ違ヒ居堀切等ヲナラシテ篠垣其外小屋具ヲ
集メ焼拂テナリ尼跡ヲ敵ニ下墨ニ不進様ニスルヲ
リ急ケルトキハ只小屋ヲ焼拂テ成トモ又ハ小屋ヲ
其侭置支モ可有之謙信公ノ河中嶋合戦ノ前夜ニ
陣ヲ拂テ出ラルル尼清野ノ古城妻妾山辺ノ諸陣ハ
不拂ト見ヘテ九月十日ノ早朝ニ高坂彈正初メ十手
一万三千ノ人數押寄タルニ朝露深ク敵ノ陣中ニ有
無不知ウチニ河中嶋ニテ信玄公ノ旗本八千ヘ謙信公
車掛有之戦初リ鉄炮ノ音聞ユルニヨリ敵陣ヲ伺
フニ夜中ニ出ル力人數ナキニヨリ高坂ヲ初テ驚テ急
キ河中嶋ヘ押向フトナレハ小屋ヲ不拂支モ有ヘキ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

或ハ越前ノ朝倉義景ハ信長公ト江北田辺ニテ對陣ニ
気力尽テ陣屋ニ火ヲ拂テ越前ヘ退ルヘシヲ信長公
其火光ニ依テ兵ヲ発セラレ刀根山ニテ追付テ戦勝ア
リシカ如ク小屋ニ火ヲ掛テ退ニモヨク弁フヘシト
ニカク武具ヲ不落ヲ以テ誉レトスル所ニ伊奈衆ヘ板垣駿河守
支多キ心ヲ付ヘキ或ハ信玄、伊奈衆ヘ板垣駿河守
信形働ノニ伊奈衆安ミト敗スル心ヲ信形追之荻原九
郎次郎トハムルトイヘ不用、内ニ伊奈衆ノ陣屋ヨリ
搭奸起ツテ信形難儀ニ及フ是ハ陣屋ニ人毎ヲ示スヘシ
敵味方共ニ互ニ此心得有ヘキ支ニ或ハ朝鮮陣ノト

キ日本勢尉山ノ城ニ籠ルヲ中華人三十万人ニテ
押寄圍テ責ル支數日城中兵粮尽テ難儀ニ及フ
中花人モ急ニ寄メル大軍ナレハ兵粮ノ用意薄クー
夜ノ内ニ陣ヲ拂テ人數ヲアケメリシニ城中ヘ次シモ
其様子ヲ不知トシ殊ニ陣中ヲ不残ナラレテ仕廻不
浄所等ニテ何方ヤラン不知様ニシテ退メリ大将麻貴
将軍メリトイヘ共ニテ中花ノ陣営ノ作法厳ニシ
テ練メル兵ユヘ陣拂ヒノ手遣如此日本人ハ殊ノ外不作法
ナリシト云傳フ然レハ敵国ヘ入テノ陣営ヲ拂テ歸ルニ
心得有ヘキ支ニ常旅ニテ大身ノ諸驛ニ宿陣シモフ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ニモ其旅宿ヲ立テノ跡ニ道具ヲ落シ或ハ宿ヲ荒スハ不作法ニ見エル能ク作法ヲ心ヘ（キ）増テ陣中ノ陣拂ヒニ大方ニ思フ（カラス急緩ノ様子兼テ心ニ置トキハ急ニ迷フ（カラス

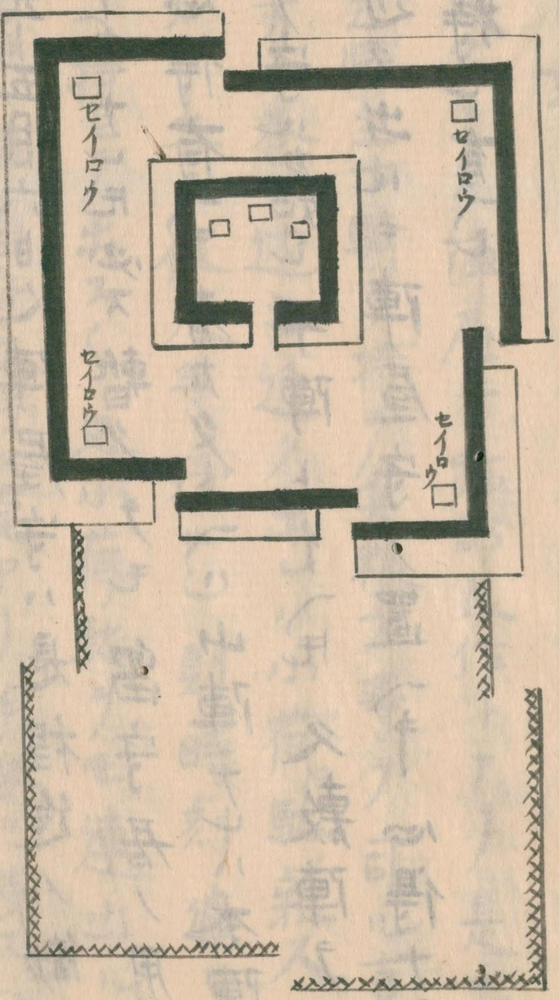
附り

陣拂備シ事

惣軍ノ陣拂ハ小荷駄奉行ノ跡番ニアタリ名備ヨリ勤之信玄公御旗本ノ陣拂ハ大近習ノ明日一番合戦ヲ持一組残テ勤之但足輕ノ一組ニ組モ押ヘノ爲ニ隨フ（キ）諸手トイフ（ヒ此格ニテ陣シテハ支調ニ難キシ普請方作支方ノ役人モ一手宛必ス残テ陣拂ノ支ヲ勤ム（キ）前ニモ各三手ニスハ一手ハ陣場奉行ニ隨フテ真先ニ押一手ハ御旗本ニ押續テ急用ヲ弁シ一手ハ非番ニテ戦場ノ働ヲナス此非番ニアタリ名一手陣拂ヲ勤メテ可シ陣場奉行ハ法ノ如ク真先ニ押テ先ニテノ場ヲ見積ル支シ此作法ヲ以テ時ノ変ハ格別）人ノ落シメル道具ニ心ヲ付不覚ニナル（キ）事物ハ取集メ先ヘ持参シ相渡ス（キ）常旅トイフ（ヒ此心得アル支シ陣屋ヲ引拂ヒ出ヲ働キ又立帰リ陣屋ヘ入ル支陣

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

武田家ニテハ陣屋寺跡部美作トアリ是モ譜代ノ
侍大将五十騎ノ持テ兵粮方等ヲ司ル支配ク兵
粮方ノ巻ニ述ル近ク出レハ小荷駄雑人ノ小屋ヲ
残ス手毎ニ役人等残ルヘシ則時刻遅レハ兵粮ヲ
拵ヘ持セテ出スヘシ又小荷駄ヲモ連出ルトキニモ
陣屋ハ陣屋守ノ残ス事アリ手毎ニ残スヘキナリ
或ハ前ニモ云信長公ノ虎御前山ニ秀吉公ノ残サレタ
ル如ク或ハ江尻横山ノ城ニ秀吉公ノ置レヘニ近卿
一揆起ルヲ鎮メニ秀吉公ハ出馬セラル其間ニ浅
井長政小谷ヨリ出テ横山ノ城ヘ取掛ニ二ノ丸
迄攻落ス竹中半兵衛能本丸ヲ守テ不出内ニ秀
吉公取テ返シ拂ヒヲ敵ヲ討支ニ百計是元亀
二年五月六日ノ陣屋守ハ是程迄ノ働ハナルニ
シキカナ元ヨリ必ス輜ノニテモ留守居ノ用ノ故ニ
其心得有ヘキ者カタメトヘハ山陣ナレハ本陣近ク一
圃ヲ守ルカ如シ平陣トイヘ共久敷陣ヲ張テ戦
場近ク出ルニ陣屋守ヲ置ヘキ心得ナラハ陣城
ノ心持モ有ヘシ



必ス如此ニハナクテ其一躰ヲ察スヘキ
陣中まく火事有る時心得し事
其一陣取一囲ノ内ノ者ハカヲ尽シ可防之他陣ノ
者ハ備ヲ堅メテ敵ノ来ルカヲ考不時ノ変ヲ
守ル三品虎略品ニ曰陣中火支出来火本
ノ下人一人成敗ノ支主人ニ一科不可有之支火支
ニテ諸道具焼失候ハヽ早シ可申上候御合
力御屋形ヨリ如在被成間敷支トゝ是諸具
ノ支ニハ不構火ヲ防ク心他陣ノ者ハ不時ヲ守心シ
或ハ太平記理盡抄ノ説ニ正成飯守ノ城ヲ攻ルトキ志貴カ陣ヨリ自火ヲ出ス其一陣ハ火ヲ防ク
ナリ此騒キニ城中ヨリ兵ヲ出スヲ恩地カ一陣ノ
人数ニテ敵ニ向テ是ヲ喰留テ城中不入内ニ正成

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ノ旗本一陣ノ人数ニテカ（ツテノ敵城ヲ乗取終ニ
時光ハ打負メリトシ或ハ大坂篭城ノ内ニ三度出
火アリシヲ城中ニテ能ク消シ寄手ニ不知トシ或ハ
又城取ニテモ心得有（シ矢倉ヨリ長屋ラツヾケテ
作リメルハ若シ失火ノ節防キ難シトシ當時江
戸ノ城ノ如ク門櫓ト長屋トノ間ヲ三五間モ屏ニ
シ長屋モ長クツヾカヌ様ニ七間廿間ニテ間ヲ置
屏三五間ヲ掛ルハ火ノ用心ヨキシ陣屋ニテモ兼
テ小屋割ノ仕様若失火ノ節ノ防キヲ心得有
（キ支シ或ハ明暦ノ酉ノ江戸大火支ニ御城中焼
失メリシニ西ノ御丸ハ無恙残ルハ離レ郭ユヘナリ離
郭ハ構様アシケレハ江戸小谷ノ城ニ大嶽（ヲヲダケ）ノ方ニ離
レ郭アリ是ニ浅井久政アリ本城ニハ長政アリ其
間ノ京極ツヾラ中ノ丸等ハ寄手ニ乗取テ父久
政ノ生害ヲ長政不知シカ如キ害アリ様子能構ノ
ルハ右ニ云大災等ヲモ遁ル、コトアルナレハ了簡有（キシ
是等ヲ以テ陣取ノ粧キトモ一連ニ小屋ヲ掛ケル
ハカリニテハ火ハ防キ難キヲ心付（キシ惣テ陣取ノ
支ヲ論スルニ依テ述ヲ其役人ハ心掛有（キシ

第九

一普請方仕事方陣中ニて武功有ヘき事

常法ハ前ニ悉ク述之其常法練習ノ丹ヨリシテハ何様ノ不時ノ変有テモ取合セ大ニ支ノ跡トナルし故ニ支ニ非形チニハカリ泥ムトキハ皆支ニ先立テ変ヲハカルニアラスハ其役人ノ器量ニアラス前後貫通シテ可知之し

附り

時ニ當ク普請仕事ニ於テ敵ノ機ヲ呑武功ヲ成心得ヘき事

前ニモ悉ク述之軍法之書ニモ所ノ趣キ大ニモ金穿モ見ヘタル所ハカリニ非ス大和川ノ瀬違ヘ或ハ大坂城内ヘ穿入テ火ヲ放サントスカ如キハ實ノ支ノ外ニ勢ヒヲ以テ敵ヲ欺トス支し或ハ飯富兵部カ信玄ニ対山ニ在城ノトキ謙信公働キモフニ築ク川ニ二ツ橋ヲ掛テ待之是ハ其川浅キヲ以テ業ト敵ヲ導キ急ニ旗本ヘ掛撃ン為し是等ノ作支早ク用ヲ達スヘキし或ハ橋ノ桁ヲ絶水中ニ大縄ヲ引等ノ支アリ或ハ仲達カ寄ルニ孔明門ヲ披ニテ水ヲ灌ク是其陣営ノ疎ナルニ不屈し

或ハ義経公ノ堀川ノ御所ノ跡ナルニ人次キヲ知テ
土佐坊カ寄ルニ門ヲ披クカ如キ敵ノ機ニ先ヲ呑ノ勢
ニアリ或ハ敵城ヲ攻ルニ城外ヲ囲ミ返リ鹿垣或ハ逆リ
要害ヲナシテ城内ノ敵一人モ不逃カ如クシテ敵ヲ弱ク
シ或ハ熊ト一方ヲ不囲シテ敵城ニ十死一生ノ機ヲ緩ク
スル等ノ計謀時宜ニ依テ制法アリ又天正十八年小田
原攻ノトキニ敵方松田尾張笠原新六郎内通ニ依テ
石垣山ヘ敵上ラハ小田原ハ直下ニ見ヤスキヲ秀吉公聞
玉ヒテ四月初ヨリ石垣山ニ陣城ヲ大キニ構ヘ一夜ノ内
ニ白壁ヲ構立ヲ見テ小田原ノ北條勢肝ヲ消シタリトゾ

是戸障子ヲ杉原紙ニテ張ルカ如シ如此急構ヲナ
シテモ敵ノ気ヲ奪フ又是ヲ察スルトキハ先立テ敵
ニ勢ヲ呑レサルノ計謀モ有(キ)右ニ述ル趣キ御大将
ヨリ其理ヲ説テ下知シ玉フ支モアリ又其理ヲ上ヨ
リハ不云シテ自ツカラニ其理ニ通スルカ如クナシ玉フ
支モアリ故ニ兼テ如此ノ理ヲ察シテ急構ノ敵ノ機ヲ
呑支ハ常ニトイヘモ有(キ)支シ
俄ニ普請仕掛有(キ)事
大坂冬ノ篭城等ハ支急ナルニヨリ惣構ヲ守ル急
掩ヤリ難ク町屋ノ土蔵ヲ以テ矢倉トシテ障子ヲ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ナラヘテ屏下地トシテ上ヲ塗メリトゾシ早築ノ取出
等ヲ構ユル此心得ナクテハ支整ニ難キシ或ハ石垣山
ノ如ク敵ノ方ハカリヲ構ヘ或ハ城築ノ法ヲ知ラキハ
要樞ノ所ヲハ早ノナスシ如此ノ心得治世ニ次支ノ以
後屋敷ノ囲ミヲナス等ニモアル支シ
書請仕事ニ隠着到兼用ニシ為メ急ニ普請
仕事ハなき事ー
メトヘハ人足ヲ集ルニ数ヲカンヘスレテ人数ヲ知ハ
何人持ノ木竹石土何ナニテ荷トゾニテ人数知ル或ハ
銭餅酒菓子等ヲ以テ一人ニ何程宛ト与ヘテ

畢竟惣計何ホトゝ云ニテ人数知ルシ是當座
ノ為トテ人数ヲ集メテ
モ隠着到トゾシ是等ノ心得アル支シ或ハ利常公
常旅ノ御道中ニテ御旅宿ニテ毎度作支ノ模様
ヲ好ニセ玉ヒメトヘハ暑ノ時分ナレハ此所ニ書院床ヲ
付風ヲ請ヘシトノ御好ミ或ハ寒キ時分ナレハ此方ヨ
リ風来ル立ヘ壁ニテ塞キ囲ニシツラヒ可笑ナトゝ
時ノ思召ニカセテ俄ニ御旅館ノ住居ヲ皆ヨト
召連ラレシ御大工ニ仰付ラレ夜トモニ其作支ナ
レ翌朝御發駕ノ頃迄ニ出来セサレハ御物數

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189　　ガラス使用

寄ラ仰出サレ金銀ヲ下サレ来年御通リノ時分
御覧シラレントト有ラ御立アルヿ大方毎宿モ如此
ニテ其御好ミノ浅深ハアリテ又来年御通リニ其
御宿ニ御泊リノ支アレハ前年ノ御物數寄御覧
アレハ不宜トテ又御作支ラ仰付ラルヽ名将ノ
ヨリ是普請作支等ラ仰付ラルレハ閑數ノ人モ
入込ニヘ番人モ油断ナキラ守リノ專トナル所ヽ如此
ノ品ニテ庭ノ普請ラ御好ミノ時モアリトゾヽ名将ノ
作用ハ凡人ノ不及支トハ云ナカラ如此ノ様子ラ知リ
治世ノ常支ノ外ニモ此心ナル支多カルヘケレハ其
理ラ上ヨリ說キ下シ不給疵察シテ是ラナスヘキヽ
急成城攻ニ勢カヒラ取武功至ルヘキ事
三品龍品ニ曰敵城攻ル武功ノ内ニ金穿ノ捲責トゾ
ハ山城等ノ矢倉下ナトラ穿崩ス支ヽ或ハ籠入責
トゾハ敵ノ大将ノ寢所ノ下ヘ穿入ル支ヽ神君濱松
御在城ノトキニ武田勝頼ヨリ如此ナシテ忍ノ者ラ入ル
折節夜中御目覺ラ起上リ玉ヒ十念ラ唱ヘ御座
候トキニテ御夜着ノ物ラ彼忍切タリトゾカ如キヽ
或ハ堀ノ水引トゾハ城外ノ堀ノ水溜リ水ナラハ引
落スヘシ城中気落ヽ是ハ平家物語ニアル越

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189　ガラス使用

前火打カ城ノ溜水ヲ薗明國儀師カ返り忠ニテ引
落シテ落城セシカ如シ或ハ朝鮮陣ノトキ亀ノ甲
ト名付テ木ヲ以テ家ノ如ク作リ生牛ノ皮ヲ以テ外
ヲ覆ヒ其中ニ人乗テ四輪ノ車ヲ付テ城下ヘ押付テ
モ不損様ニ拵ヘテ矢倉下ヘ付テ石垣ヲハチ起シタリ
トゾ是中華ニアル轀輬車或ハ尖頭木驢（ヒトウボクロ）ナトゝ云ノ類
ナリ如此ノ了簡モアルナレハ支ヲ廣ク知ヘキ
敵城水責シ度量シ事
日本ニテ水攻ノ支ハ秀吉公ノ備中高松ノ城濃及
竹カ鼻紀及根来此三所ノ外ハ例ナシ流水ヲ止キ
入スシテハナラヌ支シ初メハ少シノ支ノ様ニテモ日數
積レハ以ノ外早ク水積ルモノシ
叶心トイヘ尼高松ナトハ余程高シトイヘリ或ハ奥及
ノ城ハ地窪シトイヘ尼此城ヲ水攻ニセントスレハ寄手
ノ陣ヲ數ヘキ所ナシトイヘリ賀及ノ小松ノ城モ浮ノ
中ニテ平地ナレ尼水攻ニナラヌ是ヲ浸攻ト云又水攻ニ
中花ニハカリトゾ川ノ端ニアル城ナトヲハ川上ヲセキ留
テ水ヲ溢レサセ急ニ切テ落セハ漲ル水ニ押流サス
ルトシ是ヲ蛇責トゾトシ或ハ信玄公遠及ニ俣ノ城
ヲ責ラルヽトキ天龍川ヨリ水通ヲ以テ城内ヘ水ヲ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

取トゝヲ聞テ川ヘ糠ヲ散シテ見ルニ糠ヲウツニリ
所アリ其所ヨリ水ヲ取ヲ考ヘテ則水ノ手ヲ断シ
是ニテ早ク落城ス是ハ水ヲ渇シサスルノ心又蛇責
トゝハ常蛇ノ勢ヒ其首尾ヲ合スルヲゝシ謙信公武
州私市ノ山ノ根ノ城ヲ御頓見アリシニ追手ノ平
場ノ地ヘツヾク処ハ城兵ノ守リ厳シ後ロ堅固ノ沼
ノ方ハ守兵ナク堀切ノ間ヨリ地白際ノ惟子ヲ着タ
ル女ノ影撲リ見ユルニテ窮ヒ、玉ヒ夜ヘカケテ後ノ沼ノ
方ヨリ火光ヲナシ鬨鼓ヲ打テ仕寄道ヲ作リ城兵
周章シ後ロノ方ヘ兵ヲ分ル様子ヲ見テ追手ノ

方ヨリ城ヲ乗取玉フヘシ如此ノ時後ノ方ノ不用ノ心仕
寄道ナシヒモ支ヲ諸勢ニシラセス實ニ仕寄道ヲ
ナスカ如ノ心得ルヲ要トス〳〵キ者シ此等ノ様子ヲ知
テナス〳〵キ者シ

侍普請ノ根子ニ丁場ヲ付ケシ本

戦国急成普請ノ時ハ侍中モ持竜ヲ捲テ是ヲ勤ム
軍鑑ニ云士ノ人役トゝ中ニ普請役ヲ上タリ侍ノ普
諸役ヲナスハ役丈ノ正ス一人ノナス勤メノ如ノハ有
ヘカラス唯其衆カヲ以テ功ヲ終ンカ為シ故ニ丁場分
ヲナシテ勤メサスルシ此流例ニ依テ江戸ナトニテ諸大

名ヘ御普請ノ御手傳ヲ御頼ノトキモ丁場分
有之ナリ古ヘ侍普請有之トキハ諸将ナイヘトモ
自身ニ鍬ヲ取持箕ヲ擔ヒ依之雑人ト不紛様ニ陣
羽織ヲ籠手小袴等ヲ着シテ其場ヲ勤メ
メリトゾ丁場境ニ相論ナキ様ニ役人ノ心得有ヘ
キシ大坂ノ城普請ノトキ伊達家浅井家ノ
丁場境ニテ軽キ爭ヒ幕ヲヒテ當時ニ及テモ不遍ク
ルカ如キノ支ヲ知ヘシ侍普請ニテ支成ル支ハ天
正十八年武州熊谷ヨリ本所近ノ土手十七八里ノ長
サ三十日ハカリニ出来シトゾ秀吉公ノ仰付ラレ

次シモ油断スル者ヲ成敗アルヨリ支急ニ出来
セリトイヘリ近ノハ加府ノ内数
陣ノ沙汰アルトキニ出来アリシ外惣構ハ小幡不入ゾ
ナリ尤侍普請シ其以後ニ外
付テ是モ侍普請メリトゾ
怪ノ調ノ當時ノ如キハ小大
用ノ如シトイヘトモ侍普請ヲ
勘定シテ普請役一手ノ勤ム
ハ連年勘定ヲ遂ルナリ
爰ニ述ル者シ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

一陣場奉行普請奉行作事奉行三役高下
有テ相合心カ如シト雖モ畢竟陣場ノ用ヲ弁
スル所ハ同理ニテ定役當座役事役ニ指別ア
下役人モ陣中ノ支ヲ整心本意ヲ不可失ノ支
前ニ委クル通リ三役ハ同役ノ如クニ談ストイヘ共其基タル支ナシ
各其司ル所アリ陣場奉行ハ其基タル支ナシ
ハ敵味方虚實ヲ察シ急緩ノ勢ニヲ知テ地
理ノ善悪ヲ知リ地ノ理ニ先立テ味方ノ利ト成ル
様ニ心得陣場ノ支ハ一人ニ請得タルノ心持ニ

支シ普請奉行ハ陣中常ニ共ニ城内城外共ニ其
利ニ先立テ支ヲ辨シ人足以下ノ支油断ナク速
ニナス支ニ作支奉行ハ是又陣中常ニ共ニ先立
テ利ヲ計リ細密ニ用ヲ辨スル支ニ三役共ニ前ニ
論スルノ趣キ共ノ内主意トスル所ヲ知ヘシ然ニ
支ノ達スルハ唯我一役ノ支ノミカリヲ思フトキハ
實用薄クナルナレハ三役ハ同役ノ如ク互ニ談シテ
支ヲ行フヘキ定役トシテ
心掛ニテ實用ノ変化ニ動搏セスタトヘハ當座
役ニ掛ル者ニテモ其心掛ケアルトキハ勤ル所格別

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

ノ違ニアリ其格別ト云ハ定役ハ前當後三段ノ
様子ヲ計テ前ニノ格ヲ以テ當ノ支ヲ動ノ以来
ノ害ニナラサル様ニナス〳〵ト雖モ發ルヲ治世多クハ定役
ノ者ハ前ニノ格ト流例トニ泥シテ當座ノ用ヲモ辨
シ兼テ後来ノ害トナル〳〵キ支ヲモ改メ不得シ
テ弥害ヲ生スル者多シ當座役ハ前後ノ支ニ不
拘唯指顕レタル支ハカリヲ當座ノ用ヲ弁シ後来ノ害トナラサルヲ簡ヲナスハ當
ミナラス後来ノ害トナル者アリ當座役タル者モ
前例ノ善悪ヲ紀シ知テ不宜流例ハ不用指當ル實
用ヲ弁シ後来ノ害トナラサルヲ簡ヲナスハ當

然ト云〳〵凡本元ニ不迷ト雖モ其志ヒノヨル所
ヲ知〳〵又兼役トシテ勤ルハ定役ニナルヘキ者當
テ無之トキ是ヲ兼シムルニ其人ヲ用ニ玉フノ
心アレハ弥定役當座役ノ心定ヲ合点シ其上ニ前ニ
ノ非ヲ改メテ後ニノ格ト成ヘキ様ニ當發ヲ決
決スヘキ發ルヲ我一分ノ了簡ニ任セテ前後ノ
考モナク速成ノ功ヲ急ニテ支ヲ誤ル者多シ殊
ニ支廣キ役ハ下役人ニハカリ支ヲ任スレハ其手先
ニテ私曲ヲナスヲモ不心付タトヘ少シ心付テモ改
メ難クテ月日ヲレヲ立或ハ下役人ニ不任シテ皆

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

一人ノ心ニナサントスレハ支離ク品多シテ不行届
ナレハ又害多シ故ニ其上ニ違シテ支ヲ御シ法ヲ
定メテ實用ヲ不失ハトキハ自ツカラ下役人モ
人ミノカセキヲナスシ惣シテ相定リタル所ハ不
言不見シテモ支整フシ武功トなハ不言不見所ノ
赤筑ヲ察シ害ノ不起利ノ到ルヲナスヲなス諸役人
皆如此トなへ毛普請方作支方ハ一人ノカラニ非ス
衆力ノ致ス所ニテ形ニ結テ支ヲナシ終リタル跡
或ハ破壊シ又ル跡ニハ千方ノ利害ヲ尽ス毛無益
故ニ別シテ害ノ不到ノ利ヲ察スへシトなハ是シ

陣場奉行ノ心得アシケレハ諸軍ノ毛スル所ヲ
シラ到テ戦功ノ害トナル依之其人ヲ定メ任ヲ重
フシテ利地ノ職トスル支信玄公原隼人佐ヲ陣
場奉行タラシムルカ如シ類シテ可察之シ

附り

陣場奉行其任ヲスル心持ハ畢竟地理ヲ窮
ヌル事

信玄公原隼人佐ヲ陣場奉行トナシモフハ陣
中ノ支隼人佐次第シ信玄公駿府発向薩埵
山ニ於テ北条氏康父子ト正月ヨリ四月迄対陣ニ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

甲府へ通路ヲ敵ニ取切セテ武田ノ諸勢死地ニ
落入タルカ如シ扨四月ニ到テ甲府へ歸陣有ヘキト
隼人佐ニ仰渡サルヽニ菴原ノ谷ニ山道一里半バカリ
ノ所ヲ新ニ道ナキ所ニ道ノ作リ支ナク押通リ
メニヲ諸軍ハ不及云敵方ニモ隼人佐カ工夫ヲ我
ラ折メリ是出陣ナキ以前ヨリ其理ヲ隼人佐カ
詮儀有テ兼テ定メタルカ如此ト
迄人ニ是ヲトカス悉皆隼人佐一人ノ心ニ依テ如此ト
諸人思フトキハ重テ何様ノ地ヘ働キテモ危キ
支ナシト諸勢ニ示スノ心ナリ其仕トシヨリ心賢
ヒ急ニハナリ難シ隼人佐帰リ自他国ノ地形
ノ支ヲ心掛ケ故ニ北條家ヘ毎支ノ節隼人佐ヲ
小田原ヘ使ニ遣ハサルヽ序ニ鎌倉ヘ參詣ノ支ヲ願
ヒテ行歸テ地形ノ様子ハ不及云北條家ノ様子ニ
心ヲ付域ハ鎌倉辺土民ノ支近心ヲ付申上ル信玄公
誉玉フ畢竟三増合戦ノ地形等ハ隼人佐カ考ヘ
多キニ信玄公隼人佐ニ常ニ仰ラルヽ士ハ主人ノ
用ニ立支ハ何ニテモト思フハカリニテハアテトナキニ
何ニテモ一品ハ慥ニ用ニ立ツ様ニ心掛ルモノニト有テ
隼人佐地理ノ支ヲ勤メ志ストノ趣キヲ軍鑑ニ

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用

出之し惣ヲ隼人佐カ人様宜キ者ト見ヘテ軍鑑合
戦ノ巻ニ之上ニ云所板垣弥次郎ヘ異見ノタメニ隼
人佐申サルヽノ趣キヲ見レハ晴信公原隼人佐ヲ召
テ仰ラルヽ其方父加賀守ハ信虎公ヨリ我等ニテ
度ヽノ忠節忠功アル家老ト聞シ然ハ譜代ナレハ心安キ
哉ト然ハ忠節人ノ子ト云譜代ノ者ト云何ヌ付
テモ宥免有ヘシ尤アリテモ赤其方覚悟ダテハ譜代
ヲモ親ノ覚ヲモ思ヘカラス其方ワザ父加賀守ニハル
ハル増ヲ同意シ弓箭ノ走リ廻リ父ト同シ程ナレハ加賀
守ニ抜群ヲトリト存シ常ニ武道ノ心掛大身小身ヲ

ヨラス弓箭ノ穿鑿ヲ能キヲス武士ノ物語ヲ聞
案内者ニ必ス成候ヘトテ委ク述ラレタル趣キ
アリ畧之更ニ軍鑑ニテ可見ト如此弥次郎ヘ異
見ノタメニ隼人佐ニ申聞セラル、隼人佐ハ真實ニ
我身ノ慎ニシテ志ヲ篤フシタリト見ヘタリ陣
場奉行ノ名目ハナケレモ治世ノ侍トテモ地理陣場
ノ変ヲ心掛ハ必ス其任ト成テ主用ヲ施スヘキ
増テ普請奉行作事奉行等ハ其役筋モ近
ケレハ不叶迚モ其理ヲ心掛知ヘシ
武家ニ於テ士ノ勤心不當産シ普請方作事方

ヶ掛り或ハ宿割宿拵ヘ當勞ナル時ヨリ
已不仁依ク我等量ル野ニ立ヲ
悉ク前ニ述ル通リニ是ヲ思フニ
ハ何ニ依テナリ乎我正直ノ智才ヲ顯シ前當後ノ
考テ忠情ヲ尽スハ其本意ニ必ス立身ノ爲ト思フ
ヲナスハ實意ニアラス其勤ル所ノ當然本元ヲ不失
トキハ主モ亦是カ才知ノ程ヲ知テ登揚セラレ衆人
モ是ヲ誉テ不求トイヘ共名ヲ
ヲ士ノ悦フ所トス是ニテ知ルヘシ
ニテ哩キ御身ノトキ信長公急ニ
ニ其普請ハカトラス秀吉公ノ奉行トセラルニ下
場ヲ分テ互ニ情ヲ出ス様ニ奉行セラル以之外早ク
出来セリ是ヨリ以後今ニ到テ丁場分請取普請ノ
支ニ及ヘリ此器量ヲ信長公御覧有テ後秀吉公
御立身ノ端トナリ或ハ秀吉公大佛ヲ建立ノ
トキ加藤清正御普請御手傳タリシニ加藤氏ノ
足輕大將飯田覺兵衛奉行ニテ堀ヲ埋テ石垣ヲ
曳答ナルヲ堀ノ材木ニテ埋或ハ高ミヘ引上ルモ
材木ニテサン橋ヲ作ル大石ヲ引付テ跡ニ其材木ヲ
勝手次第誰ニナリ共取テ行者ニトラセシトカニテ

少シノ間ニ材木ヲ聚メニヨリ其跡本ノ如クニテ手間ヲ不取シ是ヨリ以来今世モ此格ヲ用ヒ来リシ故ニ或ハ又右ノトキ大石動キ兼タルヲ覚兵衛工夫シテ気遣人下手ニヘシトテ雇ニ賃ヲ莫大ニ増テ上手雇賃多ク取ントスルヲ以テ石ヲ引人足ノ心ニ勢ヒ付テ早ク引付テ普請モ早ク出来セシトス傳フ是等ノ品モ今世ニ傳ヘテ諸家ニ用ユルトシ是ニハ限ルヘカラス前ニ委シ述ル趣ヲ以テ何分ノ時変アリ共不速シテ其宜キヲナスヲ本意トスヘキハ是ナリ一端ノ功トスニアラス則是モ兵家ノ一法陣場ノ度量草築ノ城営一ツトシテ武備ノ外ナラサル故ヲ以テ忠節ヲ盡スヘキ者シ

右陣場奉行ノ様ハ甲陽傳来ノ書ニ出ス所ヲ以テ類ヲ寄テ述ルトスルモ戦地彼我ノ勢カヲ計ツテ地理ヲ得テ彼ニ勢ヒヲトラレサルノ品ハ兵法ヲ盡スニアラスハ叶フヘカラス此所ニ述盡シ難シ更ニ其始終ヲ知ヘキシ又普請奉行作支奉行ノ如キハ甲陽ノ書ニ不見トイヘ共今世ヲ以テ考之等ノ趣

キ其所ゝ之カ如シ殊ニ城制ノ法ハ支多シト云ナカラ
急勢専用タル支ヲ粗ゝ論ジ仍テ品類・十章トシ
附章六十箇合テ七十ノ挙目ヲナストイヘ𪜈猶其
細密ノ武功ハ是ニ仍テ工夫イカ程モ有ヘキ故ニ十
役之抄ニ追加シテ「論」之治世ノ士ノ心得メラレカト云尓

右此挙目ハ享保二丁酉年仲夏下旬草之ト云ヘ𪜈兵粮
方之巻ニ云如ク近年ハ他書ニ瞞ナク此草ヲ旨ニ享保六辛丑
年九月七日初筆シテ同月九日ニ六日ニ
トイヘ𪜈述之者シ

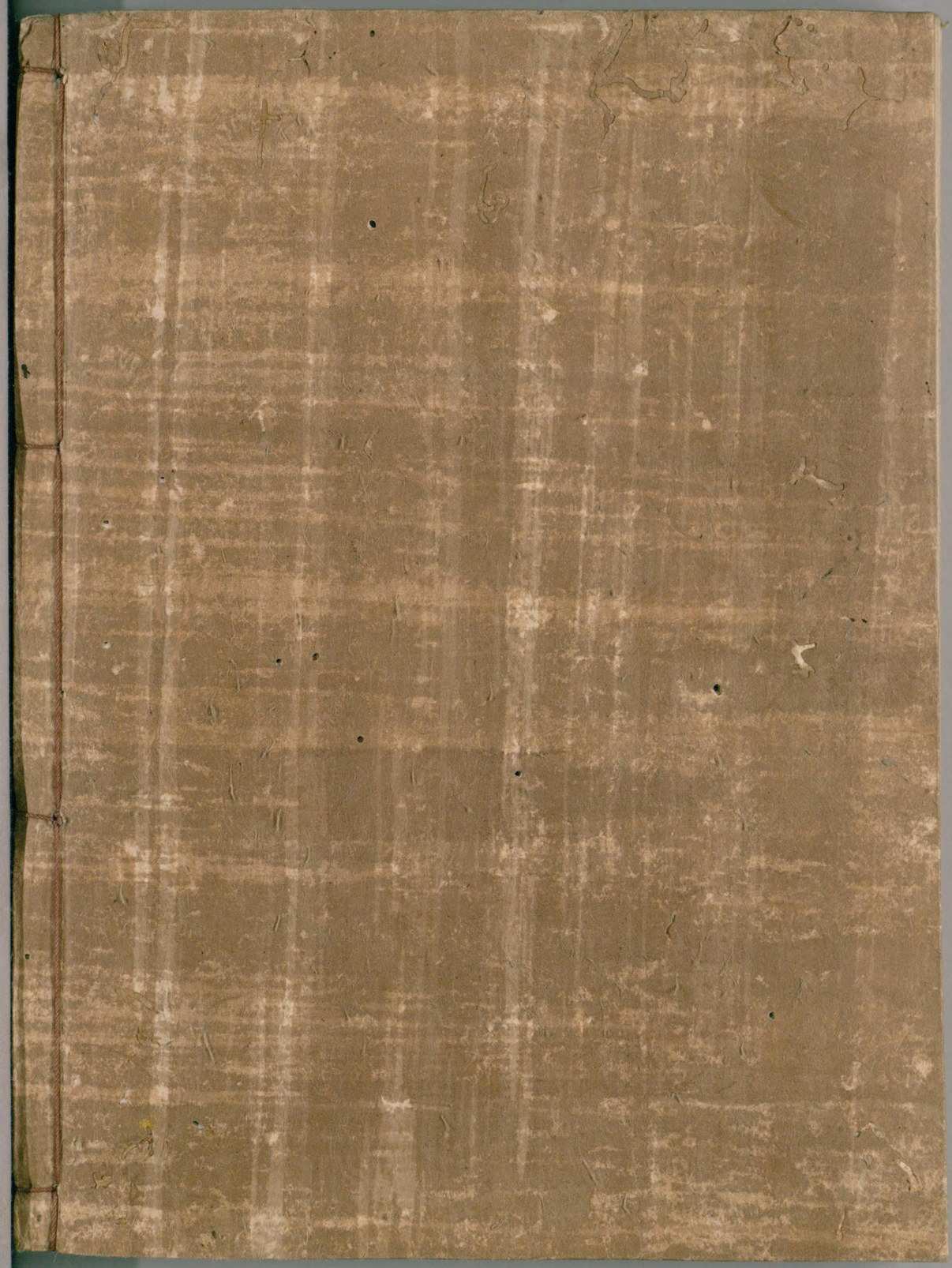
有澤武貞

848
189

右陣場奉行并普請方作支方ノ一巻ハ享保辛丑年九月
七日十一日十三日十四日十五日十七日十八日九一日九三日九谷
書之者如此 同九七日 朱点成

賀及金澤乾隅堀川於栖老亭作之習軒有沢
平武貞字伯赳泰水子書之終

国立国会図書館　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『十役之抄 19巻』 請求記号 848-189

ガラス使用